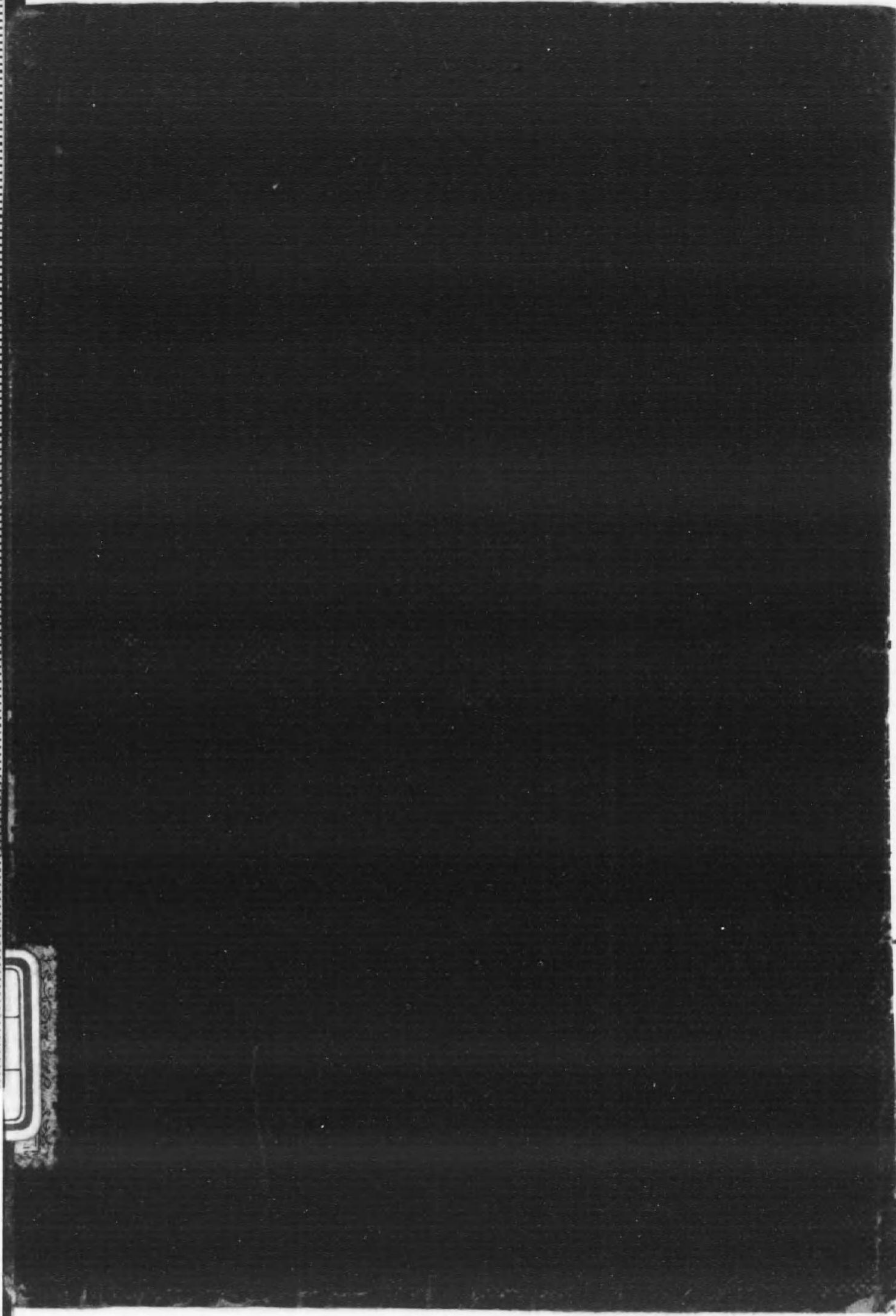
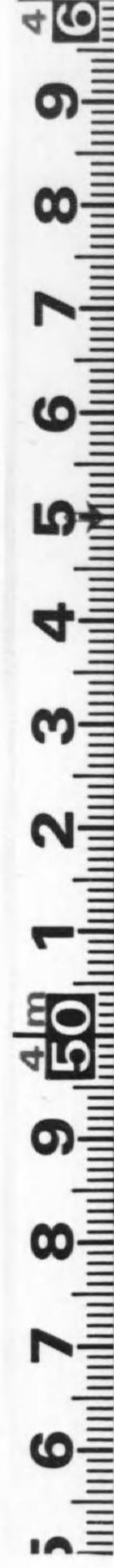
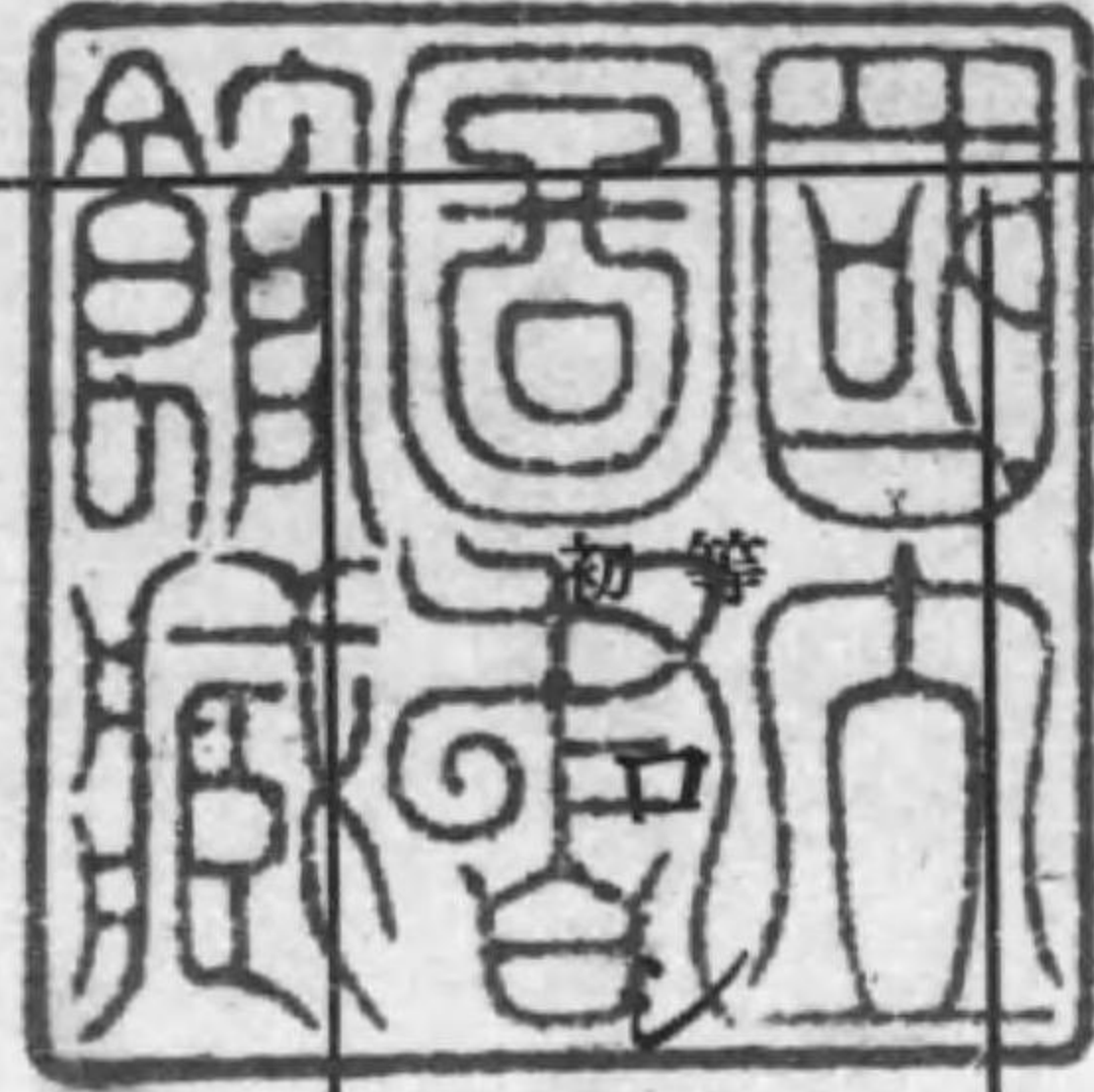


始



880

N 91



昇曙夢著

ヤ語講座

(全)

社會書房

發行者寄贈本

## 序

複雑難解と言はるゝロシア語を小学生にも解るやうに極めて平易に簡明に講述したのが本講座である。そのために内容はロシア語の發音、文法、譯解等を十四講に分ち、複雑な法則を出来る丈簡單化しつゝ講述の歩を進め、初學者をして自然に且つ容易にロシア語の眞髓を理解せしむるやうに努めた。

本講座は單に文法を説くばかりでなく、文法と同時に學修者をして一刻も早くロシア文の譯讀に通ぜしめるのが主眼であるから、そのためには出来るだけ適切な文例と必要な慣用句と簡易な讀み物とを隨所に盛つたばかりでなく、練習問題と應用問題とを豊富にしておいた。そしてそれ等の引用文には成るべく問答體乃至會話體の文章を多く取入れて、學修の傍から直ぐ實習と應用とが出来るとやうに苦心を拂つた。

初等ロシア語といつても所謂初歩さいふ意味でなく、文法は勿論、ロシア語に關する主要な知識は簡單ながら一切網羅してゐるから、學修者にして本講座一冊に通曉したら、普通ロシア語でも高等ロシア語でも容易に會得し得るであらう。

本講座は勿論初學者の爲の自修書ではあるが、その中の振假名と譯文とに頼らないやうにすれば、そのまゝ直ぐに教科書として使用することも出来る。

昭 23. 8. 31

寄 贈

## 目 次

第一講.....	1—12
1. 文字とその名稱——2. 發音の要領	
第二講.....	13—24
1. 五十音,濁音及半濁音の綴方——2. 拗音——3. 力點に就いて——4. 發音の練習——5. 音の對應——6. 母音の特殊發音——7. 子音の特殊發音——8. 綴音の注意——9. 發音練習	
第三講.....	25—38
1. 文章の構成——2. 簡単な文章——3. 主語と客語との連繫(肯定形と否定形)——4. 問答體(對話體)の文章——5. 疑問代名詞 Кто? Что? の活用——6. 名詞の性に就いて——7. 名詞の數に就いて——8. 主語と客語との一致——9. 人稱代名詞の性に就いて	
第四講 助動詞 <b>быть</b> の應用と練習 .....	39—54
1. <b>быть</b> の意義— <b>быть</b> の現在形。2. 客語として使用する場合(肯定式と否定式—疑問式)。3. <b>быть</b> を連繫として使用する場合—疑問式。4. <b>быть</b> の過去形—肯定式過去形—否定式過去形。5. 肯定疑問式過去形—否定疑問式過去形。6. <b>быть</b> の未來形—否定式及び疑問式未來形—句と詞類の配列に就いて。7. 場所及び時に關する副詞。 練習問題	
第五講.....	55—67
1. 名詞の格と變化—生物名詞の變化—無生物名詞の變化。2. 格の應用。3. 名詞の變化式—變化式に就いての注意。4. 所有の意を表はす文章(前置詞 <b>у</b> の應用—所有肯定 <b>у кого?</b> —所有否定 <b>Нет--У кого был?</b> —事物の傍近く存在する意を表はす文章)。	

第六講.....68—80  
 1. 動詞に就いて—動詞の意義—動詞の時—動詞の數—動詞の人稱。2. 動詞の變化(動詞の不定法—動詞の過去形—練習)。3. 動詞の現在變化—練習。4. 動詞の未來形—動詞命令法—練習。

第七講 名詞の格を主とした文章の作り方.....81—92  
 1. 與格 Кому?—目的格 Кого? 2. 目的格 Что?—造格 Чем?—前置格 О ком?, О чём? 3. 目的格 Куда?—前置格 Где?

第八講..... 93—105  
 1. 形容詞に就いて—形容詞の種類—形容詞の語尾—形容詞の用法—形容詞と名詞との關係。2. 客語としての形容詞—斷尾形容詞の作成法—練習。3. 定語としての形容詞—形容詞硬變化—文例—練習。4. 形容詞軟變化—練習。

第九講.....106—120  
 1. 代名詞—人稱に就いて—人稱代名詞の變化—練習—У кого?。2. 物主代名詞—物主代名詞の變化—練習。3. 指示代名詞—再歸代名詞。4. 疑問代名詞—疑問代名詞の變化—練習。

第十講.....121—132  
 1. 關係代名詞—練習。2. 定代名詞—不定代名詞—否定代名詞—練習。

第十一講.....133—145  
 1. 動詞の體(不完了體—完了體—多回體と一回體)。2. 形動詞(能働的形動詞と被働的形動詞—形動詞の變化—形動詞の使用例)。3. 副動詞—練習。

第十二講.....146—160  
 1. 數詞(數詞の種類—數詞の構成—個數詞及び順序數詞)。

2. 數詞の變化—數詞變化の規則。3. 練習。4. 前置詞。

第十三講..... 161—174  
 1. 比較級に就いて—原級—比較級—練習。2. 最大級—練習。3. 時に關する副詞—性質副詞。

第十四講.....175—186  
 1. 前置詞(所有格を要求する前置詞—與格を要求する前置詞—目的格を要求する前置詞—造格を要求する前置詞—前置格を要求する前置詞—目的格及造格の二格を要求する前置詞—目的格及前置格を要求する前置詞—所有格, 目的格及び造格を要求する前置詞—與格, 目的格, 前置格を要求する前置詞)。2. 副詞, 接續詞, 間投詞。

附 錄

I. 會話資料.....189—215  
 II. 各品詞變化一覽表.....216—224  
 III. 書方の練習.....225—227



文字とその名稱

ロシアの文字は三十一字あつて、之を「アベブカ」(アルファベット)と稱する。今これ等の文字の名稱又は呼び方から始める。それは勿論文字の名稱であつて、純粹の發音ではない。尤もその内の母音だけは名稱と發音と大體同一であるが、子音は文字の名稱とその純粹發音とは大分違ふ。それで純粹發音に就ては別に詳しく説明することゝして、茲には先づ次の表に依つて文字の名稱を示すことにする。之を示すに當つて 便宜上各文字の上に日本の片假名で名稱の呼び方(發音)を示し 更に各文字の下に、それに相當するローマ字(括弧内)を當て嵌めておくから 學修者はそれに依つて大體の發音を會得せられたい。次の表は印刷體(楷書體)の文字であるが、表中同じ文字を二つづゝ並べたのは、大文字と小文字との區別を示したに過ぎない。

ロシア字母

Аа (a)	Бб (b)	Вв (v)	Гг (g)	Дд (d)	Ее ёё (ie) (io)
Жж (j)	Зз (z)	Ии йй (i)	Кк (k)	Лл (l)	Мм (m)
Нн (n)	Оо (o)	Пп (p)	Рр (r)	Сс (s)	Тт (t)

ウ Уу (u)	エフ Фф (f)	ヘ Хх (kh)	ツエ Цц (ts)	チュ Чч (ch)	シャ Шш (sh)
シチャ Щщ (shch)	イェルイ Ыы (相當イハ音ナシ)	イェリ Ьь (同前)	エ Ээ (e)	ユ Юю (yu)	ヤ Яя (ya)

- 註 1. 表中 ë は母音 e の上に二つの點を附したもので、この場合は io (io) と發音する。
- 註 2. Я (名稱イストラツコイ) は半母音であるから、母音 И を軽く短かく發音すればよい。
- 註 3. Ы と ь とに大文字が無いのは、この二字は大文字を使用する場合は絶対にないからである。

— 2 —

發音の要領

А а (a)    А (硬母音)

口を相當に大きく開き、舌を少しく後方に引込めて發音する。邦語ア行のア又は英語 far の a と同じ。

Б б (b)    Б (唇音)

上下の唇を堅く閉じ、口腔内に氣息を満たし、その氣息を押し出すと同時に唇を軽く開くやうにして發音する。英語 butter の b と同じ。

Ба      аБ      ба-за (土臺)

- 註 1. 發音中或る母音の上に附した「/」は力點(アクセント)の記號であるから、その母音だけは稍々長く強く發音する。母音が一つしかない一綴音の語には特に力點を附さないが、その母音だけを高める。
- 註 2. 一單語中の横線は發音し易いために綴音を區分したまでのことであるから發音の時は横線は無いものとして讀む。一綴音は子音と母音或は母音と子音から成り、また母音は單獨でも一綴音を構成するから、一單語中の綴音の數は母音の數によつて決定する。
- 註 3. この要領では子音の發音を示すのに、便宜上邦語の假名を使用してゐるが、實を言ふとこれは正確でない。邦語の假名は本來子音と母音との複音であるから、その中から母音を取り去つた残りが純粹の子音の發音となる譯である。然しそれは無音に近いほど低い弱い音で、邦語にはそれを現はす音符がないから、止むを得ず假名を使用することにした。然しローマ字を知つてゐる人は、この假名に頼らずに、括弧内のローマ字に就いて發音の要領を會得して貰ひたい。

В в (v)    В (唇音)

邦語には之に相當すべき音がない。要領は上齒にて軽く下唇を壓したまま、上齒と下唇との隙間から氣息を出すやうにして發音する。英語 vein の v に相當する。

Ва      аВ      ва-за (花瓶)

Г г (g)    Г (喉音)

口を少しく開き、舌を口腔の奥部に引込め、舌の尖端を上顎に觸れないやうにして、喉頭で發音する。その際發音が鼻にかからぬやう注意しなければならぬ。英語 get の g に同じ。

Га      гВа      гаБ      га-Ва

- 註 1. б (ブ) は語尾に於ては н (フ) と發音する。

## Дд (d) F. (齒音)

發音に際して口を少し開き、舌端を上顎前歯の内側に強く押し着け、上顎と舌との間に密閉せる空間を作るやうにして、この空間に氣息を満たし、その氣息にて舌の前部を壓迫すると同時に舌を前歯より離す。英語 done の d に同じ。

ダ (然り)      <sup>ドゥヴァ</sup> два (二)      <sup>ダヴァ</sup> да-ва

## Ee (ie) イエ (軟母音)

口を半分ほど開き、短く軽く軟かに發音する。英語 yet の e と同じ。

<sup>アベ</sup> А-бé      <sup>ベーク</sup> бег<sup>2</sup> (競走)      <sup>ヂェ+ヴァ</sup> дé-ва (處女)

註 2. 濁音が語尾に来る時には多くはその清音に發音する。猶ほ子音の特殊發音の項を参照せられたし。

## Жж (j) ジュ又はジ (上顎音)

露語中最も至難の音にして、佛語 jeu の j に相當す。要領は口を少し開き、舌の尖端を圓く上に折り曲げて上顎の中部に觸れるばかりにし、僅かに上顎と舌端との間に小さな隙間を残して、その隙間から氣息を通ずるやうにして發音する。

<sup>ヴァージ</sup> важ      <sup>ダージュ</sup> да́-же (剩へ)      <sup>ジャバ</sup> жа́-ба (蟪蛄)      <sup>ジャージダ</sup> жа́ж-да (湯)

## Зз (z) ズ (齒音)

上下の歯を軽く喰ひ合せ、口を微かに開き、舌の尖端を下歯の内側に觸れたまま、氣息を眞直ぐに歯の隙間から吐き出すやうにして發音する。英語 zone の z と同じ。

<sup>ザ</sup> за (爲に)      <sup>ガース</sup> га́з (瓦斯)      <sup>ヴァーザ</sup> ва́-за (花瓶)      <sup>ザバーヴァ</sup> за-ба́-ва (娛樂)

## Ии (i) イ (軟母音)

口を軽く開き、舌の中央部を少しく上げ、その兩側を上臼齒に觸れるくらゐにし、舌端と上顎との間には自由に氣息の通ひ得るだけの隙間を残して發音する。英語 meet の ee に同じ。

<sup>イーヴァ</sup> й-ва (柳)      <sup>イズバ</sup> из-ба́ (小舎)      <sup>ヴェディー</sup> ве-ди́ (連れ行け)

## Йй (相當する音なし) イ° (半母音)

軟母音 и の要領にて、その半分くらゐに縮めて軽く短かく發音する。英語 oil の i に同じ。

<sup>ベ-イ°</sup> бей (打て)      <sup>ダ-イ°</sup> дай (與へよ)      <sup>ダヴァ-イ°</sup> да-ва́й (與へよ)

## Кк (k) ク (喉音)

前掲 г の要領と同じく、口を少しく開き、舌を口腔の奥部に引込め、舌端を上顎に觸れないやうにして喉頭で發音する。英語 kisse の k と同じ。





<sup>グロームコ</sup> грóm-ко (高聲に) <sup>ゼールカロ</sup> зёр-ка-ло (鏡) <sup>プラーヴォ</sup> пра́-во (権利)

**Сс** (s) **ス** (齒音)

要領は前掲 **з** と同じく、口を少し開き、舌の先端を下歯の内側に押し着け、上下の前歯の間に僅少の隙間を作り、氣息を前歯に吐きつけるやうにして發音する。英語 safe の **s** と同じ。

<sup>ヴェスナー</sup> вес-на́ (春) <sup>サスナー</sup> сос-на́ (松) <sup>マースロ</sup> ма́с-ло (バター) <sup>スローヴォ</sup> сло́-во (言語)

**Тт** (t) **ト** (齒音)

要領は前掲 **л** と同じく、唇を微かに開き、舌の先端を上歯の内側に強く押し着け、上歯と舌との間に密閉せる空間を作り、この空間に氣息を満たして、その氣息にて舌の前部を壓迫すると同時に、舌を上歯より離すやうにして發音する。英語 turn の **t** と同じ。

<sup>タクダー</sup> тог-да́ (其時) <sup>ガゼータ</sup> га-зе́-та (新聞)  
<sup>トラムヴァーイ</sup> трам-ва́й (電車) <sup>テムノ</sup> тем-но́ (暗く)

**Уу** (u) **ウ** (硬母音)

要領は大體前掲 **о** と同一であるが、**о** よりは更に唇を細く尖らしそれを思ひ切つて前方に突き出したまま明瞭に發音する。英語 moon の **oo** に相當す。

<sup>クダー</sup> ку-да́ (何處へ) <sup>ブールカ</sup> бу́р-ка (パン) <sup>ルカー</sup> ру-ка́ (手)

<sup>ザスルーガ</sup> за-слу́-га (功績)

**Фф** (f) **フ** (唇音)

要領は前掲 **в** と同じく、上歯にて軽く下唇を壓し、上歯と下唇との隙間から氣息を吹き出すやうにして發音する。英語 effect の **f** に相當す。

<sup>コーフェ</sup> ко́-фе (珈琲) <sup>ファーブリカ</sup> фа́-бри-ка (工場)  
<sup>フファーイカ</sup> фу-фа́й-ка (毛織のシャツ)

**Хх** (kh) **フ** (喉音)

口を相當に開き、舌を稍々後方に引込め、喉の奥から上顎の中部に向けて、氣息を強く吐き出すやうに發音する。この音は邦人にとつて最も困難で、屢々 **ф** と混同し易いから、兩者の發音要領に就いて特に注意が必要である。獨逸語 dich の **ch** と同じく、成るべく **к** に近く發音するがよい。

<sup>ムーハ</sup> му́-ха (蠅) <sup>ブローホ</sup> плó-хо (悪く) <sup>スタルーハ</sup> ста-ру́-ха (老婆)  
<sup>ホーロドノ</sup> хо́-лод-но (寒く) <sup>ティーヒイ</sup> ти́-хий (静かなる)

**Цц** (ts) **ツ** (齒音)

この音は本來 **т** と **с** との複合音 **тс** (ツ) である。發音の要領も亦 **т** 及び **с** と全く同一で、英語 masts の **ts** に相當する。

リツェー      ツァリーツァ      パラチーンツェ  
 ли-цѐ(顔) ца-рѝ-цá(皇后) по-ло-тѣн-це(手拭)

Чч (ch)    チ (上顎音)

上顎音 ж の要領と略同じく、發音に際して口を少し開き、舌を圓く上に折り曲げて、その尖端を上顎の稍々前部に押着け、舌と上顎との間に存する空間に氣息を満たし、その氣息にて舌を壓迫すると同時に舌の尖端を上顎より離す。英語 charm の ch と同じ。

ダーチャ      ベーチャ      チャイ  
 да-ча (別荘)    пѣч-ка (暖爐)    чай (茶)

ポーチタ      チェルニーラ  
 по-ч-та (郵便)    чер-нѝ-ла (インク)

Шш (sh)    シュ又はシ (上顎音)

要領は ч と大體同じく、舌の左右兩端を軽く上臼齒に觸れ、舌と上顎との間に小さな隙間を作り、この隙間に氣息を通ずるやうにして發音する。英語 shut の sh と同じ。

シューバ      コーシカ      マシーナ  
 шѹ-ба (毛皮外套)    ко-ш-ка (猫)    ма-шѝ-на (機械)

Щщ (shch)    シチ (上顎音)

この音は本來 ш と ч との複合音であるから、發音に際してもこの二音の要領による。即ち先づ舌と上顎との間の空間に氣息を通じて ш を發音し、直ぐ續いて舌の尖端を上顎に觸れ、再び氣息を通ずると同時に舌端を上顎から離して ч を發音する。その際二つの音が

離れないやうに注意しなければならぬ。

シチー      シチュカー      シチューフ  
 щи (スープ)    ще-ка́ (類)    щѹ-ка (魚の名)

ピーシチ      プラシチーイテ  
 пѝ-ща (食物)    про-щáй-те (左様なら)

Ыы (相當する音なし)    ヴィ (硬母音)

口を少し開き、舌を稍々後方に引込め、口腔内何れの部分にも觸れないやうにして發音する。邦人はこの音を重く發音する傾きがあるが、成るべく軽く、心持 и に近く發音するやう心掛けねばならぬ。

ムイロ      クルィーシャ      スィーン  
 мы-ло (石鹼)    кры-ша (屋根)    сын (息子)

トイ      プリヴィーチカ      ルィーノク  
 ты (汝)    при-вы-чка (習慣)    ры-нок (市場)

Ь (軟音符)

ローマ字にも邦語にも之に相當する音がない。以前硬音符 ъ (今は廢されて字母の中に無い) に対して、Ь は軟音符と稱せられ、本來無音であるが發音の際その直前に立つ子音を乗ける役目を持つて居る。それ故に成る子音の直ぐ後に Ъ が立つてゐたら、Ь を軽い短い и の心持で、その前の子音を乗けて發音する。

マータ      オーシェニ      パリトー  
 мать (母)    о-сень (秋)    паль-то́ (外套)

ゴークキイ      チターチ  
 Горь-кий (人名)    чи-тáть (讀む)

Ээ (e) э (硬母音)

【適當に開き、舌の尖端を下前歯の内側に押し着け、上臼歯と舌との間側は觸れるやうにして、強く發音する。英語 men の e に同じ

エート エスカードロ バエーラ  
 ЭТО (此の) ЭС-КА-ДРО (艦隊) ПО-ЭТ (詩人)

エクザーメン アエロプレーン  
 ЭК-ЗА-МЕН (試験) А-Э-РО-ПЛАН (飛行機)

Юю (yu) ю (軟母音)

本來 y と u との複合音であるが、發音の際は、口を圓く尖らし、十分に突き出して、一息に明瞭に發音する。英語 mute の u に相當す。

ビュロー クリューチ リュームカ  
 БЮ-РО (事務局) КЛЮЧ (鍵) РЮМ-КА (洋杯)

ユーノシャ シュダ  
 Ю-НО-ША (青年) СЮ-ДА (此處へ)

Яя (ya) я (軟母音)

これも y と a の複合音であるが、この二音を離さずに一息に發音する。その際 y は極めて短く弱く發音し、a の力を入れるやうにする。英語 yard の ya に同じ。

ヤーブロコ ミャーソ ブーリャ  
 Я-БЛО-КО (枱檯) МЯ-СО (肉) БУ-РЯ (嵐)

ヂャーヂャ ニヂャーリャ  
 ДЯ-ДЯ (叔父) НЕ-ДЕ-ЛЯ (週)

第二講

— 1 —

五十音、濁音及半濁音の綴り方

以上で發音の要領は済んだから、次に邦語の假名の綴り方を示しておく。學習者はこれに就いて更に綴字發音の練習をして貰いたい。

五十音

ア	イ	ウ	エ	オ
а	и	у	э	о
カ	キ	ク	ケ	コ
ка	ки	ку	кэ	ко
サ	シ	ス	セ	ソ
са	си	су	сэ	со
タ	チ	ツ	テ	ト
та	чи	цу	тэ	то
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
на	ни	ну	нэ	но
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
ха	хи	фу	хэ	хо
マ	ミ	ム	メ	モ
ма	ми	му	мэ	мо
ヤ	イ	ユ	エ	ё(йо)
я	и	ю	е	ё(йо)



<sup>ヴ</sup> ВЯ	<sup>ВЮ</sup> ВЮ	<sup>ВЫ</sup> ВЫ	<sup>ВЁ</sup> ВЁ	<sup>ВЬ</sup> ВЬ
<sup>ЗЯ</sup> ЗЯ	<sup>ЗЮ</sup> ЗЮ	<sup>ЗЫ</sup> ЗЫ	<sup>ЗЁ</sup> ЗЁ	<sup>ЗЬ</sup> ЗЬ
<sup>ДЯ</sup> ДЯ	<sup>ДЮ</sup> ДЮ	<sup>ДЫ</sup> ДЫ	<sup>ДЁ</sup> ДЁ	<sup>ДЬ</sup> ДЬ
<sup>БЯ</sup> БЯ	<sup>БЮ</sup> БЮ	<sup>БЫ</sup> БЫ	<sup>БЁ</sup> БЁ	<sup>БЬ</sup> БЬ
<sup>ПЯ</sup> ПЯ	<sup>ПЮ</sup> ПЮ	<sup>ПЫ</sup> ПЫ	<sup>ПЁ</sup> ПЁ	<sup>ПЬ</sup> ПЬ
<sup>ФЯ</sup> ФЯ	<sup>ФЮ</sup> ФЮ	<sup>ФЫ</sup> ФЫ	<sup>ФЁ</sup> ФЁ	<sup>ФЬ</sup> ФЬ

註。以上の揚音の各行の最後の發音を示した邦語の假名の右上に・を附したものは、その假名の半分位に短く軽く發音することを示したものである。

— 3 —

力點 (Ударение) に就いて

學習者は今までのところで、各單語中の或る一つの母音の上に記号 ['] を附してあるのに氣附かれたであらう。そしてそれが力點 (Ударение) であることも既に説明しておいた。その様にロシア語は一語中必ず聲を張り上げて強く發音する一つの綴音があつて、これを力點 (英語のアクセント) といふのである。力點は或る母音の上記号 ['] を附して示してあるから、その母音だけは特に長く、聲を高めて發音しなければならぬ。特に初學者は不自然と思はるほど思ひ切つて聲を長く引張る方がすらすらと發音が出来る。

その代り力點を有さない他の母音は心持弱く發音する。例:

<sup>シユ</sup>сестра (姉妹)    <sup>ウチ</sup>учитель (教師)    <sup>ブマ</sup>бумага (紙)

力點はロシア語で最も困難な約束の一つであるが、之に関する一定の法則がないから、學修者は各單語に就いて實地に習得する外に道がない。而もロシア語では往々同じ綴りの語で、力點の相違によつて意義を異にするものがあるから、特に注意しなければならぬ。

例へば:

<sup>ザモク</sup>замок (錠) と <sup>ザモク</sup>замок (城)、<sup>ムカ</sup>мука (粉) と <sup>ムカ</sup>мука (苦痛)、<sup>ドロガ</sup>дорога (道路) と <sup>ドロガ</sup>дорога (高價なり) のやうなものである。

— 4 —

發音の練習

學修者はここらで一つ前述の要領で、次の地名人名の發音を練習して御覽なさい。

Рѣссия	Владивосток	Толстой
Япония (日本)	Токио	Горький
Китай (支那)	Ёкохама	Пушкин
Корея (朝鮮)	Осака	Гоголь
Маньчжурія (滿洲)	Кобе	Тургенев
Сибирь (シベリア)	Сайто	Гончаров
Монголия (蒙古)	Араки	Достоевский
Москва	Учида	Сталин
Харбин	Мацуока	Троцкий

## 音の對應

ロシア語では母音でも子音でも、或る音と音とが互ひに對應する。之を對應音といふのである。音の對應は一見何でもないやうであるが、品詞の語尾變化の際、或る音は聲調を快くする關係上往々その對應の音に變ることがあるから、一應このことを辨へておくのは、文法の學習上極めて必要なことである。

先づ母音の對應に就いて言ふと、母音には硬母音と軟母音とがあつて、硬軟互ひに對應する。

硬母音 а о у ы э

軟母音 я е ю и

母音の硬軟は上下相對するもので、例へば а は я に對する硬母音、я は а に對する軟母音といふが如きものである。然し э には對應の軟母音がない。以上九つの母音の外は皆子音である。

子音の對應には次の如き三つの場合がある。

## 1. 清音と濁音との對應(上下)

清音	п	ф	т	с	ш	к
濁音	б	в	д	з	ж	г

## 2. 喉音と上顎音との對應(上下)

喉音	г	к	х	ск
上顎音	ж	ч	ш	щ

## 3. 齒音と上顎音との對應(上下)

齒音	д	з	с	т	ст	ц
上顎音	ж, жд	ж	ш	ч	щ	ч

註。喉音及び齒音は語尾變化の際、その對應の上顎音に轉ることがある。また齒音 т は喉音 г 或は к と合する時は上顎音 ч に變じ、齒音 д 又は т と合する時は с に轉ることがある。例へば：

г+т=ч, к+т=ч; д+т=с, т+т=с

## 母音の特殊發音

1. 母音 а は上顎音 ж, ч, ш, щ の直後に立ち且つ力點を有たない場合には殆んど е のやうに發音する。例へば：

часы — часы (時計)    лошадь — лошедь (馬)  
ужас — ужес (戦慄)

2. 母音 е は力點を有する場合多くは ё と發音する。この場合には普通 е の上に「..」を附してその符號とする。例へば

берёза — берёза (白樺)    её — её (彼女の、彼女を)  
ёлка — ёлка (クリスマスツリー)    твёрдо — твёрдо (堅く)

3. 母音 о は一單語中力點を有する母音の前に在る時は а に近く發音する。但し о が力點を有するか又は力點を有する母音の後に立つ場合は本來の通り發音する。例へば：

вода — вода (水)    дорога — дарога (道路)  
отец — атец (父)    хорошо — харашо (良く)  
Гоголь — Гоголь (人名)    яблоко — яблоко (林檎)

4. 母音 я は力點を有たない時には殆んど е のやうに發音する。例へば：

японец — епонец (日本人)    яйцо — ейцо (鶏卵)







ложка (匙) ロシカ	лодка (小舟) ロフカ	луна (月) ルナ
земля (土地) ゼムリヤ	земляк (同郷人) ゼムリヤク	землячество (郷人會) ゼムリヤチェスツヴ
любовь (愛) リュボフ	стул (椅子) Стул	стол (机) Стул
мель (浅瀬) メル	мельница (水車屋) メルница	учитель (教師) ウチチュ
неприятель (敵) ネプリアチュ	рак (海老) ラク	рис (米) リス
рука (手) ルカ	ружьё (小銃) ルヂヨ	река (河) レカ
рюмка (酒杯) リュムカ	родина (故郷) ロディナ	ряд (列) Ряд
рыба (魚) Рыба	завтра (明日) Завтра	хлеб (パン) Хлеб

## 第三講

## — 1 —

## 文章の構成

前講で發音と綴りと読み方とは大體會得されたことと思ふ。そこでこれから意々文章の譯解に入るのであるが、その前にロシア文の構成に就いて簡単に説明しておく必要がある。

本來句はいくつかの單語から成り、何等かの思想を表明した文章である。例へば茲に「生徒は」(ученик)といふ語と「読んでゐる」(читает)といふ二つの語があるとする。この二つの語は互ひに離れ離れになつて居る間は何の連絡もない單語であつて、また何等の纏つた思想をも表明してゐないが、この二語を結合して「生徒は読んでゐる」(ученик читает)と云へば、茲に始めて生徒が何うして居るかを説明する句となるのである。

句の單位即ち句を構成する要素は主語と客語である。その中の何れか一つ缺けても句を成さない。凡そ獨立の句たる以上は何んな簡單な句でも必ず主語と客語から成立つて居る。この二要素さへあれば他の語は無くとも獨立の句たるに於て差支ない。前例に於て「生徒は」(ученик)は主語で、「読んでゐる」(читает)は客語である。

主語とは句の主體で、一句中主位に立つところの語がそれである。凡て句の中には必ず一つの主語があつて、他の語は要するに主語を説明してゐるに過ぎない。主語に立つ語は主として疑問代名詞「誰か」(кто?)、「何が」(что?)といふ問に應ずる名詞及びその他の品詞の主格(原形)である。

生徒は読んである。<sup>ウチニク</sup> (Ученик читает)  
 熊は野獣である。<sup>メドベヂ</sup> (Медведь — зверь)  
 天気は好い。<sup>Погода хороша</sup> (Погода хороша)

是等の句に於て「生徒」、「熊」、「天気」は何れも主語である。

客語は主語に對して、主語の種類、性質及び動作を説明する語である。だから客語は常に文句中に於て「主語は何であるか」、「主語は何をして居るか」といふ問に答へる。前例に於て「読んである」、「野獣である」、「好い」は何れも客語である。上掲第二句の如く名詞が客語となつてゐる時、主語と客語とを結ぶ連繫として助動詞 *быть* の現在形 *есть* (ある、である) を使用すべきであるが、現在形文章に於ては特別必要の場合の外は大抵これを省略して、その代りに横線を入れてもよし、入れなくともよいことになつてゐる。猶ほ詳細は次の主語と客語との連繫の項を参照されたい。

次に人稱代名詞及び名詞を主語として、同じく名詞を客語として簡単な文章を作つて見よう。

— 2 —

簡単な文章

人稱代名詞は名詞に代るところの人稱であつて、各人稱には單數と複數とがあり、單數の第三人稱には性の區別 (男性・女性・中性) もある。

人稱代名詞

	單數	複數
第一人稱	Я (私、僕)	Мы (私達、僕達)
第二人稱	Ты (汝、君)	Вы (汝等、君達、貴君)

第三人稱 { ОН (男性=彼)  
 ОНА (女性=彼女) ОНИ (彼等、彼女等)  
 ОНО (中性=彼)

Я ученик 私は生徒である	Я ученица. 私は女生徒である
Ты учитель. 汝は教師である	Ты учительница. 汝は女教師である
Он писатель. 彼は作家である	Она писательница. 彼女は女流作家である
Лев — зверь. 獅子は獸である	Собака — животное. 犬は畜類である
Дом — здание. 家は建物である	Сосна — дерево. 松は樹木である
Роза — цвет. 薔薇は花である	Тургенев — писатель. トルゲニエフは作家である
Волга — река. ヴォルガは川である	Токио — столица. 東京は首府である
Иокохама — город. 横浜は都會である	Урал — гора. ウラルは山である
Ворона — птица. 烏は鳥である	Щука — рыба. シチューカは魚である

— 3 —

主語と客語との連繫 (肯定形と否定形)

主語と客語との意義は上記の各文章で明瞭になつたと思ふ。然らばそれ等の文章に於て主語と客語とを結ぶ連繫の語は無いかといふ

に、それは無いことはない。本来助動詞 **быть** (在る) の現在變化の單數 **есть** (...なり、...である) が連繫として主語と客語との間に立つことになつてゐる。けれどもロシア文では特に必要ある場合の外は **есть** を省略するのが普通になつてゐる。その代りに上記の文章にも見る通り横線 (—) を入れることもあるが、これは是非然うしななければならぬといふ約束があるのではなく、要するに何うでもいのである。

**есть** は無論肯定形で、その否定形は **есть** の前に否定詞 **не** (ない) を附して **не есть** (...にあらず、...でない) となるが、これも現在形である以上 **есть** を省いて、結局 **не** だけが残ることになる。

イェスチ	ニェ	イェスチ	ニェ
<b>есть.</b>	<b>не</b>	<b>есть.</b>	<b>не.</b>
(...である)	(...でない)	(...である)	(...でない)

エート	イェスチ	クニガ	ニェ	エート	クニガ
<b>Это</b>	<b>есть</b>	<b>книга.</b>	<b>=</b>	<b>Это</b>	<b>— книга.</b>
これは	である	本		これは	本である

エート	ニェ	イェスチ	クニガ	ニェ	エート	クニガ
<b>Это</b>	<b>не</b>	<b>есть</b>	<b>книга.</b>	<b>=</b>	<b>Это</b>	<b>не книга.</b>
これは	でない	本		これは	でない本	

エート	ペロ	ニェ	ペロ		
<b>Это</b>	<b>(есть)</b>	<b>перо.</b>	<b>Это</b>	<b>не (есть)</b>	<b>перо.</b>
これは		ペンである	これは	でない	ペン

エート	ペロ	ア	ニェ	カラндаш
<b>Это</b>	<b>перо,</b>	<b>а*</b>	<b>не</b>	<b>карандаш.</b>
是は	ペン尖である、然し	ない		鉛筆では

エート	ニェ	ストール	ア	ニェ	stuhl
<b>Это</b>	<b>не</b>	<b>стол,</b>	<b>а</b>	<b>стул.</b>	
是は	ない	机では、然し		椅子である	

オン	ウチーチュリ	ア	ニェ	ウチニク
<b>Он</b>	<b>учитель,</b>	<b>а</b>	<b>не</b>	<b>ученик.</b>
彼は	教師である、然し	ない		生徒では

オン ニェ ウチニク アウチーチュリ  
**Он не ученик, а учитель**  
 彼は ない 生徒では、然し 教師である

\* a は接續詞で「然し」と譯し、多く反對の意を表はす場合に使用する。

### 問答體 (對話體) の文章

問答體の文章は直ぐ實地の對話に役立つから、その練習は極めて必要である。

問の文章には普通疑問を含んでゐる語の直後に疑問小詞 **ли** (乎) を附する。尤も疑問文は之を文章に書いた場合には必ずその最後に疑問符〔?〕が附いて居り、對話の際には表情で判るから、特に疑問小詞を附ける必要はない。殊に文章の最初に疑問代名詞又は疑問副詞が立つてゐる場合は、既にそれだけでも疑問文だといふことが判るから、猶更疑問小詞の必要はない。然しこの最後の場合を除く外は疑問小詞を入れても決して悪いことはない。要するにその時の調子次第で入れても入れなくてもよいことになつてゐる。それから疑問文章では疑問を含んだ語を文章の冒頭に置くことになつてゐるから注意 要する。

答の文章では、文章の上でも對話でも、相手の問を肯定する場合には普通肯定詞 **да** (さうです) を文章の最初に置き、相手の問を否定する場合には否定詞 **нет** (さうでない) を文章の冒頭に置いて、それから答へることになつてゐる。その際 **да** と **нет** の後に半點符號〔,〕を附することを忘れてはならぬ。

ダ	ニェ
<b>да</b> (然り=肯定)	<b>нет</b> (否=否定)
リ	イーリ
<b>ли</b> (乎=疑問小詞)	<b>или</b> (或は、若くは)

クニガ リ エート  
Книга ли это?  
本です か 是は

クニガ リ エート  
Книга ли это?  
本です か 是は

ペロ リ エート  
Перо ли это?  
ペン尖ですか 是は

ウチニク リ オン  
Не ученик ли он?  
ない 生徒では か 彼は

ウチニク リ オン  
Не учитель ли он?  
ない 教師では か 彼は

エート ヴラベイ イーリ チェーヴォノク  
Это воробей или жаворонок?  
是は 雀か 或は 雲雀か

エート ヴラベイ А Не Чиーヴォнокт  
Это воробей, а не жаворонок.  
是は 雀である、然し ない 雲雀では

エート Не Чиーヴォнокт А Урабей  
Это не жаворонок, а воробей.  
是は ない 雲雀では、 然し 雀である

ダ エート クニガ  
Да, это — книга.  
然り 是は 本です

ニエツ エート Неクニガ  
Нет, это не книга.  
否 是は ではない本

ニエツ エート Неペロ Аルーチカ  
Нет, это не перо, а ручка.  
否 是は ないペン尖で、然しペン軸です

ダ オン ウチニク  
Да, он ученик.  
然り 彼は 生徒である

ニエツ オン Неウチニク  
Нет, он не учитель.  
否 彼は ない 教師では

疑問代名詞 Кто? Что? の活用

疑問代名詞 Кто? (誰、何者)、Что? (何、何物) を使用して簡単な疑問文章を作つて見よう。豫め注意しておくが、Кто は生物に對する問であり、Что は無生物に對しての間であるから、この區別を忘れてはならぬ

クトー  
Кто? (誰、何者)

エート  
ЭТОТ (この=男性)

エータ  
ЭТА (この=女性)

エート  
ЭТО (この=中性)

クトー エート ヴラベイ  
Кто этот господин?  
誰ですか この 紳士は

クトー エータ ガスバチー  
Кто эта госпожа?  
誰ですか 此の 夫人は

クトー エータ Барышня  
Кто эта барышня?  
誰ですか 此の 令嬢は

クトー トイ  
Кто ты?  
誰ですか 君は

クトー オン  
Кто он?  
誰ですか 彼は

クトー スナー  
Кто она?  
誰ですか 彼女は

クトー エート エート ストール ストール Даскар  
Что это? Это — стол, стул, доска.  
何ですか これは これは 机です、椅子です、黒板です

ストール リ エート  
Стул ли это?  
椅子ですか 是は

ニエツ エート НеСтул АСтул  
Нет, это не стул, а стол.  
否 是は ない 椅子では、然し 机です

グラндэш リ エート イーリ ペロ  
Карандаш ли это или перо?  
鉛筆です か 是は 或は ペン尖ですか

エート Карандаш Эート Пеロ  
Это карандаш. Это перо.  
是は 鉛筆です 是は ペン尖です

エート ガスバディン イヴァノフ  
ЭТО господин ИВАНОВ.  
是は 氏です イヴァノフ

エート ガスバチー イヴァノва  
ЭТО госпожа ИВАНОВА.  
是は さん(夫人)です イヴァノワ

エート Барышня ИВАНОВА  
ЭТО барышня ИВАНОВА.  
是は さん(令嬢)です イヴァノワ

ヤ ウチニク  
Я ученик.  
私は 生徒です

Он Учитель.  
Он учитель.  
彼は 先生です

Ана Ученица.  
Она ученица.  
彼女は 女學生です

エート = カランダシ = ペロア リニエーカ  
 Это ни<sup>2</sup> карандаш, ни<sup>2</sup> перо, а линейка.  
 是は でもなく 鉛筆 でもなく ペン尖、然し 定規です

エート アクノー イーリ ドヴューリ  
 Это окно или дверь?  
 是は 窓ですか 或は 扉ですか

エート アクノー А нь Доввэри  
 Это окно, а не дверь.  
 是は 窓です 然しない 扉では

チトー ЗЧешн ЗЧешн Фле-А И Марсро  
 Что здесь? Здесь хлеб и масло.  
 何です こゝにあるのは こゝにあるのは パン と バタです

クトー Там Там Отец и работник.  
 Кто там? Там отец и работник.  
 誰です 彼處に居るのは 彼處に居るのは 父 と 下男です

- 註 1. 凡て人名地名等の固有名詞の頭文字は大文字にする。  
 2. ни は否定接續詞で、一句中二つ以上重なつて使用されてゐる時は「…も、…もない」といふ意。  
 3. и は接續詞で、英語の and と同じく、及びとか、そしてと譯する。

名詞の性に就いて

ロシア語の名詞は他の歐洲語(日本語には無いことだが)と同じく凡て性を持つてゐる。性には男性、女性、中性と三つの區別がある。即ち或名詞は男性で、或名詞は女性、また或名詞は中性と定まつてゐる。而して名詞が是等三性中孰れに屬するかを識別するには其の語尾さへ見れば直ぐ判ることになつて居るから、此の點はロシア語に於ては極めて便利である。然るに人間に關する或生物名詞の性は全然語尾に關係なく、其語の意義によつて之を知らなければならぬ。即ち男子のみ能くすべき職業又は身分を表示して居る語は、たとへ語尾が女性であつても其の意義によつて男性に屬する。例へば、

ロエвода (將軍).	Судья (裁判官)	Вельможа (大官)
Староста (村長).	Дедушка (祖父)	Юноша (青年)
Дядя (伯父).	Слуга (家僕)	Зять (女婿).
Гость (客).		

等は語尾を見ると女性であり、變化も女性名詞の變化に屬する。文法上男性として取扱ふのである。

其他の名詞の性は語尾(即ちまだ變化しない前の原形の語尾)によつて定めることが出来る。性の語尾は次の通りである。

男性名詞の語尾: 子音, я, ъ

女性名詞の語尾: а, я, ъ

中性名詞の語尾: о, е, ия

男性語尾に子音とあるのは、凡て子音に終つてゐる名詞は男性といふ意味である。今單語を以て之を示せば次の通りである。

男性名詞:	Стол (机),	случай (機會),	Конь (馬).
	Ученик (生徒),	разбой (強奪),	государь (君主).
	Дом (家),	край (端, 邊),	учитель (教師).
女性名詞:	Вода (水),	пуля (銃丸),	лошадь (馬).
	Комната (室),	неделя (週),	соль (鹽).
	Жена (妻),	змея (蛇),	кость (骨).
中性名詞:	Слово (語),	поле (野原),	имя (名).

チーロ	モーリ	ヴルーミヤ
тѣло (身體),	море (海)	время (時).
シロー	ズナーニ	シューミヤ
село (村),	знаніе (智識),	семя (種子).

生物名詞で性の男女孰れに屬するか識別することの出来ないものは中性名詞に屬する。дитя (子供)、чудовище (怪物) 等の如し。

【注意】 中性語尾 «мя» を女性語尾 «я» と混同しないやうに注意しなければならぬ。я の前に м が來て мя となつて居る時は前例に見るが如く中性語尾である。

半子音 «ь» は男性語尾にも女性語尾にもあつて、單に語尾だけを見ては男女孰れに屬するか判断に苦しむことがある。然し語尾は同じでも、語尾變化は後に示すが如く男女全く異つて居るから、さういふ場合には變化式を見れば直ぐ區別がつくことになつて居る。つまり語尾變化の單數第二格(所有格)に於て а 又は я の語尾を取るのが男性で、и の語尾を取るのが女性である。其の實例は後章の名詞變化に就いて見れば直ぐ判る。

— 7 —

名詞の數に就いて

名詞は單數と複數と二つの數を持つて居る。單數は一個の事物を指す時に使用し、二個以上の事物に關する時は複數を用ゆる。單數と複數とは各々語尾を異にし、男性及び女性名詞は何れも複數(第一格)に於て ы 又は и の語尾を取り、中性名詞は а 又は я の語尾を取る。例へば

	單數	複數	
男性名詞	стол	стол-ы	(机)
	случа-й	случа-и	(機會)
	кон-ь	кон-и	(馬)

	單數	複數	
女性名詞	вод-а	вод-ы	(水)
	пул-я	пул-и	(銃丸)
	лошад-ь	лошад-и	(馬)
中性名詞	слов-о	слов-а	(語)
	пол-е	пол-я	(野原)
	й-мя	им-ен-а	(名)

註. 上掲單語中の横線は單に語根と語尾との區別を示したに過ぎないから、發音の時は横線は無いものとして讀む。今後も同じことである。

日本語に於ては一個の事物を指す時は普通「一個の」といふ數詞を使用することになつて居るが、ロシア語に於ては單數の語尾さへ使用すれば特に一個といふ數詞を用ゐなくとも其の意義が通ずる。であるからロシア語に於ては一個の何々といふ場合には一といふ數詞を用ゐないことが多い。然し之を日本語に譯する場合には特に一といふ數詞を加へなければ意義 明瞭を缺くことがあるから注意しなければならぬ。

— 8 —

主語と客語との一致

主語と客語との意義に就いては先に述べておいたが、この兩者はその性に於ても數に於ても互ひに一致すべきものである。即ち主語が男性なる時は客語も男性、主語が女性なる時は客語も女性、主語が中性なる時は客語も中性であり、又主語が單數の時は客語も單數、主語が複數の時は客語も複數でなければならぬ。日本語ではこの關係が極めて曖昧であるが、ロシア語では客語の性と數とは必ず主語の性と數とに従ふべきものである。今之を文例で示すと次の通りである。

ある。

單數	複數
Я — ученик. 私は生徒である	Мы — ученики. 私達は生徒達である
Ты солдат. 君は兵卒である	Вы солдаты. 君達は兵卒達である
Он учитель. 彼は教師である	Они учителя. 彼等は教師達である
Она учительница. 彼女は女教師である	Они учительницы. 彼女達は女教師達である
Волк зверь. 狼は獣である	Волки звери. 同 前
Роза цвет. バラは花である	Розы цветы. 同 前
Ворона птица. 鳥は鳥である	Воробьи птицы. 同 前

### 人稱代名詞の性に就いて

人稱代名詞の一人稱には性の區別がなく、男性も女性も共に я (單數) 及び мы (數複) を使用することが出来る。二人稱も同じく性の區別がなく、男女何れに対しても ты (單數) 及び вы (數複) を使用することが出来る。然るに三人稱の單數には三つの性の區別がある。即ち男性のものを指す時には он (彼)、女性のものを指す時には она (彼女)、中性のものを指す時には оно (彼) となる。本來人稱代名詞は名詞の代りに使用する品詞であるから、名詞に性の區別がある

以上、人稱代名詞にもその區別があるのは當然である。然し三人稱の複數には性の區別がなく、они (彼等) の一つきりで、三性に共通する。

Кто ты? (お前は何者だ)	Я ученик. (男性=單數) (私は生徒です)
Кто вы? (お前達は何者だ)	Я ученица. (女性=單數) (私は女生徒です)
Мы ученики. (複數) (私共は生徒です)	Мы ученицы. (複數) (私共は女生徒です)
Ты мальчик? (單) (お前は男の子か)	Да, я мальчик. (はい、私は男の子です)
Вы мальчики? (複) (お前達は男の子か)	Да, мы мальчики. (はい、私共は男の子です)
Ты девочка? (單) (お前は女の子か)	Да, я девочка. (はい、私は女の子です)
Вы девочки? (複) (お前達は女の子か)	Да, мы девочки. (はい、私共は女の子です)



クト オン  
Кто он? (彼は何者だ)

オン ビサーズリ  
Он писатель. (單) (彼は作家です)

クト アニー  
Кто они? (彼等は何者だ)

アニー ビサーズリ  
Они писатели. (複) (彼等は作家です)

クト アナー  
Кто она? (彼女は何者だ)

アナー ビサーズリニツ  
Она писательница. (單) (彼女は女流作家です)

クト アニー  
Кто они? (彼女達は何者だ)

アニー ビサーズリニツ  
Они писательницы. (複) (彼女達は女流作家です)

## 第四講

### 助動詞 БЫТЬ の應用と練習

#### — 1 —

#### 1. БЫТЬ の意義

一般動詞の變化と應用とは後に譲つて、茲には先づ第一に助動詞 **быть** (在る) の變化を示し、それから引續き此の動詞の應用と練習とに移ることにする。それは **быть** の使用法が極めて廣く且つ應用に至極便利だからである。學習者が若し此の助動詞の應用に精通したならば簡単な文句の構成や日常會話の活用に利する所が決して尠くない。

**быть** は主語と客語との連繫となつて、他の動詞、名詞、形容詞の働きを助けて其の性、數等の關係を表はす所から助動詞と名けられる

#### 2. БЫТЬ の現在形

普通動詞の現在形は人稱(人稱代名詞)によつて變化し、各人稱毎に一定の語尾を有して居るが、**быть** の現在變化は全く特別で、他の動詞のそれとは何等の共通點も持つてゐない。次の通り

單 數		複 數	
1. Я	есть(ある)	1. Мы	есть(ある)
2. Ты	есть	3. Вы	есть
3. { Он(男) Она(女) Оно(中) }	есть	3. Они	есть

**быть** の現在形は變化表の如く單數に於ては三人稱を通じて **есть** となり、複數に於ては三人稱を通じて **есть** となる。

быть は其の使用法に於て、客語として使用する場合と、主語と客語との連繋として使用する場合と二通りある。そして此の兩使用法はまた各々肯定式と否定式とに分れる。

	肯定式		否定式	
	單數	複數	單數	複數
客語として	есть	есть	нет	нет
連繋として	есть	суть	не есть	не суть

— 2 —

### 客語として使用する場合

#### 1. 肯定式と否定式

客語として使用する際には上表の如く肯定式に於ては單複兩數共 **есть** となり、**суть** は使用しない。否定式に於ては單複兩數とも **нет** となる。此の客語としての場合は事物の存在に關するを以て、**есть** は「在る」若くは「居る」と譯し、**нет** は「無い」若くは「居ない」と譯する。

Я <sup>ヤ</sup>есть <sup>イェスチ</sup>дóма. (私は家に居る) Мы <sup>ムイ</sup>есть <sup>イェスチ</sup>дóма. (我々は家に居る)

Ты <sup>Туй</sup>есть <sup>イェсч</sup>дóма. (君は家に居る) Вы <sup>Гуй</sup>есть <sup>Исч</sup>дóма. (君達は家に居る)

Он <sup>Он</sup>есть <sup>Исч</sup>дóма. (彼は家に居る) Они <sup>Ани</sup>есть <sup>Исч</sup>дóма. (彼等は家に居る)

Она <sup>Ана</sup>есть <sup>Исч</sup>дóма. (彼女は家に居る) Они <sup>Ани</sup>есть <sup>Исч</sup>дóма. (彼女等は家に居る)

前に述べたやうに **быть** の現在形 **есть** は普通其意義のみを文中に含ませて全く省略しても差支ないから、前文例の中から凡て **есть**

を省くことが出来る。例 «Он дóма» «Она дóма» の如し。

否定式 **нет** が客語となつて主語の存在を否定した場合には否定された主語は第一格より第二格 (所有格) に變るが、譯は第一格のやうに譯する。格とは後に説く如く邦語のテニヲハを示した語尾變化で、多くの品詞は六格に變化する。

\* дóма は「家に」といふ副詞。есть дóма は在宅の意。

肯定式	否定式
Он <sup>Он</sup> есть <sup>Исч</sup> дóма. (彼は家に居る)	Его <sup>Исч</sup> нет <sup>Исч</sup> дóма. (彼は家に居ない)
Кни́га <sup>Книга</sup> есть <sup>Исч</sup> там. (本は彼處にある)	Кни́ги <sup>Книги</sup> нет <sup>Исч</sup> там. (本は彼處に無い)
Шко́ла <sup>Школа</sup> есть <sup>Исч</sup> здесь. (學校は此處にある)	Шко́лы <sup>Школы</sup> нет <sup>Исч</sup> здесь. (學校は此處に無い)
Ста́н <sup>Стан</sup> есть <sup>Исч</sup> тут. (コップは其處にある)	Ста́ны <sup>Станы</sup> нет <sup>Исч</sup> тут. (コップは其處に無い)

註 1. 前述の如く **нет** によつて存在を否定された語は凡て第二格に變る。его (он), книги (книга) 等の如し。

2. там, здесь, тут は場所に関する副詞である。

#### 2. 疑問式

**есть, нет** に疑問小詞 «ли» (乎) を附して疑問式を作る。

Есть ли? (在るか、居るか) Нет ли? (無いか、居ないか)

疑問式の場合には **есть** は決して省略することが出来ない。

疑問小詞 «ли» は普通疑問のかかつてゐる語の直後に立つものである。

Есть ли там кни́га? (彼處に本があるか)

Нет ли там кни́ги? (彼處に本は無いか)



ダ オソ サルダーフ  
Да, он солдат. 左様 彼は兵卒である。

スタリーツァ リ トーキョ  
Столица ли Токио? 東京は首府か。

ダ トーキョ スタリーツァ  
Да, Токио столица. 左様、東京は首府である。

ニ ヲウヰトウイ リ ローズイ  
Не цветы ли розы? 薔薇は花でないか。

ローズイ ヲウヰトウイ  
Да, розы цветы. 左様、薔薇は花である。

— 4 —

### 1. быть の過去形

凡て動詞の過去形は不定法(變化しない前の動詞の原形)の語尾тьを取去つて、動詞の過去の語尾を入れかへさへすればよい。動詞の過去の語尾は數と性との區別があるだけで其の形は殆んど一定して居る。即ち次の通りである。

單 數	複 數
男性語尾: л	} ли (三性共通)
女性語尾: ла	
中性語尾: ло	

助動詞 быть も語尾тьを取去つて、その代りに過去の語尾を附すれば其儘過去形となる。

男性: бы-л	} бы-ли (三性共通)
女性: бы-ла	
中性: бы-ло	

(быть の過去は、「あつた」「ゐた」「來た」「行つた」「持つた」とその場合々々によつて色々な意味に譯する)。

быть の過去は單複兩數とも凡ての人稱に共通である。今之を人稱に配すると次の通りになる。

#### 單 數

一人稱 { я был (男)  
я была (女) } 私は居た。

二人稱 { ты был (男)  
ты была (女) } 汝は居た。

三人稱 { он был (男)  
она была (女)  
они были (中) } 彼は居た。

#### 複 數

一人稱: мы были (三性共通) 我等は居た。

二人稱: вы были 君等は居た。

三人稱: они были 彼等は居た。

單數第一人稱(я), 第二人稱(ты)に於て был, была の兩性を並記したのは、я, ты なる人稱は男・女性孰れにも共通であるからである。それ故に я 若くは ты が男性なる時は был, 女性なる時は была となる。唯單數の三人稱のみは本來三つの性に區別されて居るから人稱の性と動詞過去の性とが初めから一致する。

複數第二人稱 вы は君等といふ場合の外に、相手が身上の人で敬意を込める場合にはたとへ一人に對しても矢張り вы (貴君といふ意味で)を使用する。

### 2. 肯定式過去形

ヤ フル フーマ ムイ フル フーマ  
Я был дома. (私は家に居た) Мы были дома. (我々は家に居た)

トウ フィル タム ヴィ フィリ タム  
 Ты был там. (君は彼處にゐた) Вы были там. (君達は彼處にゐた)

Он был здесь. (彼は此處にゐた) Они были здесь. (彼等は此處に居た)

Она была тут. (彼女は其處にゐた) Они были тут. (彼女等は其處にゐた)

Отец был дома. (父は家にゐた) Мать была дома. (母は家にゐた)

Здесь была школа. (此處に學校があつた) Там были ученики. (彼處に生徒達がゐた)

Тут было здание. (其處に建物があつた)

## 3. 否定式過去形

## 單 數

一人稱 { я не был (男)  
я не была (女) } 私は居なかつた。

二人稱 { ты не был (男)  
ты не была (女) } 君は居なかつた。

三人稱 { он не был (男)  
она не была (女)  
оно не было (中) } 私は居なかつた。

## 複 數

一人稱: мы не были (三性共通) 我等は居なかつた。

二人稱: вы не были 君等は居なかつた。

三人稱: они не были 彼等は居なかつた。

Я не был дома. 私は家にゐなかつた。

Мы не были дома. 我々は家にゐなかつた。

Мать не была здесь. 母は此處にゐなかつた。

Отец не был здесь. 父は此處にゐなかつた。

Они не были там. 彼等は彼處にゐなかつた。

Ученики не были там. 生徒達は彼處にゐなかつた。

## 1. 肯定疑問式過去形

## 單 數

一人稱 { был ли я? (男)  
была ли я? (女) } 私は居たか。

二人稱 { был ли ты? (男)  
была ли ты? (女) } 君は居たか。

三人稱 { был ли он? (男)  
была ли она? (女)  
было ли оно? (中) } 彼は居たか。

## 複 數

一人稱: были ли мы? (三性共通) 我々は居たか。

二人稱: были ли вы? 君等は居たか。

三人稱: были ли они? 彼等は居たか。

Был ли там отец? 父は彼處に居たか。

ダ アチューツ フィル タム  
Да, отец был там. ハイ、父は彼處にゐました。

フィラー リ タム マーチ  
Была ли там мать? 母は彼處にゐたか。

ダ マーチ フィラー タム  
Да, мать была там. ハイ、母は彼處にゐました。

フィリ リズヂューシ シュコールイ  
Были ли здесь школы? 此處に學校があつたか。

ニューツ ニュー フィリ リズヂューシ シュコールイ  
Нет, не были здесь школы.  
イヤ、處に學校はなかつた。

## 2. 否定疑問式過去形

## 單 數

一人稱 { Не был ли я? (男) } 私は居なかつたか。  
          { Не была ли я? (女) }

二人稱 { Не был ли ты? (男) } 君は居なかつたか。  
          { Не была ли ты? (女) }

三人稱 { Не был ли он? (男) } 彼は居なかつたか。  
          { Не была ли она? (女) }  
          { Не было ли оно? (中) }

## 複 數

一人稱: Не были ли мы? (三性共通) 我々は居なかつたか。

二人稱: Не были ли вы? 君等は居なかつたか。

三人稱: Не были ли они? 彼等は居なかつたか。

ニュー フィラー リ タム アチューツ  
Не был ли там отец? 彼處に父は居なかつたか。

ダ フィラー タム アチューツ  
Да, был там отец. ハイ、父は彼處にゐた。

ニュー フィラー リ タム マーチ  
Не была ли там мать? 母は彼處にゐなかつたか。

ダ フィラー タム マーチ  
Да, была там мать. ハイ、母は彼處にゐた。

ニュー フィリ リズヂューシ シュコールイ  
Не были ли здесь школы? 此處に學校はなかつたか。

ニューツ ニュー フィリ リズヂューシ シュコールイ  
Нет, не были здесь школы.  
イヤ、此處に學校はなかつた。

## — 6 —

## 1. Быть の 未 來 形

Быть の未來は他の動詞と同じく人稱によつて變化する。詳しいことは後に説く。

單 數	複 數
1. я буд-у (あらん)	мы буд-ем (あらん)
2. ты буд-ешь	вы буд-ете
он	
3. она буд-ет	они буд-ут
оно	

註。横線(-)は語幹と變化語尾との區別を示したものである。

Быть の未來は、「あらん」「行かん」「來らん」と譯する。

ザーフトツラ ヤブドツタム  
Завтра я буду там. 明日私は彼處に行くでせう。

シユウニヤムイ ブーヂューシ  
Сегодня мы будем здесь. 今日我々は此處に來るでせう。

バズリヤフツラ オンブーヂューツドマ  
Послезавтра он будет дома. 明日彼は在宅するでせう。

スコロブドフツ サルダートツ  
Скоро будут солдаты тут. 間もなく兵卒等が其所に來るでせう。

## 2. 否定式及び疑問式未來形

ザフトラ アナー ニ プーチュツ タム 明日彼女は彼所に行かない  
Завтра она не будет там. でしょう。

セゴДня не бУдут ученики здесь. 今日生徒達は此所に来ないでしょう。

Послезавтра учитель не будет дома. 明後日先生は家に居ないでしょう。

Будете ли вы завтра дома? 貴君は明日家に居ますか。

Не будете ли вы завтра дома? 貴君は明日家に居ませんか。

Будет ли он скоро здесь? 彼は間もなく此所に来るでしょうか。

Не будет ли он скоро здесь? 彼は間もなく此所に来ないでしょうか。

## 3. 句と詞類の配列に就いて

句を構成する際譯語に於ては詞類の配列に関して一定の規則はない。然し一般の慣例に據ると、先づ句の冒頭に主語を置き、次に客語を置き、他の之に附隨する語は其の前後に適宜配列することになつて居る。

疑問文章に於ては主語たると客語たるとに論なく、また名詞たると動詞たるとを問はず、疑問の主點となつて居る語を句の冒頭に置くことになつてゐる。

疑問小詞「ли」は疑問の意を有する語の後に立つのが普通であるが、лиは往々略されることがある。然し如何なる場合にも疑問文章である以上は句の末尾に疑問符號(?)を打つことを忘れてはならぬ。

疑問文章中に本來疑問を含む品詞例へば疑問副詞、疑問代名詞を使用する時は必ず之を句の冒頭におくべきである。その場合には

「ли」を使用する必要はない。例へば、

Были ли вы вчера дома? Где вы были вчера?  
居ましたか、貴君は昨日 家に 何處に 貴君は 居ましたか、昨日

## — 7 —

## 場所及び時に關する副詞

Здесь 此處に	Тут 其處に	Там 彼處に
Где? 何處に	Доме 家に	Нигде 何處にも
Где-то 何處にか	Везде 何處にも、 到る處に	Сегодня 今日
Вчера 昨日	Завтра 明日	Послезавтра 明後日
Теперь 今	Недавно 先日、近頃	Иногда 時として
Утром 朝に	Вечером 晩に	Ночью 夜に、夜分
Давно 久しく、疾うに	Всегда 常に	Некогда 或る時、嘗て
Днём 日中(晝間)	Никогда 一度も 決して、否定)	Когда? 何時

副詞は凡て語尾變化をしないから、何時でも其の儘に使用する。そこで今迄に學習者が憶へてゐる答の詞類を應用して、それに上掲の副詞を使用して、下に若干の練習問題を出しておくから、學習者は振假名と譯文とに頼らずに、自分で一々發音して譯をつけて御覽なさい。

## 練習問題

Где был Пётр? Пётрは何處に居たか。  
Где вы были вчера? (Пётрは何處へ行つたか)。

- Он был там. 彼は彼處に居た。  
オン フィル ターム (彼は彼處へ行つた)
- Когда он был там? 彼は何時彼處に居たか。  
カグダー オン フィル ターム (彼は何時彼處へ行つたか)
- Сегодня он был там. 彼は今日彼處に居た。  
シェヴ-ド-ヤ オン フィル ターム (彼は今日彼處へ行つた)
- Где была мать? 母は何處に居たか。  
グゼ-フィラー マーチ (母は何處へ行つたか)
- Она была тут. 彼女は其處に居た。  
アナ-フィラー トゥーツ (彼女は其處へ行つた)
- Когда она была тут? 彼女は何時其處に居たか。  
カグダー Ана-フィラー トゥーツ (彼女は何時其處へ行つたか)
- Она была тут вчера? 彼女は昨日其處に居た。  
Ана-フィラー トゥーツ フチ-ラー (彼女は昨日其處へ行つた)
- Где ты была сегодня? 君(女性)は今日何處に居たか。  
グチ-トゥイ フィラー シェヴ-ド-ヤ (君は今日何處へ行つたか)
- Где вы были вчера? 君等は昨日何處に居たか。  
グゼ-ヴィ フィリ フチ-ラー (君等は昨日何處へ行つたか)
- Сегодня я был дома. 私は今日家に居た。  
シェヴ-ド-ヤ ヤ フィル ド-マ
- Вчера мы не были дома. 私達は昨日家に居なかつた。  
フチ-ラー ムイ ニェ フィリ Д-マ
- Недавно брат был там. 此間兄弟は彼處に居た(彼處へ  
ニェ-ダー-ヴノ フラーツ フィル ターム 行つた)。
- Давно сестра была там. 姉妹はずつと以前彼處に居た。  
ダヴノ シェストッラー フィラー ターム (彼處へ行つた)。
- Никогда учитель не был там. 先生は一度も彼處へ行かなか  
ニカグダー ウチ-チ-リ ニェ フィル ターム かつた(彼處に居なかつた)
- Всегда он был дома. 彼はいつも家に居た。  
フシェグダー オン フィル Д-マ
- Сегодня днём я буду дома. 今日晝間私は家に居るでせう。  
シェヴ-ド-ヤ Д-マ-ム ヤ Д-マ Д-マ

- Нигде он не был. 彼は何處にも居なかつた(行かなかつた)。  
ニ-Где-Он-Не-Был
- Никогда она не была там. 彼女は一度も彼處に居なかつた  
ニ-Кагда-Ана-Не-Была-Там (行かなかつた)。
- Всегда они не были тут. 彼等は何時も其處に居なかつ  
Всегда-Они-Не-Были-Тут (行かなかつた)。
- Где-то он был. 彼は何處かに居た(行つた)。  
Где-то-Он-Был
- Везде она была. 彼女は何處にでも居た(行つた)。  
Везде-Она-Была
- Перо было там. ペン尖は彼處にあつた。  
Пе-Ро-Было-Там
- Книга не была там. 本は彼處になかつた。  
К-ни-га-Не-Была-Там
- Бумага была здесь. 紙は此處にあつた。  
Бу-ма-га-Была-Здесь
- Где был стол? 机は何處にあつたか。  
Где-Был-Стол
- Когда учительница будет дома? 女教師は何時家に居るか。  
Кагда-Учи-тель-ни-ца-Бу-дет-До-ма
- Она будет дома вечером. 彼女は晩には家に居るだらう。  
Она-Бу-дет-До-ма-Ве-че-ром
- Ночью никогда ученик не был дома.  
Но-чь-ю-Ни-когда-Уче-ник-Не-Был-До-ма  
學生は夜分決して家に居なかつた。
- Никогда он не был здесь. 時として彼は此處に居なかつた。  
Ни-когда-Он-Не-Был-Здесь (來なかつた)。
- Там не был ли отец? 父は彼處に居なかつたか(行かなか  
Там-Не-Был-Ли-Отец (行かなかつた)。
- Не были ли они здесь сегодня?  
Не-Были-Ли-Они-Здесь-Сегодня  
今日彼等は此處に來なかつたか(居なかつたか)。



Теперь мать не была ли тут? 今母は其處に居なかつたか。  
チベ-リ マ-チ ニュ フィラー リ ト-ツ (行かなかつたか)。

Не было ли там поле? 彼處に野原はなかつたか。  
ニュ フィ-ロ リ タ-ム ポ-リ

Не было ли там перо? 彼處にペン尖はなかつたか。  
ニュ フィ-ロ リ タ-ム Пе-ро

Не был ли здесь стул? 此處に椅子はなかつたか。  
ニュ Фил Ри Зде-ш Стул

Не была ли где-то пуля? 何處かに銃丸はなかつたか。  
ニュ Фил Ри Где-то Пуля

Ученица не была дома. 女生徒は家に居なかつた。  
ウチ-ニ-ツ ニュ Фил До-ма

Некогда здесь был город. いつか此處に町があつた。  
ニュ-コгда Зде-ш Фил Го-род

Некогда там была гора. いつか彼處に山があつた。  
ニュ-コгда Там Была Го-ра

Некогда тут было озеро. 嘗て其處に湖水があつた。  
ニュ-コгда Тут Было О-зеро

Не был ли некогда здесь дом? いつか此處に家はなかつたか。  
ニュ Фил Ри Ни-когда Зде-ш До-м

Не была ли там некогда река? いか彼處に河はなかつたか。  
ニュ Фил Ри Там Ни-когда Ре-ка

Не было ли некогда тут поле? いつか其處に野原はなかつたか。  
ニュ Фил Ри Ни-когда Тут По-ле

Не была ли где-то дочь? 何處かにか娘は居なかつたか。  
ニュ Фил Ри Где-то До-ч

## 第五講

### — 1 —

#### 1. 名詞の格と變化

■シヤ語には九種の品詞がある。名詞・形容詞・代名詞・動詞・數詞・前置詞・副詞・接續詞・間投詞である。その内名詞・形容詞・代名詞・動詞・數詞の五品詞は語尾變化をする。が、茲には先づ順序として名詞の變化から述べることにする。

名詞に性(男性・女性・中性)と數(單數と複數)との區別のあることは先に述べた通りであるが、語尾變化も性と數とによつてそれぞれ違ふのである。

名詞は單數複數とも格によつて變化する。格とは日本語のテニヲハのやうな關係を示すものであるが、ただロシア語ではそれが六通りに分れてゐる。日本語では名詞にテニヲハを附して其の意味を表はし、名詞そのものは少しも變化しないけれど、ロシア語では名詞そのものの語尾を變へてテニヲハの關係を表はすのである。そしてこの語尾變化を表はすには六通りあつて、それを六格といふのである。六格はそれぞれ異つた意味と名稱とを有し、之を普通主格\*・所有格・與格・目的格・造格・前置格と呼んでゐる。そして單數複數共六格宛、合せて十二通りの語尾變化をする。

この六格の外に相手に呼びかける時に使用する呼格といふのがあつて、第七格と呼ばれてゐるが、極く僅少の例外を除いては常に主格と同一であるから、殊更に之を區別する必要はない。

さて愈々變化に入るのだが、豫め注意しておきたいことが一つあ

\* 或は主格を名格、所有格を生格、目的格を對格又は役格とも呼んでゐる。

る。凡ての語は語幹(或は語根)と語尾から成り立つてゐるが、變化は語幹には觸れず、語幹はそのままにして置いて、語尾だけを變化して行くのである。だから特に語尾變化と言つて居る。次に示す變化式では語幹と語尾變化とを區別するために、その間に短い横線を入れておくから注意して貰ひたい。主格に立つのは凡て語の原形であることは言ふまでもない。

名詞の變化は要するに疑問代名詞 кто (生物に對する問ひ)と что (無生物に對する問ひ)とに答へるものであるから、是等の疑問代名詞と一緒に變化するのが便利である。従つてまた變化も生物名詞と無生物名詞とに分れる譯である。

## 2. 生物名詞の變化

### 單 數

- |        |        |        |             |         |
|--------|--------|--------|-------------|---------|
| 1. 主 格 | кто?   | (誰が)   | генерáл     | (將軍が)   |
| 2. 所有格 | кого?  | (誰の)   | генерáл-а   | (將軍の)   |
| 3. 與 格 | кому?  | (誰に)   | генерáл-у   | (將軍に)   |
| 4. 目的格 | кого?  | (誰を)   | генерáл-а   | (將軍を)   |
| 5. 造 格 | кем?   | (誰にて)  | генерáл-ом  | (將軍にて)  |
| 6. 前置格 | о ком? | (誰のこと) | о генерáл-е | (將軍のこと) |

### 複 數

- |        |        |        |              |          |
|--------|--------|--------|--------------|----------|
| 1. 主 格 | кто?   | (誰が)   | генерáл-ы    | (將軍達が)   |
| 2. 所有格 | кого?  | (誰の)   | генерáл-ов   | (將軍達の)   |
| 3. 與 格 | кому?  | (誰に)   | генерáл-ам   | (將軍達に)   |
| 4. 目的格 | кого?  | (誰を)   | генерáл-ов   | (將軍達を)   |
| 5. 造 格 | кем?   | (誰にて)  | генерáл-ам   | (將軍達にて)  |
| 6. 前置格 | о ком? | (誰のこと) | о генерáл-ах | (將軍達のこと) |

## 3. 無生物名詞の變化

### 單 數

- |        |        |        |          |        |
|--------|--------|--------|----------|--------|
| 1. 主 格 | что?   | (何が)   | стол     | (机が)   |
| 2. 所有格 | чего?  | (何の)   | стол-а   | (机の)   |
| 3. 與 格 | чему?  | (何に)   | стол-у   | (机に)   |
| 4. 目的格 | что?   | (何を)   | стол     | (机を)   |
| 5. 造 格 | чем?   | (何にて)  | стол-ом  | (机にて)  |
| 6. 前置格 | о чём? | (何のこと) | о стол-е | (机のこと) |

### 複 數

- |        |        |        |           |        |
|--------|--------|--------|-----------|--------|
| 1. 主 格 | что?   | (何が)   | стол-ы    | (机が)   |
| 2. 所有格 | чего?  | (何の)   | стол-ов   | (机の)   |
| 3. 與 格 | чему?  | (何に)   | стол-ам   | (机に)   |
| 4. 目的格 | что?   | (何を)   | стол-ы    | (机を)   |
| 5. 造 格 | чем?   | (何にて)  | стол-ами  | (机にて)  |
| 6. 前置格 | о чём? | (何のこと) | о стол-ах | (机のこと) |

注意 1. 名詞はその性により、その語尾によつていろいろな型に變化するのであるが、上掲の變化式には便宜上單に男性名詞中の子音(л)に終つてゐる二語(генерал, стол)を例にとつたのである。他の變化式に就いては追々講ずるであらう。

2. 上掲の變化式に見る如く、名詞は單數に於て六格、複數に於て六格、合せて十二通りに變化するから、學習者はこの變化の型をはつきりと覚えておかなければならぬ。

3. 上掲の變化式を比較對照して見れば分る通り、生物名詞の變化と無生物名詞の變化とは別段違ふところはないが、たゞ一つ第四格だけが異つてゐる。即ち生物名詞(генерал)に於ては單數複數共目的格は常に所有格と同じであるが、無生物名詞(стол)に於ては目的格は常に主格と同じであることを忘れてはならぬ。

4. 凡ての格の意味を一つ一つ憶えるのは面倒だから、それを一氣に「が、の、に、を、にて、のこと」と暗誦する方が便宜である。
5. 六格の中でも特に最後の前置格に就いては一應説明しておく必要がある。といふのは、主格を除くの外、凡ての格は格としての固有の意義の外、またそれぞれ特定の前置詞と一緒に組んで、様々な關係を表はすものである。然るに第六格だけを特に前置格と名けるのは、他の諸格は前置詞を附さなくともその格だけを獨立して使用することが出来るが、第六格は前置詞なしには使用出来ないで、いつも必ず前置詞と一緒に使用するところから特に前置格といふのである。前掲の變化式では便宜上前置詞 *о* (…のこと) を使用した。

## — 2 —

## 格の應用

前掲の變化を利用して、格の應用を文例によつて示して見よう。それによつて各々の格が文章に於て如何に使用されるかといふことが判るであらう。

1. 主格は「…が」又は「…は」と譯し、文章に於ては常に主語の地位に立つ。主格が語の原形であることは前に述べた通りである。

Генерал купил стол. 將軍が机を買つた。  
ゲネラル クピール ストール

2. 所有格は「…の」と譯し、事物の出生又は所有の關係を示す格である。その際所有物は前に立ち、所有主は所有格に變化して後に立つ。

Это стол генерал-а. これは將軍の机である。  
エート ストール ゲネラール

3. 與格は「…に」又は「…へ」と譯し、或る動作の行はるる際その動作の向ふところの對手を示す格である。

Отец подарил генерал-у стол. 父は將軍に机を贈つた。  
アチューフ バダリール ゲネラール ストール

4. 目的格は「…を」と譯し、動作の目的物を示す格である。

Учитель хвалил генерал-а. 先生は將軍を譽めた。  
ウチーチュリ フダリール ゲネラール

5. 造格は「…にて」「…で」又は「…を以て」と譯し、或る動作の實行される手段や材料となるものを示す格である。

Это письмо написано генерал-ом. この手紙は將軍にて書かれた。  
エート ビシモー ナビーサノ ゲネラール-ом

6. 前置格は前にも述べた通り、前置詞なしには使用されない格で、必ず前置詞を附して使用する。前置格を要求する前置詞には數種あるが、上掲の變化式では「*о*」といふ前置詞を使用しておいた。前置詞 *о* は「…のこと」又は「…に就いて」と譯する。

Брат сказал о генерал-е. 兄弟は將軍のことを話した。  
ブラフ スカザール オゲネラール

7. 呼格は「…よ」又は「…や」と呼びかける時に使用する格で、前述の如く僅少の場合を除く外全く主格と同じく語尾變化をしないから特に獨立の格に數へる必要はない。若し必要の場合には主格に呼符「*!*」を附して使用すればよい。例へば генерал!(將軍よ!) といふ風に。

## — 3 —

## 1. 名詞の變化式

名詞はその性と語尾とによつて、いろいろな變化をするが、大體に於て之を四種の模範的變化式に纏めることが出来る。即ち下表に示すが如く凡ての男性名詞と *о* 及び *е* を語尾とする中性名詞とは第一式變化によつて變化し、*а* 及び *я* を語尾とする女性名詞は第二式變化に屬し、*ь* に終る女性名詞は第三式により、*мя* を語尾とする中性名詞は第四式によつて變化するのである。今之を表に示すと、

第一式變化	男性名詞: 子音, ь, 日 に終るもの 中性名詞: o, e に終るもの
第二式變化	女性名詞: a, я に終るもの
第三式變化	女性名詞: ь に終るもの
第四式變化	中性名詞: ия に終るもの

(o に終る語は男性にもあるから注意しなければならぬ)。

第一式と第二式とは更に之を硬變化と軟變化とに區別する。硬變化は諸格の語尾變化が主として硬母音から成り、軟變化は之に對應する軟母音から成るからである。

硬母音: a y o ы  
軟母音: я ю е и

第一式變化に於ては子音に終る男性名詞と o に終る中性名詞とは硬變化に屬し、その他は軟變化に屬する。第二式變化に於ては a に終る女性名詞は硬變化、я に終るものは軟變化をする。

次に四種の變化式を表にして示しておくから、學習者は各變化式の異同を比較對照して、その特徴をよく記憶しなければならぬ。

名詞第一式變化表

單數	男		性		中		軟變化
	格	硬變化	軟	變化	硬變化	軟變化	
主・呼 所有 與 目的 造 前置	класс(數)	класс-ы	учитель(教師)	случае(機會)	слов-о(語)	мор-е(海)	
	класс-а	класс-ов	учитель-я	случа-я	слов-а	мор-я	
	класс-у	класс-ам	учител-ю	случа-ю	слов-у	мор-ю	
	主格と同じ	主格と同じ	所有格と同じ	主格と同じ	слов-о	мор-е	
	класс-ом	класс-ами	учител-ем	случа-ем	слов-ом	мор-ем	
	o класс-е	o класс-ах	об*учител-е	o случ-а-е	o слов-е	o мор-е	
主・呼 所有 與 目的 造 前置	класс-ы	класс-ы	учител-и	случа-и	слов-а	мор-я	
	класс-ов	класс-ов	учител-ей	случа-ев	слов	мор-ей	
	класс-ам	класс-ам	учител-ям	случа-ям	слов-ам	мор-ям	
	主格と同じ	主格と同じ	所有格と同じ	主格と同じ	слов-а	мор-я	
	класс-ами	класс-ами	учител-ями	случа-ями	слов-ами	мор-ями	
	o класс-ах	o класс-ах	o*учител-ях	o случ-а-ях	o слов-ах	o мор-ях	

\* 前置詞は o と全く同じ。たゞ次の語が母音で始まる場合聲調を好くする必要上特に o を附して ob としたものである。

名詞第二式變化表		性		第四式變化	
		女	男	中性	性
單數	格	硬變化	軟變化	第三式變化	第四式變化
	主・呼 所有 與 目的 造 前置	комнат-а (室) комнат-ы комнат-е комнат-у комнат-ою(ой) о комнат-е	недел-я (週) недел-и недел-е недел-ю недел-ею(ей) о недел-е	лошад-ь (馬) лошад-и лошад-и лошад-ь лошад-ью о лошад-и	врем-я (時) врем-ен-и врем-е-ни врем-я врем-ен-ем о врем-ен-и
複數	主・呼 所有 與 目的 造 前置	комнат-ы комнат комнат-ам 主格と同じ комнат-ами о комнат-ах	недел-и недел-ь недел-ям 主格と同じ недел-ями о недел-ях	лошад-и лошад-ей лошад-ям 所有格と同じ лошад-ями о лошад-ях	врем-ен-а врем-ен врем-ен-ам врем-ен-а врем-ен-ами о врем-ен-ах

### 2. 變化式に就いての注意

1. 男性名詞に於ては目的格は單數複數共無生物名詞の場合は主格と同じく、生物名詞の場合は所有格と同じである。女性名詞は複數のみこの規則に従ひ、單數の目的格は生物無生物の區別なしに特殊の語尾を持つてゐる。中性名詞は生物無生物に拘らず、單數複數共目的格は凡て主格と同じである。
2. 上掲の變化式は最も模範的なものを示したのであるが、この外に名詞の語尾變化は音則又は發音上の關係によつて或る格に於ては多少の相違又は例外のあることを知らなければならぬ。例へば音則(第一講八課綴音の注意参照)によつて喉音 г, к, х 及上顎音 ж, ч, ш, щ の後には母音 ы, я, ю を綴ることを許されないから、この場合にはその對應母音 и, а, у を之に代へることになつてゐる。それ故に喉音及び上顎音を語尾とする語は複數主格又は單數所有格に於て ы の代りに и を使用する。例へば ученик (生徒)が複數主格に於て ученик-и (ыでない)となり、товарищ(同志)が同じく複數主格に於て товарищ-и(ыでない)となり、又 книга(本)が單數所有格及び複數主格に於て книг-и(ыでない)となるが如きはそのためである。

今是等の注意を考慮しつつ上掲の變化式に従つて次の名詞を變化して見たまへ。

男性名詞: ученик (生徒), учитель (先生), лакей(給仕,召使), товарищ(同志), словарь (辭書), дед(祖父), Иван(人名), карандаш(鉛筆), бедняк(貧乏人), хлеб(パン), чай(茶)。

女性名詞: кнѣга(本), соба́ка(犬), ба́ня(浴場), жи́знь<sup>(生命, 生活)</sup>,  
бума́га(紙), зе́мля(土地), А́нна(人名), ра́дость(喜悦)<sup>1</sup>  
но́чь(夜), се́стра(姉妹).

中性名詞: пи́сьмо(手紙), де́ло(事件), го́ре(悲哀), учи́лище  
(學校), по́ле(野原), се́ло(村), и́мя(名), се́мя(種子).

## — 4 —

## 所有の意を表はす文章

## 1. 前置詞 у の應用

前に述べたやうに六つの格はそれぞれいろんな意味を表はすけれど格だけでは凡ての關係を言ひ表はすことが出来ない。そこで前置詞を名詞に附していろんな意味を表はすのである。前置詞にはいろいろあつて、一定の格を要求するが、茲では у を使用して所有を表はす文章を作ることにする。前置詞 у は「…の許に」と譯し、他の品詞と結合する場合必ず所有格(第二格)を要求する。だから у と共にする名詞は凡て所有格に變化する。例へば у учител-я (先生の許に), у ученик-а (生徒の所に)等のやうに。尤も前置詞 у は所有の外に事物の傍近く存在する意味も表はすが、茲では быть の現在形 есть (有る) と共にして所有を表はす場合を示す。例へば у учител-я есть (先生の所に有る)と言へば「先生は所有する」といふ意味である。而して前置詞によつて要求された名詞の格はこの場合格としての意味を失つて専ら前置詞の意味に従ふものであることを忘れてはならぬ。

## 2. 所有肯定 у кого?

У учителя́ есть сло́варь. <sup>ウ ヲチーチュリャ イェスチ スラヴャリ</sup> 先生の許に辭書がある。(先生は辭書を所有すの意。以下同じ)

У ученика́ есть кнѣга. <sup>ウ ヲチュニカー イェスチ クニーガ</sup> 生徒の許に本がある。

У Ива́на\* есть бра́т и се́стра. <sup>ウ イヴァーナ イェスチ Брау-т И Шестра</sup> イヴァンには兄弟と姉妹がある。

У де́да есть сад. <sup>ウ Дэдэ イェсチ Са-т</sup> 祖父の所には庭園がある。

Есть ли у това́рища соба́ка? <sup>И-ес-ти Ли У Товарища Собака</sup> 同僚の所には犬が居るか。

Да, у това́рища есть соба́ка. <sup>Дэ-у Товарища Есть Собака</sup> え、同僚の所には犬が居る。

Есть ли у А́нны\* сы́н? <sup>И-ес-ти Ли У Анны Син</sup> アンナには息子が居るか。

Не́т, у А́нны есть до́чь, а не сы́н. <sup>Нэ-т У Анны Есть До-чь А Не Син</sup> いえ、アンナには娘はあるが、息子は居ない。

\* 人名地名等は文句の中央にありてもその頭文字は大文字にて書するものとす。

## 3. 所有否定 Нет (не есть)

Есть に對して所有を否定する場合には нет (не есть の略) を使用す。其際否定される事物は主格より所有格に變ずる。然し譯は矢張り主格のやうに譯する。例へば、

карандаш (主格)	—	нет карандаша (所有格)
鉛筆		鉛筆がない
кнѣга (主格)	—	нет кнѣги (所有格)
本		本がない

ベロー ニューツ ベラー  
(中性) перо (主格) — нет пера (所有格)  
ペン尖 ベン尖がない

イェスチ リ ウ ウチーチュリヤ カランダーシ 先生の所に鉛筆があるか。  
Есть ли у учителя карандаш. (先生は鉛筆を持てるか)

ウ ウチーチュリヤ ニューツ カランダーシ 先生の所に鉛筆はない。  
У учителя нет карандаша. (先生は鉛筆を持たないの意)

ニューツ リ ウ ウチニカー フマーギ イ ベラー 生徒の許に紙とペン尖  
Нет ли у ученика бумаги и пера はないか。

ウ ウチニカー イェсчи フマーга И Веロー 生徒の許には紙とペン尖  
У ученика есть бумага и перо. がある。

ウ Ведр<sup>ニ</sup>カー ニューツ Фриューбе  
У бедняка нет хлеба. 貧乏人にはパンがない。

ウ Степана<sup>ニ</sup> ニューツ Книги Степанには本がない。

ウ Петра<sup>ニ</sup> ニューツ Ни Отца, Ни матери, Ни брата, Ни  
У Петра нет ни отца, ни матери, ни брата, ни

Сестры: он сирота. 彼には父も母も兄弟も姉妹もない、  
彼は孤児である。

【註】 ни は否定の接續詞にして 同種の語を 幾個も重ねて否定する場合  
に使用せらる。матери は мать の所有格にして、不規則變化に  
屬す。即ち變化の際所有格以下單數複數共に語尾の前に ер の二  
字を挿入す。[:] 點は句切符號にして 重點と稱す。多くは理由を  
説明する場合に使用せらる。

4. У кого был (были)? (誰の所に居たか或は行つたか)

フチュラー オン Филь У Та<sup>ニ</sup> Ва<sup>ニ</sup> Ри<sup>ニ</sup> Ша<sup>ニ</sup> 昨日彼は同僚の所に居た(或は  
Вчера он был у товарища. 行つた)。

ム<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + ム<sup>ニ</sup> Филь У Уチーチュリヤ 今日我々は先生の所へ行つ  
Сегодня мы были у учителя. た。

Филь Р<sup>ニ</sup> У Уチーチュリヤ Гаспа<sup>ニ</sup> Ч<sup>ニ</sup> ン<sup>ニ</sup> キムラ  
Был ли у учителя господин Кимура?  
木村君は先生の許に行つたか。

コクダー Филь Гаспа<sup>ニ</sup> Ч<sup>ニ</sup> ン<sup>ニ</sup> Киムラ У Уチーチュリヤ  
Когда был господин Кимура у учителя?  
何時木村君は先生の許に行つたか。

グ<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + Филь Ф<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = +  
Где вы были вчера? 貴君は昨日何處へ行つたか。

フ<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + Филь У Гаспа<sup>ニ</sup> Ч<sup>ニ</sup> ン<sup>ニ</sup> ハヤシ 昨日私は林君の許へ行  
Вчера я был у господина Хаяси. つた。

5. 事物の傍近く存在する意を表はす文章

前置詞 у は前にも述べたやうに所有の意を表はす外に、無生物の  
場合には事物の傍近く存在する意を表はし、…の傍に」と譯する。  
この場合も у は所有格を要求するから、у の次に立つ語は所有格に  
變ずる。

Стул у стола. 椅子は机の傍にある。  
Ст<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + У Ст<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = +

Дерево у сада. 木は庭園の傍にある。  
Д<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + У С<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = +

Мы сидели у окна. 我々は窓の傍に坐つた。  
Мы Сидели У Окна

Дом у озера. 家は湖水の傍にある。  
Д<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + У О<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = +

Книга у стола. 本は机の傍にある。  
К<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = + У Ст<sup>ニ</sup> 18<sup>ニ</sup> = +

У ворот росла берёза. 門の傍に樺が生えた。  
У Ворота Росла Берёза

Дети играли у реки. 子供達は河の傍で遊んだ。  
Дети Играли У Реки

Доска стоит у стены. 黒板は壁の傍に立つてゐる。  
Доска Стоит У Стены

Он курял у окна. 彼は窓際で喫煙した。  
Он Курял У Окна

## 第六講

### — 1 —

#### 1. 動詞に就いて

今回は愈々動詞の講義である。動詞は語學の中軸で、他の凡ての品詞は動詞によつてそれぞれの働きを爲すのであるから、謂はば動詞あつての語學である。若し動詞の事がよく解つておなければ語學は結局無駄骨折に終る。然るに動詞にはいろいろな形態があつて、他の品詞よりもずつと複雑であるから、それだけに學習者は細心の注意と努力とを要する。

#### 2. 動詞の意義

動詞とは生物や事物の動作若くは状態を表示する品詞である。例へば「生徒は本を讀んで居る」といふ句の「讀んで居る」は動詞であつて、現在生徒の爲し居る動作を表はし、また「生徒は坐つて居る」といふ句の「坐つて居る」は其の状態を表はした動詞である。動詞は今言つたやうに様々な變化をすると同時に、應用の最も廣い品詞であるから、學習者は能くその變化と規則とを會得して應用を誤らないやうにしなければならぬ。

#### 3. 動詞の時

動詞は三つの時を有する。現在と過去と未來である。

現在とは現在の動作を表はす動詞の様式である。例へば「生徒は本を讀んで居る」の「讀んで居る」といふ動詞の形は、生徒の現在の動作を表はして居るから、此の形を現在といふのである。

過去とは過去の動作を表はす動詞の様式である。例へば「生徒は本を讀んだ」の「讀んだ」といふ動詞の形は、生徒の過去の動作を表はして居るから、此の形を過去といふのである。

未來とは未來の動作を表はす動詞の様式である。例へば「生徒は本を讀むであらう」の「讀むであらう」といふ形は、生徒の未來の動作を表はして居るから此の形を未來といふのである。

#### 4. 動詞の數

動詞にも名詞と同じく單數と複數の區別がある。單數は單一なる人又は事物の動作を表はし、複數は二箇以上の人又は事物の動作を表はす。例へば「生徒は讀んで居る」の「讀んで居る」といふ動作は一人の生徒に関する動作であるから單數で示し、「二人の生徒は讀んで居る」の「讀んで居る」といふ動作は二人の生徒に関する動作であるから複數で示すのである。之をロシア語で示すと、

Ученик читá-ет. (單) 生徒は讀んで居る。

Два ученикá читá-ют. (複) 二人の生徒は讀んで居る。

Ученикí читá-ют. (複) 生徒達は讀んで居る。

となる。日本語では動詞に單數複數の區別がないから、單に「讀んで居る」といふ動詞だけでは一人の動作であるか二人以上の動作であるか判然しない。然るにロシア語の動詞に於ては上例の如く單數複數の語尾によつて其の動作が一人に屬するか或は多人數に屬するかを直ちに知り得る便利がある。

#### 5. 動詞の人稱

動詞には單複兩數共三つの人稱があつて、之を第一人稱(單數 я 複數 мы)、第二人稱(單數 ты, 複數 вы)、第三人稱(單數 он, она,



оно; 複數 они) と名づける。(是等の人稱に就いては 第三講第二課及び第九課人稱代名詞の説明を参照されたい)

動詞の現在形及び未來形は人稱によつて變化し、過去形は性(男性・女性・中性)によつて變化する。日本語では動詞は人稱によつて變化することがなく、「私」も「汝」も「彼」も動詞の形には差別がない。然るにロシア語に於ては人稱の異なるに従つて動詞の語尾も一定の變化をするから、單に動詞の語尾だけを見ても、其の動作が孰れの人稱に屬するかを知ることが出来る。だからさういふ場合には往々人稱即ち人稱代名詞を省くことすらある。ただ動詞の過去だけは人稱に依らず、性によつて變化するが、それも單數の場合だけであつて、複數は三人稱共に一樣の語尾を取る。

— 2 —

## 動詞の變化

### 1. 動詞の不定法

動詞の不定法とは動詞の原形であつて、未だ性・數・人稱等によつて語尾を變化しない前の形である。その多くは **ть** 又は **ться** を語尾とし、語尾の前に母音を有する。是れが動詞の典型的の語尾であるが、中には **чь**, **чься**, **ти** の語尾を取る動詞もある。例:

дела-ть 爲す。 занима-ться 勉強する、從事する  
 понима-ть 理解する。 стара-ться 努める。  
 чита-ть 讀む。 удивл-иться 驚く。  
 стои-ть 立つ。 смея-ться 笑ふ。  
 говори-ть 話す。 встрети-ться 逢ふ、面會する

смотре-ть 見る。 учй-ться 學ぶ。  
 сле-чь 燒盡す。 сме-чься 燒失する。  
 ит-ти 行く。 нес-ти 運ぶ。

### 2. 動詞の過去形

動詞の過去形は單數複數各々語尾を異にし、單數に於ては性によつても語尾が變るが、複數は三性共通である。但し過去形は人稱によつて變化することはない。

#### 動詞の過去形の語尾

單 數		複 數	
男性:	л	男性	ли
女性:	ла	女性:	
中性	ло	中性:	

過去の形を作るには不定法の語尾 **ть** を取り去つて、之に過去の尾を入れ換へさへすればよい。**ться** を語尾とする動詞は過去にても矢張り語尾に **ся** を附加する。其際母音の後に於ては **ся** はとなる。

#### 不定法

дела-ть 爲す。 понима-ть 理解する。  
 занима-ться 勉強する、從事する。

#### 過去形

單數	男性	дела-л	понима-л	занима-лся
	女性	дела-ла	понима-ла	занима-лась
	中性	дела-ло	понима-ло	занима-лось

(男性)  
 複數 { 女性 } дела-ли    понима-ли    занима-лись  
 (中性)

3. 練習

приехать    到着する。    вечером    晩に。  
 поехать    出掛ける。    утром    朝に。  
 возвратиться    歸る。    рано    早く。  
 стараться    努める。    поздно    遅く。  
 лениться    怠ける。

Что делали мальчик и девочка? 少年と少女とは何を爲て  
 した。チエラリ マーリチク イ 左-ヴ+チカ 居たか。

Мальчик читал, а девочка писала. 少年は読んで居た、然  
 然 マーリチク チタル ア 左-ヴ+チカ ビサラ シ少女は書いて居た。

Куда они поехали? 何處へ彼等は出掛けたか。  
 Куда-они Бай-ハリ

Брат поехал в\*Кобэ, а еестра (поехала) в\*Нагоя. 兄弟は神戸へ、姉妹は名古屋へ出掛けた。  
 ブラ-ツ バセ-ハル フ コーベ ア シストラ

Когда они приехали в\*Токю. 彼等は何時東京へ着いたか。  
 Кагда-они При-ハリ フ トーキョ

Отец приехал вчера, а мать сегодня. 父は昨日、母は本日着いた。  
 А-ツ-フ При-ハル フ チョー-ア マチ シタ-ドニ 日着いた。

Когда возвратились они? 何時彼等は歸つたか。  
 Кагда-ヴ+ズヴラチ-リシ-они

Отец возвратился вчера поздно, а мать сегодня утром рано. 父は昨晚遅く、母は今朝早く歸つた。  
 А-ツ-フ-ヴ+ズヴラチ-ルシ-ドニ ノ 左ラ-ボ-ズドノ

вечером, а мать сегодня утром рано. 早く歸つた。  
 左-チロム ア マチ シタ-ドニ ウ-フロム ラ-ノ

\*v は前置詞。「...へ」又は「...に」と譯し、方向を示す場合には目的格を要す。

1. 動詞の現在形變化

動詞の現在形は人稱によつて變化する。だから單數複數共各々三つ宛の人稱語尾を持つてゐる。而して此人稱語尾は第一式と第二式とに分れる。つまり動詞の現在變化には二つの式があることになる。

人稱語尾

	人稱	第一式	第二式
單數	一人稱 я	ю (又は y)	ю (又は y)
	二人稱 ты	ешь	ишь
複數	三人稱 { он (男) она (女) оно (中) }	ет	ит
	一人稱 мы	ем	им
	二人稱 вы	ете	ите
複數	三人稱 (они)	ют (又は yт)	ят (又は ат)

第一式は動詞不定法の語尾тьを取り去つて之に人稱語尾を入れ換へるにすれば宜い。第二式は不定法の語尾тьと其直前の母音(語根と語尾との連結)とを取り去つて人稱語尾を附するのである。

1. 第一式變化

不定法に於て агь, ять の語尾を有する動詞の多くは第一式變化をする。然し之には例外が多いから之を規則とする譯には行かない。

дела-ть 爲す。    гуля-ть 散歩す。  
 單數 { 1 я дела-ю    гуля-ю  
 2 ты дела-ешь    гуля-ешь  
 3 { он } дела-ет    гуля-ет  
 { она }  
 { оно }

複 數	1	мы дела-ем	гуля-ем
	2	вы дела-ете	гуля-ете
	3	они дела-ют	гуля-ют

註。第一式に於て單數第一人稱の語尾が音則によつて *y* となる時は複數三人稱の語尾は *ят* となる

次の動詞の現在變化を第一式變化によつて練習せよ。

знáть	知る	дúмать	思ふ
игра́ть	遊ぶ	занима́ть	占領する
помога́ть	助ける	обе́дать	食事する
получа́ть	受る	чита́ть	讀む
приглаша́ть	招く	покупа́ть	買ふ

## 2 第二式變化

不定法に於て *ить*, *еть* の語尾を有する動詞は多く第二式變化をする、が、之も同じく例外が多いから規則とすることは出来ない。

		говор-и-ть 話す。	смотре-ть 見る。
單 數	1	я говор-ю	смотре-ю
	2	ты говор-ишь	смотре-ишь
	3	{ он она́ оно́ } говор-ит.	смотре-ит
複 數	1	мы говор-им	смотре-им
	2	вы говор-ите	смотре-ите
	3	они́ говор-ят	смотре-ят

次の動詞の變化を第三式變化に従つて練習せよ。

кура́ть	喫煙する	стоя́ть	立つ
веле́ть	命ずる	боле́ть	痛む
строи́ть	建てる	вери́ть	信ず

注意 a) 第一式變化と第二式變化との相違は、單數二人稱、三人稱及び複數一人稱二人稱の語尾に於ける *e* (第一式) と *и* (第二式) との外、複數三人稱の語尾 *ют* 又は *ут* (第一式) と *ят* 又は *ат* (第二式) との違ひにあることを注意しなければならぬ。

b) 語尾 *ать*, *ить* の直前に上顎音 *ж*, *ч*, *ш*, *щ* を有する動詞は多く第二式變化をする。變化の際語尾 *ать*, *ить* は除去されて語幹の最終文字は上顎音となるから音則(第二講第八課第二項参照)に依り單數一人稱の語尾は *y* に、複數三人稱の語尾は *ат* となる。例:

	уч-и-ть 教へる	леж-а-ть 臥す	слыш-а-ть 聞く
單數一人稱	уч-у́	леж-у́	слыш-у́
單數二人稱	уч-ишь	леж-ишь	слыш-ишь
複數三人稱	уч-ат	леж-ат	слыш-ат

v) *ться* を語尾とする動詞は變化の際 *ся* を人稱語尾の後に附す。その際母音の後に於て *ся* が *сь* に變ずることは前述の通りである。

例: занима́-ться 勉強する(第一式) уч-и-ться 學ぶ(第二式)

單 數	1	я занима́-юсь	уч-у́сь
	2	ты занима́-ешься	уч-и́шься
	3	{ он она́ оно́ } занима́-ется	уч-и́тся
複 數	1	мы занима́-емся	уч-и́мся
	2	вы занима́-етесь	уч-и́тесь
	3	они́ занима́-ются	уч-а́тся

## 2. 練 習

около	近邊に	магазин	商店
желать	希冀する	по-ру́сски	ロシア語で

удовольствие 満足      диван 長椅子  
ложиться 就寝する      иногда 時として

Что он<sup>о</sup> делает?      彼は何を爲て居るか。  
チトー オン 差-ライエツ

Он лежит на<sup>а</sup> диване и читает письмо.  
オン リヂエツ ナ ディウアーニエ イ チターイェツ ビシモー  
彼は長椅子に横臥して手紙を読んで居る。

Понимает ли доктор по-русски. 醫師はロシア語を解するか。  
パニマーイェツ リ ドクトル バルースキ

Да, он хорошо понимает.      左様彼はよく解る。  
ダ オン バラシヨー パニマーセツ

Когда вы ложитесь?      貴君は何時就寝するか。  
カクダー ヴー ラヂーモシ

Я ложусь различно: иногда рано, иногда поздно.  
ヤ ラヂューシ ラズリーチノ イナクダー ラーノ イナクダー ポズドノ  
私は色々に就寝する、或時は早く、或時は遅く。

Не желаете ли вы со<sup>а</sup>мною обедать сегодня?  
ニエ 左ラーセテ リ ヴー ソムノーニエ アベ-ダチ シガ-トニエ  
貴君は今日私と食事することを望みませんか。

С<sup>а</sup> удовольствием.      喜んで (御一緒にします)。  
ス ウダガ-リスツウセム

Где вы покупаете чай? 貴君は何處で茶を買ひますか。  
グデー ヴェ バクバーセテ Чай

Покупаю в<sup>а</sup> магазине.      私は商店で買ひます。  
ПакПар-ニエ ヴェ Магаж-ニエ

Где стоит дом Василия? ワシーリイの家は何處にあるか。  
グデー Стай-Иツ Дом УШ-リヤ

Дом Василия стоит около парка. ワシーリイの家は公園  
Дом УШ-リヤ Стай-Иツ О-Коло Парка の傍にある。

Курите ли вы?      貴君は喫煙なさるか。  
グーリテ リ ヴー

Нет, не курю.      否、喫煙致しません。  
ニエ-ツ ニエ Кур-ニエ

前置詞 на は「…の」と譯し、静止の状態を示す場合には前置格を要求する。前置詞 с (と) は「…と、…と共に、…をもつて」等の意味で、この場合は格を要する。前置詞 около (傍に) は所有格を要求する。前置詞 в (…に) は前止又は在留の意を示す場合には前置格を要求する。

## — 4 —

## 1 動詞の未來形

動詞の未來形は不定法に助動詞 быть の未來形(第四講第六課参照)を附して作る。其際、複數共助動詞 бытьのみ變化し、動詞は變化せず、原形のままで用する。この未來形は動詞と助動詞との結合によつて、單式未來に對して複合式未來と言つて居る。

單數	1. я буд-у писать	私は書くであらふ。
	2. ты буд-ешь писать	君は書くであらふ。
	3. он она оно буд-ет писать	彼は書くであらふ。
複數	1. мы буд-ем писать	我等は書くであらふ。
	2. вы буд-ете писать	貴等(貴君)は書くであらふ。
	3. они буд-ут писать	彼等は書くであらふ。

Где вы будете обедать сегодня? 今日貴君は何處で食事を  
グデー ヴェ Бу-дете Абе-даチ シガ-トニエ しますか。

Сегодня я буду обедать дома. 今日私は自宅で食事を  
シガ-トニエ Я Бу-ду Абе-даチ Дом する  
でせう。

Что вы будете делать завтра? 明日貴君は何を爲ますか。  
Что-вы Бу-дете Делать За-втра? ЧТо-вы Бу-дете Делать За-втра?

Завтра я буду писать письмо. 明日私は手紙を書くでせう。  
За-втра Я Бу-ду Пи-сать Пи-сьмо

## 2. 動詞命令法

動詞には命令法がある。命令法とは相手に向つて命令、希望、願望、説得等の意を表はす動詞の形式である。そして単数第一人稱を除くの外、単数及び複数の凡ての人稱は命令法を有するけれど、其内最も多く使用されるのは第二人稱であるから、此處には先づ第二人稱の命令法に就いて述べることにする。

第二人稱の命令法の語尾は單數に於て *й, и, ь* の三種あつて、動詞現在變化複數第三人稱から作る。即ち三人稱の語尾 *ют, ут, ят, ат* を取り去つて、その代りに命令法の語尾を附すればよい。その際 (1) 複數三人稱の語尾の直前に母音を有する時は命令法の語尾は *й* となり、(2) 三人稱の語尾の直前に子音二個あるか又は子音一個にて力點を人稱語尾に有するものは命令法の語尾 *и* となり、(3) 語尾の前に子音があつて、力點が語尾でなく語根にある場合(多くは單級動詞)には、命令法の語尾は *ь* となる。命令法複數の場合には是等の單數の語尾の後に更に *те* を附加して、*йте, ите, ьте* とすればよい。

例へば:

不定法 現在複數三人稱 二人稱命令法

- (1) *чита́ть* (讀む) *чита́-ют* *чита́-й*(單數) *чита́-йте*(複數)(讀め)  
 (2) *по́мнить*(記憶す) *по́мн-ят* *по́мн-и* *по́мн-ите* (記憶せよ)  
*гово́рить*(話す) *говор-ят* *говор-и* *говор-ите* (話せ)  
 (3) *ве́рить* (信ずる) *ве́р-ят* *ве́р-ь* *ве́р-ьте* (信ぜよ)

註。命令法の複數は二人以上の相手に対して命令する場合の外、一人に對しても敬意を表する場合(例へばお読みなさいといふ如き)には複數を使用する。

## 3. 練習 (一)

*писа́ть* 書く *переда́ть* 傳へる *приве́т* 挨拶  
*мой* 私の *пожа́луйста* 何卒 *ме́ленно* 徐々に  
*стара́ться* 努力する *ещё бо́льше* もっと多く

*Чита́й кни́гу и пиши́ письмо́?* 本を讀め、そして手紙を書け。  
チターイクニグイピシーピシモ

*Переда́йте мой приве́т!* 私の挨拶をお傳へ下さい。  
ペリダーイモイモイブリゼーツ

*Пожа́луйста, говори́те ме́ленно!* 何卒徐々に話して下さい。  
バヂャールイスタガダリーテメーダレンノ

*Стара́йтесь ещё бо́льше!* もっと努力しなさい。  
スタラーイテシイェシチ。ポーリシ

## 4. 練習 (二)

次の文章を試みに自分で讀んで、自分で譯して見たまへ。豫め文中の單語に就いて説明しておく

*кля́сс* 教室。 *учи́тель* 先生。 *вхо́дить* は入る。  
*гово́рить* 言ふ。 *положи́ть* 置く。 *кни́га* 本。  
*сто́л* 机。 *откры́ть* 開く。 *вста́ть* 立つ、起つ。  
*гро́мко* 高聲に。 *чита́ть* 讀む。 *хорошо́* 宜しい。  
*сади́ться* 坐る。 *госпо́дин* 君。 *да́льше* もっと先を。  
*дово́льно* 充分、澤山。 *закры́ть* 閉づる。

*господа́* (諸君) は *господи́н* の複數で特殊變化に屬する。 *их* (彼等を) は она (彼女) の複數目的格で、この文章では本を意味する。

前置詞 *в* と *на* とは何れも目的格と前置格とを要求する。目的格と共に立つ時は何れも事物の進行・移動・方向等を示し、前置格と共に立つ時は何れも事物の在留・静止状態を示す。ただその異なるとこ

ろは、в は事物の「内部に」の意味を有し、на は事物の「上に」又は「表面に」の意味を有す。

**В клáссе.** (教室に於て)

Учíteль вхóдит в клáсс и гóворит ученикáм :  
Господá, положíte кнiги на столы́, и открьóйте их.  
Господiн Миура, встань и грóмко читáй кнiгу.  
Хорощó, Миура, садiсь. Господiн Танака, встань  
и читáй дáльше. Довóльно. Господá, закрьóйте  
кнiги и положíte в столы́.

### 譯 文

先生が教室には入つて来て、生徒達に言ふには；諸君本を机の上  
に置き、そしてそれを開け。三浦君立つて高聲に本を讀め。三浦宜  
しい、坐れ。田中君立つてもつと先を讀め。たぐさ だ、諸君本を閉  
ちて、机の中にしまへ。

\* 附號「:」は二重點と云ひ、普通説明文の前に附する。

## 第 七 講

### 名詞の格を主とした文章の作り方

— 1 —

前回に於て動詞の講義は大體済んだから、今回は名詞の格の練習  
を主とした簡単な文章を綴ることしよう。格とは疑問代名詞кто?  
что? の間に應ずるものであることは前に述べておいたが、その内  
кто (誰が)、что (何が) の間に應ずる主格と когó (誰の)、чегó (何  
の) の間に應ずる所有格との練習は既に済んで居る。(第三講第五  
課及び第五講第四課参照)。だから今回は кому́, чемú 以下に就い  
て述べる。

### 1. 與格 Кому́? (誰に)

Кому́ は疑問代名詞 Кто の第三格(與格)であつて、誰に又は誰へ  
と譯す。従つて此の間に應ずる語も凡て與格となる。與格は主語の  
動作が何に關係し居るかを示す格である。

主 格		與 格(與格)	
男性:	мáльчик 少年 マールチク	—	мáльчику 少年に マールチク
女性:	дéвчкa 少女 デヴチカ	—	дéвчкe 少女に デヴチケ

Мáльчик дал яблoкo дéвчкe. 少年が少女に林檎を與へた。  
マールチク ダール ヤープロコ デヴチケ

Дéвчкa далá яблoкo мáльчику. 少女が少年に林檎を與へた。  
デヴチカ ダラー ヤープロコ マールチク

Крeстъя́нини передáл бáрину имéние. 農夫は旦那に所有地  
クリスチヤニン ベリダール バーリヌイ ミニエを渡した。

Сестра передала письмо брату. 姉妹は兄弟へ手紙を渡した。  
セストラー ベリダーラ ビシモー プラート

Купец продал товар покупателю. 商人は商品を買手に賣つた。  
クペツ プラダール タダール バクパーモ

Хозяин раздал деньги работникам. 主人は下男達に金を分けた。  
ホザイン ラズダール デーニギ ラボーツニカム

## 2. 目的格 Кого? (誰を)

Кого は кто の第四格(目的格)であつて「誰を」と譯す。従つて此の間に應ずる名詞は凡て目的格に變化する。生物名詞の目的格は男性に於ては所有格と同じく、無生物名詞の目的格は主格と同じである。кого? は生物に関する問である。

主格	所有格	目的格(單數)
ученик (生徒は) ウチニク	ученика (生徒の) ウチニカー	ученика (生徒を) ウチニカー
мальчик (少年は) マーリチク	мальчика (少年の) マーリチカ	мальчика (少年を) マーリチカ

Кого спрашивает учитель? 教師は誰を(誰に)問ふて居るか。  
カダー спрашиваеツ учи́тель

Учитель спрашивает ученика. 教師は生徒を問ふて居る。  
Учи́тель спрашиваеツ ученика

Кого учит он? 彼は誰を(誰に)教へて居るか。  
Када́ у́чит он

Он учит мальчика. 彼は少年を教へて居る。  
Он у́чит мальчика

Кого ловит рыбак? 漁師は誰(何)を釣つて居るか。  
Када́ ло́вит рыба́к

Рыбак ловит рыбу. 漁師は魚を釣つて居る。  
Рыба́к ло́вит ры́бу

Кого кормит мать? 母は誰を養つて居るか(誰に授乳して居るか)  
Када́ ко́рмит ма́ть

\* кого はカダーと發音す。以下準之\*

Мать кормит ребёнка. 母は赤兒を養つて居る。  
Ма́ть ко́рмит ребёнка (赤兒に授乳して居る)  
マーチ コールミツ リェビョンカ

Кого ведёт мальчик? 少年は誰を案内してゐるか。  
Када́ веде́т ма́льчик  
カダー だチョーツ マーリチク

Мальчик ведёт старика. 少年は老人を案内して居る。  
Ма́льчик веде́т стари́ка  
マーリチク だチョーツ スタリカー

Мальчик уважает старика. 少年は老人を尊敬する。  
Ма́льчик ува́жает стари́ка  
マーリチク ウウヂャーセツ スタリカー

Девочка любит папу и маму. 少女はお父さんとお母さんを愛する。  
デ́вочка ло́бит па́пу и ма́му  
デウチカ ルービツ パープ、イ マーム

Ученик нарисовал пастуха. 生徒は牧者を描いた。  
Учи́ник на́рисова́л па́стуха  
ウチニク ナリサヴァール パストヘー

Пастух гонит корову. 牧者が乳牛を牧して居る。  
Па́стух го́нит ко́рову  
Пастуフ ゴーニツ カロウ

Отец купил быка. 父は牡牛を買つた。  
Оте́ц купи́л бы́ка  
アチョーツ クビール オカー

Охотник ловит лису и зайца. 獵師が狸と兎を獲してゐる。  
Охо́тник ло́вит лису́ и за́йца  
アホーツニク ローダツ リスー イ ジャー

Заяц увидел собаку и спрятался. 兎は犬を見てそして隠れた。  
За́яц уви́дел соба́ку и спр́ятала́сь  
ジャウツ ウダール サバーク、イ スフルータル

Мышка увидела кошку и спряталась. 鼠は猫を見てそして隠れた。  
Мы́шка уви́дела ко́шку и спр́ятала́сь  
ミーシカ ウダール コーシク、イ スフルータル

## — 2 —

## 1. 目的格 Что? (何を)

Что は主格の場合には「何が」と譯し、目的格の場合には「何を」と譯す。此所は目的格の場合であるから此の間に應ずる名詞は凡て目的格に立つ。Кто が生物に對する問であるに對して、Что は無生物に對する問である。無生物名詞の目的格は男性に於ては主格と同じであることを忘れてはならぬ。

Что читает девочка? 少女は何を讀んでゐるか。  
 ЧТ-О ЧТ-А-Е-Т Д-Е-В-О-Ч-К-А  
 Девочка читает книгу. 少女は本を讀んで居る。  
 Д-Е-В-О-Ч-К-А ЧТ-А-Е-Т К-Н-И-Г-У  
 Что надевает ученик? 生徒は何を着て居るか。  
 ЧТ-О НА-Д-Е-В-А-Е-Т У-Ч-Е-Н-И-К-А  
 Ученик надевает шубу. 生徒は外套を着て居る。  
 У-Ч-Е-Н-И-К-А НА-Д-Е-В-А-Е-Т Ш-У-Б-У  
 Что шьёт\*1 женщина? 婦人は何を縫つて居るか。  
 ЧТ-О Ш-Ь-Ё-Т Ж-Е-Н-Щ-И-Н-А  
 Женщина шьёт рубашку. 婦人はシャツを縫つて居る。  
 Ж-Е-Н-Щ-И-Н-А Ш-Ь-Ё-Т Р-У-Б-А-Ш-К-У  
 Что строит плотник? 大工は何を建てゝ居るか。  
 ЧТ-О СТ-Р-О-И-Т П-Л-О-Т-Н-И-К-А  
 Плотник строит избу. 大工は小屋を建てゝ居る。  
 П-Л-О-Т-Н-И-К-А СТ-Р-О-И-Т И-З-Б-У  
 Что пьёт\*2 корова? 牝牛は何を飲んで居るか。  
 ЧТ-О П-Ь-Ё-Т К-О-Р-О-В-А  
 Коровы пьёт воду. 牝牛は水を飲んで居る。  
 К-О-Р-О-В-А П-Ь-Ё-Т В-О-Д-У  
 Женщина ставит самовар.\*3 婦人はサモワールを準備して居る。  
 Ж-Е-Н-Щ-И-Н-А СТА-В-И-Т СА-М-О-В-А-Р-А  
 Медники делают самовары. 銅工等がサモワールを拵へて居る。  
 М-Е-Д-Н-И-К-И Д-Е-Л-А-Ю-Т СА-М-О-В-А-Р-Ы  
 Девушка носит платок. 娘が頭巾を被つて居る。  
 Д-Е-В-У-Ш-К-А Н-О-С-И-Т П-Л-А-Т-О-К-А  
 Он купил стол и книгу. 彼は机と本を買ふた。  
 О-Н КУ-П-И-Л С-Т-О-Л И К-Н-И-Г-У  
 Она дала нищему копейку. 彼女は乞食に一カペイカ(一錢)を與へた。  
 О-НА Д-А-Л-А Н-И-Щ-Е-М-У К-О-П-Е-Й-К-У

\*1 Шить: я шью, ты шьешь, он шьёт; мы шьём, вы шьёте, они шьют  
 \*2 Пить: пью, пьёшь, пьёт; пьём, пьёте, пьют  
 \*3 口シヤ獨特の湯沸器で自沸釜と譯する。

Люди едят\*1 хлеб и мясо, а 人々はパンと肉を食ひそして  
 Л-Ю-Д-И Е-Д-А-Т Х-Л-Е-Б И М-Я-С-О, А  
 Пьют молоко и чай. 牛乳と茶を飲む。  
 П-Ь-Ю-Т М-О-Л-О-К-О И Ч-А-Й

2. 造格 Чем? (何にて)

Чемは что の第五格(造格)であつて、「何にて」又は「何で」と譯し、此の間に應ずる名詞は凡て造格に變化する。

	主格(單數)	造格(單數)
男性	карандаш 鉛筆 КА-Р-А-Н-Д-А-Ш	карандашом 鉛筆にて КА-Р-А-Н-Д-А-Ш-О-М
女性	палка 杖 ПА-Л-К-А	палкой 杖にて ПА-Л-К-О-Й
中性	мясо 肉 М-Я-С-О	мясом 肉にて М-Я-С-О-М

Чем пишет ученик? 生徒は何で書いてゐるか。  
 Ч-Е-М П-И-Ш-Е-Т У-Ч-Е-Н-И-К-А  
 Ученик пишет карандашом. 生徒は鉛筆で書いて居る。  
 У-Ч-Е-Н-И-К-А П-И-Ш-Е-Т К-А-Р-А-Н-Д-А-Ш-О-М  
 Чем бьёт\*2 собаку мальчик? 少年は何で犬を打つて居るか。  
 Ч-Е-М Б-Ь-Ё-Т СО-БА-К-У М-А-Л-Ь-Ч-И-К-А  
 Мальчик бьёт собаку палкой. 少年は杖で犬を打つて居る。  
 М-А-Л-Ь-Ч-И-К-А Б-Ь-Ё-Т СО-БА-К-У П-А-Л-К-О-Й  
 Чем питается волк? 狼は何で養はれて居るか。  
 Ч-Е-М П-И-Т-А-Е-Т-С-Я ВО-Л-К-А  
 Волк питается мясом. 狼は肉で養はれて居る。  
 ВО-Л-К-А П-И-Т-А-Е-Т-С-Я М-Я-С-О-М  
 Чем торгует купец? 商人は何で(何をの意)商賣して居るか。  
 Ч-Е-М Т-О-Р-Г-У-Е-Т КУ-П-Е-Ц-А  
 Купец торгует сахаром. 商人は砂糖にて(をの意)商賣して居る。  
 КУ-П-Е-Ц-А Т-О-Р-Г-У-Е-Т СА-Х-А-Р-О-М

\*1 Есть: ем, ешь, ест; едим, едите, едят.  
 \*2 Бить: бью, бьёшь, бьёт; бьём, бьёте, бьют.



Чем узнают запах?

チム ウズナユツ ザーバフ

何で香を識別するか。

Запах узнают носом.

ザーバフ ウズナユツ ノーソム

香を鼻で識別する。

Корба питается сеном

カローダ ビターセツツ セーノム

и 牝牛は乾草にて及び藁にて養は

солбой.

サローモイ

れて居る。

Крестьянин пахнет землёю

クリュスチヤーニン パーシツ ツーム

農夫は鋤にて若くは犁にて土地

сохбой или плугом.

ザホーイ イーリ プルーゴム

を耕して居る。

Портной шьёт иглой, а

バルフノーイ ショーフ イグローイ

裁縫師は針で、然し靴工は靴針

сапожник шилом.

サポーヂニク シーロム

で縫つてゐる。

### 3. 前置格 O ком? (誰のこと), O чём? (何のこと)

o は前置詞で「…の」と又は「…に就いて」と譯する。ком чём は кто, что の前置格である。従つてこの間に應ずる名詞の格は矢張り o を前置詞とした前置格でなければならぬ。そして名詞の前置格(單數)の語尾は男性でも女性でも中性でも凡て e となることを忘れてはならぬ。

Он сказал о товарище.

オン スカザール オ タダールシモ

彼は同僚のことを話した。

Она часто вспоминала о сыне.

アナ タースト フスバミナーラ オ スーニ

彼女は屢々息子のことを想ひ出した。

Я совсем забыл о книге.

ヤ サフシーム ザダール オ クニーゲ

私は全く本のことを忘れてゐた。

Что он говорил о брате?

チトー オン ガダリール オ ブラーテ

彼は兄弟のことに就いて何と言つたか。

Мать сообщала отцу о сестре. 母は姉妹のことを父に知ら

マータ サアブシチーラ アツツ オ シストムセた。

Брат упоминает в письме兄弟は父のことを手紙の中に記憶

ブラーツ ウバミナーセツ フ ビシメー

об<sup>o</sup> отце.

オブ アツツ

してみる(書いてみるの意)。

Он писал о пожаре.

オン ビヴァール オ ハチーリ

彼は火事のことを書いた。

Я получил известие о

ヤ バルチール イズダースチエ オ

私は勝利に関する報告を受取つ

побёде.

バベール

た。

\* 前置詞 o は次の語が母音で始まる時は聲調の関係で ob となる。

### — 3 —

#### 1. 目的格 Куда? (何處へ)

前置詞 в, на 「…に」又は「…へ」

Куда は事物の方向又は移動を示す疑問副詞である。此の間に應ずる名詞は常に前置詞 в 又は на と共に第四格(目的格)に立つ。

ロシア語に於て前置詞は常に一定の格を要求する。前置詞 в, на は前講でも述べておいたが、何れも事物の方向及び移動を示す場合には常に目的格を要求する。兩前置詞の區別を示せば、в は事物の内部に向つて移動する意を表はし、на は事物の上表面に向つて進動する意を示す。初學者は往々此の區別を混同し易いから、深く其の用法に注意しなければならぬ。

В стол (机の中へ)

フ ストール

На стол (机の上へ)

ナ ストール

В стену (壁の中へ)

フ ステュー

На стену (壁の上へ)

ナ ステュー

В дерево (木の中へ)  
ウチニク イチノウ フ シュコール

На дерево (木の上へ)  
ナ チニク

Ученик идёт\* в школу. 生徒、へ行く。  
ウチニク イチノウ フ シュコール

Мальчик поднимается на дерево. 少年は樹の上へ昇つて居  
マールチキ パツニマーセツツ ナ チニク

Учитель сел на стул. 教師は椅子の上に坐つた。  
ウチニク シュール ナ ストル

Я положил тетрадь в стол. 私は帳面を机の中へ入れた。  
ヤ パラヂール テツラーチ ウ ストル

Ученик повесил картину на стéну. 生徒は繪を壁の上に掛けた。  
ウチニク バダシル カルチャーヌ ナ  
ステヌ。  
ステヌ

Ученица положила книгу на парту. 女生徒が學校机の上へ本を置  
ウチニツ パラヂーラ クニグ ナ  
いた。  
パールト

Мальчики идут в школу. 少年達が學校へ行く。  
マールチキ イチノウ フ シュコール

Крестьянин едет в лес. 農夫が林へ乗り行く。  
クリスチャーニン セニツ ヴリュース

Волк попался в капкан. 狼が罠(ワナ)に係つた。  
ヴォルク ババルシ フ カブカーン

Он бросил бумагу на пол. 彼は紙を床の上へ投げる。  
Он БрошИт бумагу на пол

Я положил ручку в парту. 私はペン軸を學校机の中へ置  
ヤ.Параヂール | ルーチク フ Парту  
いた(入れた)。

Он засунул руку в карман. 彼は手をポケットの中へ差込  
Он Засунул руку в карман.  
んだ。

\* идти: иду, идёшь, идёт; идём, идёте, идут.

Она повесила тряпку на доску. 彼女は黒板消を板(黒板)の  
アナ バダシラ トループク ナ ドースク上へ掛けた。

Ты сел на стул. 君は椅子の上へ坐つた。  
Ты Шүүл на Стул

Ты положил тряпку в печку. 君は トープの中へボロを置  
Ты Параヂール トループク フ Печику いた  
れた)。

а) Настало утро. 朝が来た(朝になつた)

Проснулись люди и пошлИ\* 人々は目を醒まして仕事に行  
Проснулись люди и пошлИ\*  
つた。  
Проснулись люди и пошлИ\*  
つた。

Кузнец пошёл в свою кузницу, 鍛冶職は自分の鍛冶工場へ  
Кузнец пошёл в свою кузницу,  
行つた、婦人達は小川へ行  
Жённости пошлИ на речку, а  
つた、然し子供達は學校へ  
Дети побежали в школу. 駆け出した。  
Дети побежали в школу.

б) Настало утро.

Проснулись мужики и поехали 百姓達は目を醒ましてそし  
Проснулись мужики и поехали  
て乗り行つた—或者は粉挽  
—кто на мельницу, кто в лес,  
場へ、或者は林へ、或者は村  
кто в село, кто в город.  
へ、或者は町へ。  
кто в село, кто в город.

2. 前置格 Где? 「何所に」又は「何處で」

前置詞 в, на

Где は場所に関する疑問副詞で、事物の在留又は静止を示し、  
何所に」「何所で」「何所に於て」と譯する。此の問に應ずる名詞は

\* пойти の過去形は不規則にして пошёл, пошла, пошёл, пошла なる。

前置詞 **в** 又は **на** と共に第六格(前置格)に立つ。

前置詞 **в** 及び **на** は前節に説明した如く、**куда** の間に對しては事物の方向又は移動を示し、名詞の目的格を要求するけれど、**где** の間に對しては、事物の静止若くは在留を示し、前置格を要求する。前置格に於ける **в** と **на** との區別を示せば、**в** は「中に於て」と譯し、事物の内部に在留するを意味し、**на** は「上に於て」と譯し、事物の上表面に在留することを意味する。

<b>В столѣ</b> (机の中に) フ スタリユ-	<b>На столѣ</b> (机の上に) ナ スタリユ-
<b>В водѣ</b> (水の中に) ヴ ヴォド-	<b>На водѣ</b> (水の上に) НА ВОД-

<b>Тетрадь</b> лежит в столѣ. テツラーヂ リュヂーツ フ スタリユ-	帳面は机の中に横はつて居る(在る)。
<b>Книга</b> лежит на столѣ. クニガ リュヂーツ ナ スタリユ-	本は机の上に横はつて居る(在る)。
<b>Яйца</b> лежат в гнѣздѣ. ヤイツ リュヂャーツ ヴ グニスズ-	卵は巢の中に在る。
<b>Дѣвушка</b> сидит на скамейке. デヴシカ シヂーツ ナ スカмейке	少女は腰掛の上に坐つて居る。
<b>Рыба</b> плавает в водѣ. リバ プラーヴセツ ヴ ヴォド-	魚が水の中で遊いで居る。
<b>Гусь</b> плавает на водѣ. グーシ プラーヴセツ ナ ヴォド-	鴈鳥が水の上で遊いで居る。
<b>Мышка</b> сидит в ловушкѣ. Мийшка シヂーツ ヴ ラヴーシケ	鼠が鼠捕りの中に坐つて居る。
<b>Чулки</b> висят на верѣвкѣ. チュлки ヴシーツ ナ ヴェルーフケ	靴下が繩の上に掛つて居る。
<b>В саду</b> <sup>1</sup> растёт дерево. フ サド- ラスチーツ チェーリユ-	庭園の中に樹が生へて居る。

<b>В рекѣ</b> плавает рыба. ヴ リュケー プラーヴセツ リバ	川の中に魚が遊いで居る。
<b>Пчѣлы</b> живѹт в ульѣ. Пч-лы ЧИВУТ В УЛЬЕ	蜂が蜂の巢の中に棲んで居る。
<b>Камень</b> бываѣт в землѣ и на землѣ. Камени БИВАЕТ В ЗЕМЛЕ И НА ЗЕМЛЕ. ナ Земリユ-	石は地の中に及び地の上に在る。
<b>Лѣд</b> бываѣт на рекѣ. レ-д ОД-ВАЕТ НА РЕКЕ	氷は川の上に在る。
<b>Бумага</b> лежит на полѹ. <sup>2</sup> Бумага ЛЮЖИТ НА ПОЛУ.	紙は床の上に在る。
<b>Стул</b> стои́т в углу. <sup>3</sup> Стул Стоит В УГЛУ.	椅子は隅に立つて居る(在る)。
<b>Вода</b> кипи́т в самоваре. Вода КИПИТ В САМОВАРЕ.	水はサモヴァールの中で沸いて居る。
<b>Учи́тель</b> си́дит на стуле. Учи́тель СИДИТ НА СТУЛЕ.	教師は椅子の上に坐つて居る。
<b>Где ты</b> живѣшь* — в гóродѣ или в деревнѣ? Где ты живѣшь* — в гóродѣ ИЛИ В ДЕРЕВНѢ? И-ри ヴ ЧЮР-Ю-В=	君は何處に住んで居る—町にかそれとも村にか。
<b>Я</b> живу́ в гóродѣ, а не в деревнѣ. Я ЧИВУ В ГОРОДЕ, А НЕ В ДЕРЕВНЕ. ЧЮР-Ю-В=	私は都會に住んで居る、然し村にでない。
<b>Где</b> живѹт волки и медвѣди? Где ЧИВУТ ВОЛКИ И МЕДВЕДИ?	何處に狼と熊は棲んで居るか。
<b>Волки</b> и медвѣди живѹт в лесу. <sup>4</sup> Волки И Медведи ЧИВУТ В ЛЕСУ.	狼と熊は林の中に棲んで居る。

[註] <sup>1</sup>сад, <sup>2</sup>пол, <sup>3</sup>угол, <sup>4</sup>лес は前置格に於て語尾 **о** の代りに **у** を受  
其他にも或る男性名詞は前置格に於て此の形を取るものがある。

Где живёт\*<sup>1</sup> рыбы и лягушки? 何處に魚と蛙は棲んで居るか。  
グヂュー チヴーツ ムーゾ イ リエグーヒキ

Рыбы и лягушки живут в воде. 魚と蛙は水の中に棲んで居る。  
ムーゾ イ リエグーヒキ チヴーツ ヴ ヴヂュー。

Где растут\*<sup>2</sup> овёс и рожь? 何處に燕麥と裸麥は生えてゐるか。  
グヂュー ラストフーツ ヴグーヌ イ ローシ

Овёс и рожь растут в поле. 燕麥と裸麥は畑に生えてゐる。  
フグス イ ローシ ラストフーツ フ ポーリュ

Где растут сосна и ель? 松と樺は何處に生えてゐるか。  
グヂュー ラストフーツ サスナー イ ヒーリ

Сосна и ель растут на горе. 松と樺は山に生えてゐる。  
サスナー イ ヒーリ ラストフーツ ナ ガリユ

Где живёт червяк? 小虫は何處に棲んでゐるか。  
グヂュー チヴーツ ムルヴァーク

Червяк живёт в земле. 小虫は地中に棲んでゐる。  
ムルヴァーク チヴーツ ヴ Земля

\*<sup>1</sup> Жить: живу́, живёшь, живёт; живём, живёте, живут.

\*<sup>2</sup> расти: расту́, растёшь, растёт, растём, растёте, растут.

## 第八講

### — 1 —

#### 1 形容詞に就いて

意々形容詞の番となつた。形容詞は疑問代名詞 *каков?* (如何なる) *каков?* (如何なるもの) *чей?* (誰の) 等の間に答へて事物の様々な特徴を示す品詞である。例へば:

добрый (善良なる) злой (悪しき) белый (白き)  
чёрный (黒き) деревянный (木造の) каменный (石造の)  
городской (町の) деревенский (村の) утренний (朝の)  
вечерний (晩の) завтрашний (明日の) сегодняшний (今日の)

#### 2. 形容詞の種類

形容詞は其意味によつて (1) 性質形容詞、(2) 物主形容詞、(3) 関係形容詞、(4) 状況形容詞の四種に區別される。

(1) 性質形容詞は凡て事物の性質 (品質、形状、色彩) を示すものである。例へば:

добрый	善良なる	злой	悪しき
красный	赤き	зелёный	緑の
круглый	圓き	крутой	険しき

(2) 物主形容詞は事物が人間又は動物に屬するを示す。例へば:

ученический	生徒たるの	учеников	生徒の
офицерский	士官たるの	офицеров	士官の
отцовский	父たるの	отцов	父の
волчий	狼の	собачий	犬の

(3) 関係形容詞は多く名詞より作成するもので、事物の出生、或は事物の原料、或は事物の数量、程度等を示すものである。例へば：

городскóй	都市の	деревéнский	村の
железны́й	鐵の	золотóй	金の
пудовы́й	布度の	дюймо́вый	吋の

(4) 状況形容詞は多く副詞より作るもので、時、場所の状況を示すものである。例へば：

тамошны́й	彼所の	здéшний	此所の
вчера́шний	昨日の	сего́дняшкый	今日の
далéкий	遠き	блízкий	近き
зímний	冬の	весéнный	春の
востóчный	東の	запа́дный	西の

### 3. 形容詞の語尾

形容詞は二様の語尾を有す。一は完全語尾と稱し、一は簡約語尾と云ふ。完全語尾は全尾形容詞とも云ひ、形容詞を名詞の定語として使用する際に用ひ、簡約語尾は断尾形容詞とも云ひ、形容詞を客語として使用する際に用ふ。全尾形容詞の語尾は男性が **ый, ий**、女性が **ая, яя**、中性が **ое, ее** で、断尾形容詞の語尾は男性が凡ての硬子音と **ь**、女性が **а, я**、中性が **о, е** となる。要するに断尾は全尾の語尾を切断して、新たに性の語尾を附したものである。

	男性	女性	中性	
完全語尾	дóбр-ый	дóбр-ая	дóбр-ое	(善良なる)
	мóлод-ой	мóлод-ая	мóлод-ое	(若い)
	сín-ий	сín-яя	сín-ее	(青き)
簡約語尾	дóбр	дóбр-а	дóбр-о	(善良である)
	мóлод	мóлод-а	мóлод-о	(若い)
	сínь	сín-я	сín-е	(青い)

### 4 形容詞の用法

前述の如く形容詞は二通りに使用される。一は名詞の定語 (限定語) として、一は客語として用ひられる。

定語としての形容詞は完全語尾で、常に「如何なる」「何の」の間に應じ、純然たる形容詞の働きをするが、客語としての形容詞は簡約語尾で、文章では「…である」といふ風に常に客語の働きをする。

дóбрый человек.	善良なる人	(定語)
человек дóбр.	人は善良である	(客語)
дорогáя кн́ига.	高價な本	(定語)
кн́ига дорогá.	本は高價である	(客語)
с́инее мóре.	青き海	(定語)
мóре с́ине.	海は青い	(客語)

### 5. 形容詞と名詞との關係

I. 定語としての形容詞はその性、數、格を關係する名詞の性、數、格に一致させなければならない。即ち名詞が男性なれば形容詞も男性、名詞が單數なれば形容詞も單數、名詞が所有格なれば形容詞も所有格といふ風に、形容詞は性、數、格に於て名詞に従はなければならない。例へば：

Сын дóброго уч́ителя. 善良なる教師の息子。

Она́ купи́ла интере́сную кн́игу. 彼女は面白い本を買ふた。

と云ふ文中の дóброго (男性・單數・所有格)、интере́сную (女性・單數・目的格) は關係する名詞の性・數・格と一致する。

2. 客語としての形容詞は其性と數とを主語たる名詞又は代名詞の性と數とに一致させる。即ち主語たる名詞又は代名詞が單數なれば

ば客語たる形容詞も單數、主語たる名詞又は代名詞が女性なれば客語たる形容詞も亦女性にする、例へば：

Лето жарко, зима холодна, а весна и осень прохладны. 夏は暑い、冬は寒い、併し春と秋は涼しい。

Она вежлива и ласкова. 彼女は慇懃で愛想がよい。と云ふ文中に於て жарко (單數・中性)、холодна (單數・女性)、прохладны (複數)、вежлива (單數・女性)、ласкова (單數・女性) 等は何れも斷尾形容詞で、主語と性及び數を一致させたのである。

## — 2 —

### 1 客語としての形容詞

既に述べたる如く客語としての形容詞は性と數の區別を有するだけで、格の變化をしない。その性の語尾は次の通りである。

	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
硬 語 尾	子音	о	а	ы
軟 語 尾	子音, ь	е	я	и

【註】 1. 硬語尾は硬語尾の形容詞に用ひ、軟語尾は軟語尾の形容詞に用ゆ。

2. 軟語尾單數の男性は硬語尾と同様の子音に終る。唯 синий (青き)の一語のみは ь を語尾とする。

### 2 斷尾形容詞の作成法

普通形容詞の語尾 ый, ой, ий を除きて之に性の語尾を附して作る 其際完全語尾に於て硬語尾 ый, ой を有するものには硬語尾を

用ひ、軟語尾 ий に終るものには軟語尾を用ゆ、例へば：

добрый 善良なる: добр(ы) добр-а(女) добр-о(中) добр-ы(男)  
 молодой 若き: молод молодой-а молодой-о молодой-ы  
 синий 青き: син-ь син-я син-е син-и

【注意】 (1) 完全語尾 ий の前に喉音 г, к, х を有するものは簡約語尾に於て硬語尾を受く。但し複數に於ては音則に依り ы の代りに и を用ゆ。例へば：

строгий 嚴重なる: строг(ы) строг-а(女) строг-о(中) строг-и(男)  
 дорогой 高價なる: дорог дорогой-а дорогой-о дорогой-и  
 высокий 高き: высок высок-а высок-о высок-и

(2) 完全語尾 ий の前に上顎音 ж, ч, ш, щ を有するものは簡約語尾に於て軟語尾を受く。但し音則上 я (單數女性) の代りに а を用ひ、е (單數中性) は多くの場合力點を受くるを以て о となる。

свежий 新鮮なる: свеж(ы) свеж-а(女) свеж-о(中) свеж-и(男)  
 хороший 宜しき: хорош хорош-а хорош-о хорош-и

(3) 凡て完全語尾の前に二子音を有する形容詞は簡約語尾單數男性に於て兩子音間に о 又は е を挿入す。若し二子音の後者が к なる時は多く о を挿入し、其他は多く е を挿入す。又二子音中に ь 又は й を有するものは之を е に變ず。例へば：

сладкий 甘き: сладок сладка сладко сладки  
 кислый 酸き: кисел кисля кисло кислы  
 нужный 必要なる: нужен нужна нужно нужны  
 трудный 困難なる: труден трудна трудно трудны  
 больной 病める: болен больна больно больны  
 стройный 整然たる: стробен стройна стройно стройны  
 但し стый を語尾とする形容詞は語尾の前に二子音あるも挿入を

なさを。例へは：

ЧИСТЫЙ 清き: ЧИСТ ЧИСТА ЧИСТО ЧИСТЫ

(4) 簡約語尾の單數中性は副詞にも使用す。

хороший	良き	хорошо	良く
чистый	清き	чисто	清く
плохой	悪しき	плохо	悪く
дорогой	高價なる	дорого	高價に
дешёвый	廉價なる	дёшево	廉價に

3. 練習

грамматика	文法	дешёвый	廉價なる
богатый	富める	скупой	吝嗇なる
трудолюбивый	勤勉なる	бережливый	儉約なる
знакомый	知己なる	познакомиться	知己となる
длинный	長き	короткий	短き
бедный	貧しき	здоровый	健康なる

Грамматика дорога, но словарь дешёв. 文法は高價だが辞書は低廉である。

Отец товарища трудолюбив. 同僚の父は勤勉である。

Знакомы ли вы с ним? 貴君は彼と知己ですか。

Да, знаком, недавно познакомился. 左様知己です、ツヒ此頃知己になりました。

Летом день длинен. 冬には日が長い。

Мать здорова, но отец болен. 母は健康ですが父は病氣です。

1 定語としての形容詞

定語としての形容詞は男・女・中性と單數・複數を有し、六格に變化する。その變化語尾は次の通りである。

		硬語尾			軟語尾		
格		男性	中性	女性	男性	中性	女性
單數	主格	ый	ое	ая	ин	ее	яя
	所有格	ого	ого	ой	его	его	ей
	與格	ому	ому	ой	ему	ему	ей
	目的格	主又ハ所有	ое	ую	主又ハ所有	ее	юю
	造格	ым	ым	ою(ой)	им	им	ею(ей)
	前置格	ом	ом	ой	ем	ем	ей
複數	主格	ые			ие		
	所有格	ых			их		
	與格	ым			им		
	目的格	(主格又ハ所有格)			(主格又ハ所有格)		
	造格	ыми			ими		
	前置格	ых			их		

【註】 1. 單數に於て男性と、中性とは主格と目的格を除くの外諸格の語尾は同一である。

2. 單數目的格は (a) 男性に於ては關係する名詞が無生物なる時は主格と同じく、生物なる時は所有格と同じ。(b) 中性の目的格は常に主格と同じく、(b) 女性の目的格は特殊の語尾を有す。

3. 複數は三性共通で、一つの型しかない。たゞ硬語尾と軟語尾との違ひがあるだけである。目的格に於ては三性共關係する名詞が無生物なれば主格と同じく、生物なれば所有格と同じである。

2. 形容詞硬變化

語尾 **ый, ой** を有するものは硬變化に屬する。硬變化は諸格の變化語尾に硬文字を用ゆるからその名がある。

下に **добрый** (善良なる) の男・中・女性を單數と複數とに變化して見よう。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主、呼	добр-ый	добр-ое	добр-ая	добр-ые
所有	добр-ого	добр-ого	добр-ой	добр-ых
與	добр-ому	добр-ому	добр-ой	добр-ым
目的	主又は所有	добр-ое	добр-ую	主又は所有
造	добр-ым	добр-ым	добр-ою(ой)	добр-ыми
前置	о добр-ом	о добром	о добр-ой	о добр-ых

【註】 女性單數造格の語尾は **ой** でも **ою** でも差支ない。

主格に於て **ой** を語尾とする形容詞と **ый** を語尾とする形容詞とは、主格を除く外語尾變化は全く同じである。ただ力點が語尾に附く場合に **ый** が **ой** に變るだけである。この種の形容詞は短綴の形容詞に多い。例へば：

зл**ый**, пл**ох**ый, бол**ьн**ый, дорог**ий**, прост**ой**.

добрый の例に従つて次の形容詞を變化して御覽なさい。

н**ов**ый 新しき    стар**ый** 古き    бог**ат**ый 富める  
 бед**н**ый 貧しき    бел**ый** 白き    крас**н**ый 赤き  
 здоров**ый** 健康なる    бол**ьн**ый 病める    жел**ез**ный 鐵の  
 зол**от**ый 金の    молод**ой** 若き

【注意】 形容詞は名詞に附隨するものであるから練習に際しても名詞と一緒に其變化を實習することが肝要である。

- |  |                    |               |               |
|--|--------------------|---------------|---------------|
|  | 男 性<br>單 數 (善良なる友) | 中 性<br>(新しき語) | 女 性<br>(新しき本) |
|--|--------------------|---------------|---------------|
1. добрый товарищ    новое слово    новая книга
  2. доброго товарища    нового слова    новой книги
  3. доброму товарищу    новому слову    новой книге
  4. доброго товарища    новое слово    новую книгу
  5. добрым товарищем    новым словом    новой книгой
  6. о добром товарище    о новом слове    о новой книге

- 複 數
1. добрые товарищи    новые слова    новые книги
  2. добрых товарищей    новых слов    новых книг
  3. добрым товарищам    новым словам    новым книгам
  4. добрых товарищей    новые слова    новые книги
  5. добрыми товарищами    новыми словами    новыми книгами
  6. о добрых товарищах    о новых словах    о новых книгах

次の形容詞と名詞とを同時に變化して見なさい。

интересная книга 面白き本    больн**ой** брат 病める兄弟  
 почт**ов**ая бумага 手紙用箋    симпатичн**ый** мальчик 同情ある少年  
 письменн**ый** стол 文机    нов**ая** этажерка 新しき戸棚  
 почт**ов**ая марка 郵便切手    нов**ый** год 新年

3. 文 例

Он бог**ат**ый человек.    彼は富める人である。  
 Наш учитель добр**ый** человек.    我等の教師は善良なる人である。  
 Это крас**н**ый карандаш, то чер**т**.    是は赤い鉛筆である、それ

\* 形容詞單數所有格の語尾 **ого** の **г** は **в** と發音す。以下準之。



ный карандаш. は黒い鉛筆である。  
 Это синяя коробка, то зелёная. 是は青い箱である、それは緑の(箱)である。  
 Это красное окно, то белое окно. 是は赤い窓である、それは白い窓である。  
 Богатый купец торгует. 富める商人が商賣をしてゐる。  
 Злая собака кусает. 悪い犬は咬む。  
 В саду растёт высокое и тол- 庭の中に高い太い樹が生えて  
 стое дерево. ゐる。  
 В реке плавают большая рыба. 川(中)で大きな魚が遊いでゐる。

4. 練習

подарить	贈與する	почтовая бумага	手紙用箋
письменный	書き物用の	почтовый	郵便の
марка	切手	возвратиться	歸る
новый год	新年	запретить	禁ずる
выходить	出る	золотой	金の
часы	時計	симпатичный	同情ある

Дядя подарил брату золотые часы. 伯父は兄弟に金時計を贈つた。

Где почтовая бумага? 手紙用箋は何處にあるか。

Почтовая бумага в письменном столе. 手紙用箋は文机の中にある。

Он обещал возвратиться до нового года. 彼は新年までに歸る約束をした。

Больному брату доктор запретил выходить на двор. 病氣の兄弟に醫者は屋外へ出るのを禁じた。

1. 形容詞軟變化

語尾 ий を有する形容詞は軟變化に屬する。軟變化は諸格の語變化に軟文字を用ゆる。今 синий (青き) を變化して見よう。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主呼	син-ий	син-ее	син-ья	син-ие
所有	син-его	син-его	син-ей	син-их
與	син-ему	син-ему	син-ей	ин-им
目的	主格又は所有格	син-ее	син-юю	主格又は所有格
造	син-им	син-им	синюю(ей)	син-ими
前置	о син-ем	о син-ем	о син-ей	о син-ях

【注】 女性單數造格の語尾は ею でも ей でも隨意。

синий の例に従つて次の形容詞と名詞を變化せよ。

1. верхний 上部の средний 中部の нижний 下部の  
 вчерашний 昨日の сегодняшний 今日の утренний 朝の  
 вечерний 晩の весенний 春の осенний 秋の
2. верхняя полка 上の棚 вчерашняя газета 昨日の新聞  
 утренний поезд 朝の汽車 весенний день 春の日  
 последнее известие 最近の報告 синее море 青き海

【注意】 1. 語尾の前に喉音 г, к, х を有するものは硬變化をする。但硬音の後には音則上 ы は用ひられないから、その代りに軟音 и を用ゆ。

строгий 嚴格なる

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主格	строг-ий	строг-ое	строг-ая	строг-ие
所有格	строг-ого	строг-ого	строг-ой	строг-их

與格	стро́г-ому	стро́г-ому	стро́г-ой	стро́г-им
目的格	主格又は所有格	стро́г-ое	стро́г-ую	主格又は所有格
造格	стро́г-им	стро́г-им	стро́г-ою(ой)	стро́г-ими
前置格	о стро́г-ом	о стро́г-ом	о стро́г-ой	о стро́г-их

стро́гий の例に従つて次の形容詞と名詞とを變化せよ。

1. друго́й 他の ма́ленький 小き ти́хий 静かな  
 лёгкий 軽き ре́дкий 稀なる доро́гой 高價な  
 япо́нский 日本の ру́сский 露西亞の
2. стро́гий учи́тель 嚴格なる教師 ру́сская кни́га ロシヤの本  
 ко́роткое вре́мя 短い時間

II. 語尾の前に上顎音 ж, ч, ш, щ を有する形容詞は軟變化をする。併し 上顎音の後には音則上 я, ю は用ひられないから、單數女性の主格 яя の代りに ая を、目的格 юю の代りに ую を語尾とする。

све́жий 新鮮なる

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	
主格	све́ж-ий	све́ж-ее	све́ж-ая	све́ж-ие
所有格	све́ж-его	све́ж-его	све́ж-ей	све́ж-их
與格	све́ж-ему	све́ж-ему	све́ж-ей	све́ж-им
目的格	主 又は所有格	све́ж-ее	све́ж-ую	主格又は所有格
造格	све́ж-им	све́ж-им	све́ж-ею(ей)	све́ж-ими
前置格	о све́ж-ем	о све́ж-ем	о све́ж-ей	о све́ж-их

све́жий の例に従つて次の形容詞及形容詞と名詞とを變化せよ。

1. хоро́ший 良き настоя́щий 現在の бу́дущий 未來の  
 ста́рший 年長の мла́дший 年少の
2. большо́й го́род 大都市 ста́рший сын 長子

мла́дшая сестра́ 妹 бу́дущая неделя 來週

2. 練 習

вчера́шний 昨日の ни́жний 下部の газе́та 新聞  
 пю́лка 棚 ве́рхний 上部の се́годняшний 今日の  
 соверше́нно 全く прие́хать 乗り來る у́тренний 朝の  
 пю́езд 汽車 возврати́ться 歸る домо́й 家へ(副詞)  
 бо́яться 恐れる стро́гий 嚴格なる люби́ть 愛す  
 япо́нский 日本の язы́к 國語 учи́ться 學ぶ  
 учи́тельница 女教師 ру́сский 露西亞の про́шлый 過ぎたる  
 гимна́зия 中學 двою́родный брат 從兄弟  
 двою́родная сестра́ 從姊妹 кру́глый 圓き

Где вчера́шние газе́ты?—Газе́ты на ве́рхней пю́лке? Чита́ли ли вы се́годняшние газе́ты? Нет, ещё не чита́л: не было́ вре́мени. Он прие́хал в Токио с у́тренним пю́ездом, а с ве́черним уже́ возврати́лся домо́й. Учени́к бо́ялся стро́гого учи́теля. Япо́нская кни́га ле́жит на кру́гом столе́. Ру́сский язы́к очень тру́дный. Ста́рший сын сестры́ в про́шлом году́ окончи́л гимна́зию. Где и у ко́го вы учи́лись ру́сскому язы́ку?—Я учи́лся в Токио у ру́сской учи́тельницы.

(譯 文)

昨日の新聞は何處にあるか。新聞は上の棚に在る。貴君は今日の新聞を読んだか。否、未だ讀まなかつた、時間がなかつた。彼は東京へ朝の汽車で來た、そして晩ので既に歸宅した。學生等は嚴格な教師を恐れて居た。日本の書物は圓い机の上に在る。ロシヤ語は甚だ困難である。姉妹の長子は昨年中學を卒業した。貴君は何處で誰からロシヤ語を學んだか。私は東京でロシヤの女教師の許で學んだ。

## 第九講

## — 1 —

## 1. 代名詞

代名詞は名詞、形容詞及び數詞の代用となる品詞で、或るものは名詞の如く、或るものは形容詞の如く使用される。後者は形容詞と同じく常に名詞に關係を有し、其語尾を關係する名詞の性・數・格に一致させる。

代名詞の種類は次の通りである。

- а) 人稱代名詞: Я, ты, он, она, оно, мы, вы, они.
- б) 再歸代名詞: себя.
- в) 物主代名詞: мой, твой, его, её, наш, ваш, их, свой.
- г) 指示代名詞: этот, тот, такой, такъв, сей.
- д) 疑問代名詞: кто? что? чей? который? какой? сколько?
- е) 關係代名詞: (疑問代名詞と同じ)
- ж) 定代名詞: весь, всякий, каждый, сам, самый.
- з) 不定代名詞: один, другой, иной, прочее.
- и) 否定代名詞: никто, ничто, никакой, ниодн, нисколько.

## 2. 人稱に就いて

人稱(人稱代名詞)に就いては既に第三講の第三課、第九課及第六講の第一課五節に於て簡単に述べておいたが、茲に更めて詳説する。

人稱は三つに分れ、之を第一人稱、第二人稱、第三人稱と云ひ、各人稱はまた單數と複數とに分れる。即ち次の通りである。

	單數	複數
一人稱:	я (私、僕)	мы (我々、僕達)
二人稱:	ты (お前、君)	вы (君等、貴君)
三人稱:	$\left\{ \begin{array}{l} \text{он (男性: 彼)} \\ \text{она (女性: 彼女)} \\ \text{оно (中性: それ)} \end{array} \right.$	они (彼等—三性共通)

イ. 一人稱とは話手自身のことをいふので、之れをまた自稱といふてもよい。二人稱とは話相手をいひ、又對稱といふてもよろしく、三人稱とは自分及び話相手以外の人又は物(第三者)をいひ、つまり話題になつてゐる人又は物の代名であるから、これを他稱といふことも出来る。

ロ. 單數・複數の區別に就て言ふと、若し一人の人が自分のことを言ふ時は單數 я を用ひるが、二人以上の人自分達のことを言ふ時には複數の мы を用ひる。これは二人稱、三人稱に就ても同じことである。

ハ. 二人稱に於て單數の ты は普通身下の者に向つて用ひることになつて居るが、其外親類同志或は朋友、同僚、夫婦間に於て親近の意を表す場合には特に ты を用ひる。それから複數の вы は通常相手が二人以上の場合に使用するのであるが、特に敬意を表す場合には、たとへ相手が一人であつても вы を使用しなければならぬ。此の場合 вы は「貴君」といふ意味になる。だから身上の人に對しては凡て вы を用ひるのが當然である。

ニ. 一人稱と二人稱とは専ら人に關する代名詞であるが、三人稱は人のみに限らず事物の代名ともなる。三人稱が人を示す時は「彼」又は「彼等」と譯していいが、事物を示す場合にはそれでは奇異な感じを與へるから、「それ」又は「それ等」と譯した方がよい。

ホ. 要するに人稱又は人稱代名詞は名詞の代りに使用する品詞であるから、矢張り名詞のやうに性・數・格を有し、それぞれ語尾變化をする。

人稱代名詞の一人稱と二人稱には性の區別がなく、男も女も共に用若くは мы を使用し、また男女の執れに對して ты, вы を使用することが出来る。然るに三人稱單數に於ては男性・女性・中性の區別がある。即ち男性のものを指す時には он といひ、女性のものを指す時には она といひ、中性のものを指す時には оно といふのであるその複數は三性共 они となる。

### 3. 人稱代名詞の變化

人稱代名詞は人稱を示す代名詞で、次のやうに變化する。

格	第一(人稱)	第二(人稱)	第三(人稱)	
單	主	я 私が(は)	ты 君が	(男性)(中性) он онó 彼が (女性) она 彼女が
	所有	меня 私の	тебя 君の	его 彼の её 彼女の
	與	мне 私に(へ)	тебе 君に	ему 彼に ей 彼女に
	目的	меня 私を	тебя 君を	его 彼を её 彼女を
數	造	мною(о)私にて	тобою(о)君にて	им 彼にて ею 彼女にて
	前置	обо мне 私のこと	о тебе 君のこと	о нём 彼の事 о ней 彼女の事
複	主	мы 我々が	вы 君等(貴君)が	они (三性共通) 彼等が
	所有	нас 我々の	вас 君等の	их 彼等の
	與	нам 我々に	вам 君等に	им 彼等に
	目的	нас 我々を	вас 君等を	их 彼等を
數	造	нами 我々にて	вами 君等にて	ими 彼等にて
	前置	о нас 我々のこと	о вас 君等のこと	о них 彼等のこと

- 【註】 1. 前置詞 о は убо (я.の前置格) の場合に限り обо となる。  
 2. 三人稱の變化は單數に於て男性と中性は定格の外皆同じく、複數は三性共通である。三人稱單數の его の я は в と發音す。  
 3. 二人稱複數 вы は六格共敬意を表する場合は一人に對しても使用される。  
 4. 三人稱は主格を除いて他の諸格は前置詞と共に使用される場合には。

三性共單數も複數も聲調を快くする爲にその冒頭に「и」を前綴する。例へば у него, у неё, с ним, с ней, с ними, о нем, о ней, о них 等の如し。

### 4. 練習

ЗНАТЬ 知る ВСТРЕЧАТЬ 迎へる(逢ふ) по-русски 露語で по-японски 日本語で ГОВОРИТЬ 言ふ ОТВЕЧАТЬ 答へる СКОЛЬКО 幾許 МНОГО 多く ЧТО-НИБУДЬ 何か НИЧЕГО 何も СЛОВАРЬ 辭書 русская книга ロシアの本 ВСПОМНИТЬ 想ひ起す ЧАСТО 屢々

Знает ли он тебя? 彼は君を知つて居るか。  
 Да, он хорошо знает меня. 然り、彼は善く私を知つて居る。  
 Знаете ли вы её? 貴君は彼女を御存じですか。  
 Да, знаю, часто я встречаю её у брата. 然り、存じて居ます、私は屢々兄弟の許で彼女に逢ひます。  
 Не говорил ли он вам что-нибудь обо мне? 彼は私のことを何か貴君に話さなかつたか。  
 Нет, он о вас ничего не говорил, но о них говорил много. 否、彼は貴君のことは何も話さなかつた、然し彼等のことに就ては多く話した。

### 5. У кого? (誰の所に)

前置詞 у は所有格を要求する。у が名詞の所有格と結合して所有を現はすことは既に述べておいた(第五講第四課参照)。茲には у が人稱代名詞の所有格と結合して所有の意を現はす場合を示さう。

- у меня (私の所に)      у нас (我々の所に)  
 у тебя (君の所に)      у вас (君等の所に、貴下の所に)  
 у него (彼の所に)      у них (彼等の所に)

У меня (есть) карандаш. 私の所に鉛筆がある。(私は鉛筆を所有すとの意。以下同じ)

У него (есть) перо. 彼の所にペンがある。

У тебя (есть) брат и сестра. 君の所に兄弟と姉妹が居る。

У нас (есть) чёрная собака. 我々の所には黒い犬が居る。

У вас (есть) новое пальто. 貴君の所には新しい外套がある。

У них (есть) прекрасный сад. 彼等の所には美しい庭園がある

【註】以上の文章に於て *есть* は凡て之を省略するを得。けれども疑問が *есть* に含まれるときは之を省略することが出来ない。而も其際 *есть* は文章の冒頭に置かなければならぬ。

Есть ли у вас сад? 君等の所には庭園があるか。

Да, у нас большой сад. 左様、我々の所には大きな庭園がある。

Есть ли у него бумага и перо? 彼の所には紙とペンがあるか。

У него нет бумаги\* и пера\*. 彼の所には紙とペンがない。

Есть ли у тебя стол и стул? 君の所には机と椅子があるか。

Да, у меня стол, а нет стула. 左様、私の所には机がある、然し椅子がない。

\* 否定詞 *нет* によつて存在を否定された語は主格より所有格に變ずる。 бумага が бумага となり、перо が пера となつたのはそのためである。

疑問文章でも疑問が *есть* 以外の單語に附く時は *есть* を省略する。

У вас ли книга? 本は貴下の所にあるか。

Да, (книга) у меня. 左様、私の所にある。

У них ли карандаш? 鉛筆は彼等の所にあるか。

Да, (карандаш) у них. 左様、彼等の所にある。

Не у него ли учебник? 教科書は彼の所にはないか。

Нет, не у него. いえ、彼の所にはない。

## — 2 —

### 1. 物主代名詞

物主代名詞は事物の所屬即ち事物が誰のものであるかを示す品詞である。物主代名詞は名詞に對する關係に於て全く形容詞と同じく、その語尾變化も形容詞と似てゐる。

單	數			複 數
誰の?	чей? (男性)	чья? (女性)	чьё? (中性)	чьи? (三性共)
私の	мой	моя	мое	мой
君の	твой	твоя	твое	твой
我々の	наш	наша	наше	наши
君等の 貴君の	ваш	ваша	ваше	ваши

【註】1. 第三人稱には特別の物主代名詞がないから單數・複數共に人稱代名詞の所有格を代用する。即ち *его* (彼の), *её* (彼女の), *их* (彼等の) を借用する。2. *наш*, *ваш* に單數・複數の區別があるのは一寸變に聞えるが、之は言葉(文法)の上の區別で、つまり形容詞の場合と同じく、名詞が單數の時は *наш*, *ваш* も單數を使用し、名詞が複數の時は複數を使用するための區別に過ぎない。3. *свой* (複數 *свои*—己れの) も物主代名詞に屬する。

### 2. 物主代名詞の變化

物主代名詞は形容詞と同じく名詞に従つて三性・二數・六格に變化する。變化の形は大體形容詞と同じである。

格	男性	中性	女性	男性	中性	女性
單 主 所有 與 目的 造 前置	мо-я	мо-ё	мо-я	наш	наш-е	наш-а
	мо-его		мо-ей	наш-его		наш-ей
	мо-ему		мо-ей	наш-ему		наш-ей
	主又は所有, мо-ё		мо-ю.	主又は所有, наш-е		наш-у
數 造 前置	мо-им		мо-ю(ей)	наш-им		нашею(ей)
	о мо-ём		о мо-ей	о наш-ем		о наш-ей
複 主 所有 與 目的 造 前置	мо-их (三性共通)			наш-и (三性共通)		
	мо-их			наш-их		
	мо-им			наш-им		
	主格又は所有格			主格又は所有格		
數 造 前置	мо-ими			наш-ими		
	о мо-их			о наш-их		

〔註〕 1. твой (君の) 及び свой (己れの) は мой (私の) と同じやうに變化し、ваш (君等の、貴君の) は наш (我々の) と同じやうに變化する。

次の代名詞と名詞とを同時に變化せよ。

твой карандаш	君の鉛筆	твоя сестра	君の姉妹
твое желание	君の希望	ваш брат	貴君の兄弟
ваше здоровье	貴君の健康	ваша книга	貴君の本
свой товарищ	自分の同僚	свое имение	自分の所領
своя воля	自己の意志		

2. 第三人稱の物主代名詞に代用された его (彼の), её (彼女の), их (彼等の) は六格共變化することなく、其儘名詞に附隨し、名詞のみ變化する。例へば:

- (主格) его брат, (所有格) его брата, (與格) его брату.....  
 (主格) её книга, (所有格) её книги, (與格) её книге.....  
 (主格) их родители, (所有格) их родителей.....

但し三人稱の物主代名詞は前置詞と一緒に使用されても H を前綴することがないから、それで以て人稱代名詞と區別される。例へば:

Я был у него и у его брата. (私は彼の許に又彼の兄弟の許に行つた)。  
 の у него の него は人稱代名詞で、у его брата の его は物主代名詞である。

### 3. 練習

язык	舌	враг	敵
красивый	美しき	картина	繪
здоровый	壯健なる	на-днях	近日、此間
родственник	親戚	тётка	伯母
деревянный	木造の	каменный	石造の
железный	鐵の	поздравить	祝ふ
рождение	誕生	пригласить	招待する
приглашение	招待	удовольствие	満足、喜び

Здоров ли ваш отец? 貴君の父は壯健ですか。

Отец здоров, но моя мать не здорова. 父は壯健です、然し私の母は壯健ではありません。

Наш язык — наш враг. 我等の舌は我等の敵である。

Где вы были так долго? 貴君は斯んなに長く何處に居ましたか

Я сидел в своей комнате и писал письмо своим товарищам. 同僚達に手紙を書いて居た。

В вашем кабинете висят много красивых картин. 貴君の書齋には美事な繪が薄山懸つて居ます。

Твоя мать приглашает меня к себе на обед. 君の母は私を自分の處へ午餐に招いて居る。

Я принимал её приглашение с удовольствием. 私は彼女の招待を喜んで受けた。

На-днях мой брат и сестра были в гостях у вашей тётки. 此間私の兄弟と姉妹とは貴君の伯母の許にお客になつた。

— 3 —

1. 指示代名詞

指示代名詞は事物又は其性質を指示する代名詞である。例へば：

этот 此の                      тот 其の  
такой 其の様な                сей 此の

指示代名詞も三性二數六格に變化し、常に關係する名詞の性・數・格と一致する。其變化は次の通りである。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	男・中・女共通
主	эт-от	эт-о	эт-а	эт-и
所有	эт-ого	эт-ого	эт-ой	эт-их
與	эт-ому	эт-ому	эт-ой	эт-им
目的	主又は所有	эт-о	эт-у	主格又は所有格
造	эт-им	эт-им	эт-ою (ой)	эт-ими
前置	об эт-ом	об эт-ом	об эт-ой	об эт-их

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主	т-от	т-о	т-а	т-е
所有	т-ого	т-ого	т-ой	т-ех
與	т-ому	т-ому	т-ой	т-ем
目的	主又は所有	т-о	т-у	主格又は所有格
造	т-ем	т-ем	т-ою (ой)	т-еми
前置	о т-ом	о т-ом	о той	о тех

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主	се-я	се-ё	се-я	се-я
所有	се-го	се-го	се-ей	се-их
與	се-му	се-му	се-ей	се-им
目的	主又は所有	се-ё	се-ю	主又は所有
造	се-им	се-им	се-ей	се-ими
前置	о се-ём	о се-ём	о се-ей	о се-их

註。1. такой (其の様な) は ой を語尾とする形容詞と同じやうに變化する。

2. этот 及び тот の中性單數 это (これは) 及び то (それは) は次の如き場合に主語として用ひられる。а) 名詞が賓語となる際、例へば это мой отец, а то мой мать. (これは私の父である、併しそれは私の母である)。б) 此代名詞が全體の文句を指す際、例へば Кто звал меня? — Это я звал тебя. (誰が私を呼んだか、それは私が君を呼んだのである)。

3. сей (此の) は餘り多く使用されないけれども、名詞と結合して副詞の體を成して談話に使用される。例：

сегодня 今日                      сейчас 只今、即時に  
сего года 本年の                      сего месяца 本月の  
спу мину́ту 即刻、直ぐ              до сих пор 是れまで、今日まで

次の代名詞と名詞とを同時に變化せよ。

этот мальчик 此の少年              эта улица 此の街道  
это стекло 此の硝子              та картина 其の繪  
тот стол 其の机                      к й обычай 其の様な風習  
такая книга 其の様な本              такое мнение 斯様な意見

ЧИСТЫЙ	清き	ГРЯЗНЫЙ	汚れたる、不潔なる
ГОСТИННИЦА	旅館	ХОЗЯИН	主人
НАСЕЛЕНИЕ	人口	НИКОГДА	一度も…しない、決して
НРАВИТЬСЯ	気に入る	ВЕЩЬ	物品(女性)

Эта улица чистая, а та грязная. Эти комнаты большие, а те малые. У хозяина этой гостинницы — прекрасный сад. В этом городе много населений. Кто он такой? Не ваша ли это книга? Нет, не моя, а его. Такого прекрасного сада я ещё никогда не видал. Эти вещи мне очень нравятся. Это очень дешево, а то очень дорого.

## (譯 文)

此の街道は清潔である、が其の街道は不潔である。此等の室は大きいけれど、其等の室は小さい。此の宿屋の主人は立派な庭を有つて居る。此の町には多くの人口がある。彼は何んな人ですか。これは貴君の本ではないか。否、私のではない、併し彼のです。斯様な美しい庭を私は未だ一度も見なかつた。是等の物品は私に甚だ気に入つた。是れは非常に廉いが、それは非常に高い。

## 2. 再帰代名詞

再帰代名詞は或行爲が自身に歸つたことを示す代名詞で、себя(自身、己れ)と言ふ一語文である。此代名詞は人稱代名詞の代りに用

ひられる。併し主語の代用となることがないから、主格を有たない。其變化は單・複兩數共通で、次の通りである。

(所有) себя	(與) себе	(目的) себя
(造) собою(ой)	(前置) о себе	

## 練 習

заботиться	配慮する	ДЕНЬГИ	金錢(複)
взять	取る	ЯБЛОКО	林檎
заказать	注文する	ГРУША	梨

Я купил тетрадь и для вас, и для себя. Он заботится только о себе. Где он? Он сейчас у себя в кабинете. Я купил себе новую тетрадь. Он взял себе яблоко, а сестре дал грушу.

## (譯 文)

私は貴君の爲にも自分の爲にも帳面を買ふた。彼は只己れのことのみ慮つてゐる。彼は何處に居るか。彼は今自分の書齋に居る。彼は自分の爲に新しき帳面を買ふた。彼は自分のためには林檎を取り、姉妹には梨を與へた。

## — 4 —

## 1. 疑問代名詞

疑問代名詞は疑問を表示する代名詞で、次のやうな種類がある。

КТО?	誰	КАКОВ?	如何様なるもの
ЧТО?	何	ЧЕЙ?	誰の



КОТОРЫЙ? 孰れの、何番目の СКОЛЬКО? 幾許

КАКОЙ? 如何なる

КТО? (誰) は廣く生物に對する問ひで、ЧТО? (何) は無生物に對する問ひである。КОТОРЫЙ? (孰れの) は物の順序に對する問ひで、КАКОЙ? (如何なる) は事物の品質に對する問ひ、КАКОВ (如何様なもの) は事物が如何なる様態のものであるかを問ひ、ЧЕЙ? (誰の) は事物の所有者に關する問ひである。

КТО? (誰) ЧТО? (何) は名詞の如く使用され、名詞の如く變化する。其他は形容詞の如く用ひられ、形容詞の如く變化する。

2. 疑問代名詞の變化

主格	КТО	誰が(は)	ЧТО	何が(は)
所有格	КОГО*	誰の	ЧЕГО*	何の
與格	КОМУ	誰に(へ)	ЧЕМУ	何に(へ)
目的格	КОГО	誰を	ЧТО	何を
造格	КЕМ	誰にて	ЧЕМ	何にて
前置格	О КОМ	誰のこと	О ЧЕМ	何のこと

кто, что には單數・複數の區別はない。それ故に若し кто, что が主語たる際には客語は單數とも複數ともなる。例へば

Кто приехал? (誰が来たか) Приехал отец. (父が来た)。

Кто приехали? (誰々が来たか) Приехали отец и мать. (父と母が来た)

который? (孰れの、何番目の) какой? (如何なる) は形容詞の如く三性、二數、六格に變化し、關係する名詞又は代名詞の性・數・格と一致する。

\* кого はカグーと發音し、чего はモグーと發音す。

каков? (如何様なもの) は каковой (實際には殆んど使用されない) の簡約語尾と見做して差支ない。従つて語尾變化をしない。普通簡約語尾形容詞と同じく性と數とに於て主語と一致する。例へば:

Какова была ваша поездка? (貴君の旅行は如何でしたか)。

Поездка наша была очень полезна. (我々の旅行は甚だ有益でした)

чей? (誰の) も三性、二數、六格に變化し、關係する名詞の性・數・格と一致する。其變化は次の通りである。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主 格	че-я	чь-ё	чь-я	чь-и
所有 格	чь-его	чь-его	чь-ей	чь-их
與 格	чь-ему	чь-ему	чь-ей	чь-им
目的 格	主又は所有	чь-ё	чь-ю	主格又は所有格
造 格	чь-им	чь-им	чь-ёю (ей)	чь-ими
前置 格	о чь-ём	о чь-ём	о чь-ей	о чь-их

3. 練 習

нравиться	氣に入る	больше	より多く
теперь	今	час	時
возвратиться	歸る	симпатичный	同情深き
которое число	何日	погода	天氣
зонтик	洋傘	шляпа	帽子
пальто	外套	чиновник	官吏
старший	年長の	журнал	雜誌

Кто он? Что это? Что это такое? Кто из них старший? Кто из них старшая? Который теперь

час? Который час на ваших часах? Который из этих учеников прилежнее: Пётр или Василий? В котором часу вы возвратились домой? Которое сегодня число? Какой он человек? Какие журналы вы читаете? Какую книгу вы купили? Какая сегодня погода? Сегодня погода хорошая. Какова погода сегодня? Чей это зонтик? Чья это шляпа? Чьи это книги? Чью книгу вы читаете?

## (譯 文)

彼は誰ですか。是れは何ですか。是れは何物ですか。彼等の内誰が年長者(男)ですか。彼等の内誰が年長者(女)ですか。今は何時ですか。貴君の時計では何時です。此等の生徒等の内孰れが勉強家です: ピートルかワシーライか。貴君は何時に帰宅したか。今日は何日ですか。彼は如何なる人か。貴君は如何なる雑誌を読んで居ますか。貴君は如何なる本を買ふたか。今日はどんな天気です。今日は良い天気です。今日の天気はどんなです。是れは誰の洋傘ですか。是れは誰の帽子ですか。是れは誰の本ですか。貴君は誰の本を読んで居ますか。

## 第 十 講

## — 1 —

## 1. 關係代名詞

關係代名詞は主文章と副文章との關係を示す代名詞で、疑問代名詞と全く同じく、其の變化も疑問代名詞と同様であるが、只其意義を異にしてゐる。例へば次のやうなものである。

кто	それは…する所の(生物關係)	каков	…する如き
что	…とそのことを(無生物關係)	чей	その者の
который	それは…する所の	сколько	だけ、ほど
какой	…するやうな		

關係代名詞の用法を示すには、先づ露語の複雑文章に就いて述べなければならぬ。露語の複雑文章は主文章と副文章とから成る。主文章とはそれだけで意味の分る獨立の文章で、副文章とは獨立の文章ではなく、常に主文章に従屬し、主文章中の或る語を説明する文章である。而して關係代名詞は此の副文章の冒頭に置かれて主文章に對する關係を示すのである。主文章と副文章との間には必ずコンマ〔,〕を附して之を區別し、若し副文章が主文章の間に挟まれる時には副文章の前後にコンマを附さなければならぬ。下記の文例で横線を引いた部分が副文章で、他は主文章である。

Я сказал ему, что завтра не буду дома.

私は彼に明日家に居ないと云ふた。

Я не слышал, кто вчера был у брата.

私は昨日兄弟の許に誰が来たか聞かなかつた。

Кни́га, ко́торую мы чита́ли, бчень интере́сна.

私共が讀んだ所の本は甚だ面白い。

副文章に於て述べる説明が人に關する時には кто, чей を用ひ、事柄に關する時には что を、而して ко́торый, ка́кой は人、事柄の何れにも用ひられる。

Я слы́шал, что он бо́лен. 私は彼が病氣であると聞いた

Учени́к, о ко́тором педа́вно вы говори́ли мне, был вчера́ у бра́та. 先日貴君が私に話した所の生徒は昨日兄弟の許に居た(来た)。

Кни́га, ко́торую вчера́ подарил мне дядя, ле́жит на столе́. 昨日伯父が私に贈つた本は机の上にある。

Он купи́л такую́ ло́шадь, кака́я встреча́ется бчень ре́дко. 彼は滅多にないやうな(稀に出會ふやうな)其様な馬を買ふた。

Купи́те мне такую́ карти́ну, кака́я у вас. 貴君の許にあるやうな、さういふ繪を私に買ふて下さい。

Тот счастли́в, кто дово́лен ма́лым. 僅かのもので満足して居る所のその人は幸福である。

副文章は (a) 主文章中の動詞を説明することがあり、(b) 動詞以外の語を説明することがある。それによつて關係代名詞の意味も色々になる。

a) 副文章が主文章中の動詞を説明する場合に使用される關係代名詞は次のやうな意味を有する。

(甲) 單純なる接続として、「…と」譯する。

Я сказа́л ему́, что за́втра я не бу́ду до́ма.

私は彼に明日私は宅に居ないだらうと云ふた。

Говора́т что он бо́лен. 彼は病氣であると云ふ話である。

第一文例の副文章 что я за́втра не бу́ду до́ма (私は明日家に居らないであらうと) は主文章の動詞 сказа́л (言ふた) を説明し、第二文例の副文章 что он бо́лен (彼は病氣であると) は主文章の動詞 говора́т を説明したものである。

(乙) 間接疑問として疑問の意を含む。

Я не слы́шал, кто вчера́ был у него́.

私は昨日彼の許に誰が来たか聞かなかつた。

Я не по́нял, что он сказа́л.

私は彼が何と云ふたか解らなかつた。

Не зна́ете ли вы, ско́лько он за́плати́л за э́ту кни́гу?

貴君は彼が此本のために幾許拂ふたか知りませんか。

Он спра́шивает, чьа э́то кни́га.

彼は此れが誰の本であるかを訊いて居る。

Мы забы́ли, в ко́тором го́ду случи́лось э́то.

私共は是れが何年にあつたか忘れた。

Кто вчера́ был у него́? (誰が昨日彼の許に来たか) はそれだけなれば獨立の疑問文章である。併しそれが他の文章即ち Я не слы́шал (私は聞かなかつた) の説明文であつたら、之は直接の疑問でなく、間接の疑問である。露語に於ては此の種の文を疑問と見做さず、従つて句末に疑問記號(?) を附さない。併し主文章が疑問を含む時は疑問記號を附すること、第三文例に見る通りである。

b) (1) 副文章が動詞以外の語を説明する場合に使用される關係代名詞は何れも皆「…する所の」といふ意義を有する。此の場合には主文章に指示代名詞を挿入して、副文章の關係代名詞と對立させ、其關係を明かにする。指示代名詞と關係代名詞との對立は次の通りである。

ТОТ, КТО.....	.....する所の、その者
ТО, ЧТО.....	.....する所の、そのこと
ТОТ, КОТОРЫЙ.....	.....する所の、それ、.....する所の、その者
ТАКОЙ, КАКОЙ.....	.....する如き、その如き

**Тот** счастлив, **кто** доволен малым.

僅かなものにて満足する所のその人は幸福である。

Очень интересно **то**, о чём он говорил.

彼が話した所のそのことは甚だ面白い。

Сегодня был у меня **тот** господин, **который** был вчера у вас. 昨日貴君の許に来た所のその人が今日私の許へ来た。

Я купил **такую** книгу, **какая** у вас.

私は貴君の許にあるやうなさういふ本を買ふた。

副文章の **что**, **который**, **какой** に對立する主文章中の指示代名詞 **то**, **тот**, **такой** は屢々省略せられて其意味だけを止むることがある。例へば:

Сегодня был у меня (тот) господин, **который** был вчера у вас.

Я купил (такую) книгу, **какая** у вас.

(2) 副文章の關係代名詞 **кто**, **что**, **который**, **какой** は關係を有する主文章中の語(名詞或は形容詞)と性及數を一致させる。然し格は副文章の動詞、名詞又は前置詞の要求に従ふものであるから必ずしも一致しない。例へば:

а) Та книга, **которую** мы читали, очень интересна.

私共が讀んだ所の本は甚だ面白い。

б) Дом, **в котором** мы жили в прошлом году, недавно сгорел.

昨年私共が住んで居た所の家は先日焼けた。

а 文例の關係代名詞 **которую** (女性・單數・目的格)はそれが關係する主文章中の名詞 **книга** の性と數とに一致させて單數の女性となつた。然し格が目的格となつたのは副文章中の動詞 **читали** の要求に従つたものである。б 文例の關係代名詞 **котором** (男性・單數・前置格)は其性・數を主文章中の名詞 **дом** に一致させ、格は副文章の前置詞 **в** の要求に従つて前置格となつたのである。

## 2. 練習

разговаривать	對話する	заниматься	勉強する
заплатить	仕拂ふ	правда	眞實
именно	即ち	сказать	言ふ
тётя	伯母	знать	知る
прилежно	熱心に	шляпа	帽子

С кем они разговаривали? Я не видал, с кем они разговаривали. Он не сказал, кто добрее: он или она. Не знаете ли вы, сколько он заплатил за это? Тётя подарила книгу тому, кто прилежно занимался. То, что он говорил вчера, не правда. Я сегодня утром был у учителя, с кем я познакомил вас у дяди. Это именно тот господин, о котором я говорил вам вчера. Есть ли у него такой словарь, какой у меня?

(譯 文)

彼等は誰と話して居たか。私は彼等が誰と話して居たか見なかつた。彼は、彼と彼女と孰れが善良なるかを言はなかつた。貴君は彼が此の爲めに幾許拂ふたか知りませんか。伯母は熱心に勉強した者に本を贈つた。私は今朝、伯父の許で貴君に御紹介した教師の許へ行つた。是れが即ち私が昨日貴君に話した所のその方です。彼は私が有つて居るやうな辭書を有つて居ますか。

— 2 —

I 定代名詞

定代名詞は事物を限定する代名詞で、名詞に對する關係に於いて形容詞の如く使用する。

весь 凡ての・ сам 自身  
 всякий 有らゆる(いろんな) самый 自ら、同じ、眞の、その  
 каждый 各々の столько それ程

定代名詞の變化。всякий (有らゆる)、каждый (各々の) 及び самый (同じ、自ら) は形容詞と全く同様の變化に屬し、весь (凡ての) と сам (自身) とは次のやうな變化をする。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	
主 格	весь	всё	вся	все
所 有 格	всего	всего	всех	всех
與 格	всему	всему	всем	всем
目 的 格	主又は所有	всё	всёю	主格又は所有格
造 格	всем	всем	всёю (ей)	всёми
前 置 格	о всем	о всем	о всех	о всех

主 格	сам	сам-ё	сам-а	сам-и
所 有 格	сам-ого	сам-ого	сам-ой	сам-их
與 格	сам-ому	сам-ому	сам-ой	сам-им
目 的 格	主又は所有	сам-о	сам-ою(сак)	主格又は所有格
造 格	сам-им	сам-им	сам-ю(бн)	сам-ими
前 置 格	о сам-ом	о сам-ом	о сам-ой	о сам-их

註. 1. весь (凡ての) は次の如き二様の意味を有す

a) 一個の事物全體を示すことがある。此場合には形容詞 целый (全き又は一個の) と同意義であるから之を代用するも差支ない。

весь год = целый год 終年(一年中)

весь стакан = целый стакан コップ一杯(一つのコップ)

b) 多數事物の全數を表すことがある。此の場合には形容詞 целый とは意味が違ふ。

все эти дни 此の數日皆な

целые эти дни 此の數日は朝から晩まで

все стаканы 凡てのコップ

целые стаканы 二三のコップ全體

v) весь の中性 всё は名詞と一緒になく、單獨に用ひらるることが多い。その場合には「全く」「凡て」「一切」等の意義を有する。

Всё было хорошо. 凡て具合(都合)が善かつた。

2. всякий (色々な、様々な、誰も皆、孰れも皆) は概して事物の性質を示す。但し同時に數をも示すことがある。

На свете есть всякие люди: и честные и бесчестные, и умные и глупые, и богатые и бедные.

世の中には様々な人がある、正直な人も不正直な人も、智者も愚者も、富者も貧者もある。

Всякий ученик знал это. 孰れの生徒も之を知つて居た。  
 Я всякий день гулял летом. 私には夏には如何なる日でも(晴雨何れも)散歩した。

3. a) каждый (各々の) は事物の數又は順序を示す

Каждый ученик знал это. 各生徒は之を知つて居た=甲も乙もの意。

Каждый день я ходил в училище. 毎日私は學校へ通つた=即ち各曜日を指す。

б) всякий (有ゆる) は單複兩數の名詞に使用すれども、каждый は單數の名詞とのみ使用する。但し單數を用ひない名詞に限り複數を用ふ。

4. Сам (自身) は a) 人物名詞と共に用ひられる: сам отец (父自身)、самá мать (母自身)。б) 人稱代名詞、再歸代名詞と共に用ひられる: я сам, ты сам, он сам, она самá, самого себя。

Я сам ещё не слышал об этом. 私自身は未だ此の事に就いて聞かなかつた。

Вы сами написали это письмо? 貴君自身がこの手紙を書いたのですか。

Скупой заботится только о самом себе. 吝嗇家は己れ自身の事のみ慮る。

5. a) самый (自身、同じ) は無生物名詞及指示代名詞と共に用ひられることが多い。этот самый (此もの自身)、тот самый (其物自身) тот же самый (其物自身、それと同一の)、такой же самый (それと同様な)。

Самый город не очень велик, но в нём довольно много жителей. 此町自身は餘り大きくない、然し其中には可成り多くの住民が居る。

Я встретил того самого господина, с которым бжал в поезде. 私は列車で同車したところの其の人に逢ふた

Это — тот же самый журнал, который вы купили. 此れは貴君が買ふたと同様な雑誌である。

б) самый は形容詞と共にする時は「最も」の意を以て最上級となる。

Этот господин — самый богатый в этом городе. 此の方は此町で最も富裕な人である。

Самая высокая гора в Японии — Фудзи, а самое большое озеро — Бива.

日本に於て最も高き山は富士であるが、最も大なる湖は琵琶湖である。

## II. 不定代名詞

不定代名詞は曖昧不定の事物を示す代名詞で、單一的と合成的の二種ある。

a) 單一的不定代名詞は次の通りである。

один	或る	прóчее	其他
другой	他の、別な	мно́гое	多くの

單一的不定代名詞の變化は何れも形容詞と同様の變化である。但 один の變化は次の通り。

格	單 數			複 數
	男 性	中 性	女 性	三性共通
主	один	один-о	одн-а	один-и
所有	один-ого	один-ого	один-ой	один-их
與	один-ому	один-ому	один-ой	один-им
目的	主又は所有	один-о	один-у	主又は所有
造	один-им	один-им	один-ю(ой)	один-ими
前置	об один-ом	об один-ом	об один-ой	об один-их

【註】(1) прочее, многое は單數に於いては中性のみ使用し、複數に於ては三性共使用される。

(2) один は「一」と云ふ個數詞であるが、不定代名詞として使用することが多い。その場合 один は「或る」といふ意味になる。又同じ不定代名詞 другой (他の)と相對して один は「甲の」、другой は「乙の」といふ意味になる。

б) 合成的不定代名詞は疑問代名詞の前後に то, нибу́дь, ли́бо, не 等之附して作る。而して то, нибу́дь, ли́бо は接尾辭であるから疑問代名詞の後に附し、не は疑問代名詞の前に附す。

кто-то 誰だか кто-нибу́дь 誰か не-кто 或る人  
 что-то 何だか что-нибу́дь 何か не-что 或る物  
 который-то どれだか который-нибу́дь どれか  
 не-который 或もの какой-то 或る какой-нибу́дь どんなかの  
 чей-то 誰のだか чей-нибу́дь 誰の  
 сколько-то 幾許だか сколько-нибу́дь 何程か  
 не-сколько 若干

【註】либо は нибу́дь と同じ意義であるが、либо は文書に用ひられ、談話に於ては нибу́дь を用ふ。

合成的不定代名詞は疑問代名詞のみ變化し、其前後に附したる附語は變化しない。例へば：

кто-то, когó-то, кому́-то, когó-то, кем-то.....  
 что-нибу́дь, чего-нибу́дь, чему-нибу́дь, что-нибу́дь  
 .....  
 какой-то, како́го-то, какому́-то.....

### III. 否定代名詞

否定代名詞は否定を示す代名詞で、疑問代名詞にниを附して作る。

никто	誰も…ない	никакой	どんなのも…ない
ничто	何も…ない	никоторый	どれも…ない
ничей	誰のも…ない		

否定代名詞はниを附し加る儘、疑問代名詞の如く變化する。前置詞を附する時はниを離して、それと疑問代名詞との間に前置詞を置く。

никто́, никого́, никому́, никого́, никем, ни о ком.  
 ничто́, ничего́; ничему́, ничто́, ничем, ни о чем.

否定代名詞は否定文章に於てのみ使用される。

никто́ не знает.	誰も知らない。
ничего́ нет.	何もない。
никому́ не говорите.	誰にも話しなさんな。
нет никакой кни́ги.	どんな本もない。
ни с кем не встретил	誰とも會はなかつた。
ни у когó нет.	誰の所にもない(誰も有つて居ない)
ни о ком не сказа́л.	誰れのこと話さなかつた

### 練 習

нужно	必要である	горе	不幸
сочувствовать	同情する	просьба	願ひ
слеза́	涙	обращать	向ける
внима́ние	注意	доро́гою	途で

Были ли сегодня у вас кто-нибу́дь из товарищей?  
 Нет, никого́ из товарищей не был у меня́. Были ли

вы, вчера у кого-нибудь из знакомых? Нет, я вчера ни у кого не был. Говорил ли офицер что-нибудь о войне? Нет, он ничего не говорил о войне. Нужно ли вам чего-нибудь? Нет, ничего мне не нужно. Я знал одного человека: он ничьему горю не сочувствовал, ни на чьи просьбы и слезы не обращал никакой внимания.

## (譯 文)

今日貴君の所へ同僚中の誰かが来たか。否、同僚中の誰も来なかつた。貴君は昨日知人中の誰かの所へ行つたか。否、私は誰の所へも行かなかつた。士官は戦争に就いて何か話したか。否、彼は何も話さなかつた。何か必要ではありませんか。否、何も私には必要なものではありません。私は或る人を知つて居た 彼は誰の不幸に對しても同情せず、誰の願ひにも亦涙にも何等の注意も向けなかつた。

## 第十一講

## — 1 —

## 動詞の體 (不完了體と完了體)

事物の動作又は状態には持続するもの、完了するもの、數回重複するもの、或は一回にして完了するものがある。ロシア語の動詞はこれによつて區別がある。之を動詞の體と云ふ。

動詞の體は不完了體と完了體との二つである。其外多回體・一回體と稱するものもあるが、多回體は不完了體に屬し、一回體は完了體に屬するから、別に區別するには及ばない。

## I. 不完了體

1) 不完了體は動作又は状態の持続しつたことを表して、動作の始まりと終りとは關係しない。例へば:

Вчера я писал письмо и читал книгу.

昨日私は手紙を書き本を讀んで居た。

この句の писал (書いて居た、或は書きつつあつた)、читал (讀んで居た、或は讀みつつあつた) の二動詞は何時その動作が始められ、何時終つたかを示さない。只さういふ動作をして居たといふことを示すに過ぎない。だから兩者共不完了體動詞である。

2) 不完了體動詞は常習的に行はれ、又は反復される動作を示すのであるから、次のやうな副詞と一緒に使用することが多い。たとへ文面に此等の副詞がなくとも其の意を含む際には不完了體を使用する。

обыкновенно 通常 постоянно 不斷 всегда 常に  
ежедневно 毎日 часто 屢々 иногда 時々



Он обыкновенно занимался по вечерам.  
彼は通常毎晩勉強した。

Я несколько раз читал эту книгу.  
私は此の本を数度讀んだ。

Я часто писал брату.  
私は度々兄弟に(手紙を)書いた。

3) 不完了體動詞は過去・現在・未來の三つの形を有し、未來形は動詞 **быть** の未來形と共にする合成式を使用する。

читать 讀む 現在形 Я читаю 私は讀んでゐる。

過去形 Я читал 私は讀んで居た。

未來形 Я буду читать 私は讀むであらう。

4) 接頭辭(前置詞から成る)の無い動詞は殆んど凡て不完了體に屬する。例へば:

читать 讀む знать 知る писать 書く

говорить 言ふ краснеть 赤くなる (тановиться 成る)

## II. 完了體

1) 完了體は動作又は狀態の始め若しくは終りを示して、動作が持續するや否やには關しない。例へば:

Вчера я написал письмо и прочитал книгу.  
私は昨日手紙を書き終り本を讀み終つた。

Брат побежал в лавку. 兄弟は店へ駆け出した。

前の句の написал (書き終つた)、прочитал (讀み終つた) は共に其動作の完了したことを示し、побежал (駆け出した) は其動作の始め即ち其動作に移る瞬間を示したものであるから完了體である。

2) 完了體動詞は凡て一度に行はれる動作又は狀態を示すのであるから次のやうな副詞と共にすることが多い。たとへ文面には副詞

がなくとも其意を含む際には完了體を使用する。

разом 一舉に вдруг 俄かに、突然  
неожиданно 不意に нечаянно 思ひがけなく

3) 完了體動詞は動作又は狀態の持續を示さないから現在形を有しない。過去形と未來形との二つの時だけである。そして未來形は單一式で不完了體の現在の如く變化する。例へば:

Я прочитал 私は讀み終つた。(過去形)

Я прочитаю 私は讀み終るだらう。(未來形)

〔註〕完了體の未來形は確信を以て言ふ時に使用する。Я прочитаю と言へば到底讀み終るといふ意味である。

4) 完了體は不完了體動詞に接頭辭を附して作る。例へば:

不完了體		完了體	
читать	讀む	прочитать	讀み終る
писать	書く	написать	書き終る
делать	爲す	сделать	作る

〔註〕接頭辭を附した動詞は新たなる意義を生ずるものが多い。新たなる意義を生ぜず唯不完了體に對應の完了體として止まるものは少數である。

## III. 多回體と一回體

1) 多回體は意義よりすれば不完了體と同じく動作の始めと終りとに關係しない。唯數次行はれたる過去の動作又は狀態を示すのみである。従つて現在形と未來形を有さないところに不完了體との相異がある。

2) 多回體の語尾は大體長く、ать, авать, изать, ывать 等である。例へば:

видать	見る	читать	讀む	знавать	知る
сказывать	話す	бывать	在る	говаривать	話す

3) 現代のロシア語に於ては普通副詞と不完了體とを以て多回體の意義を表はしてゐる。例へば：

Я читывал = Я часто читал. 私は屢々讀んだ。

故に多回體としては殆ど獨立の用を爲さないが、ただ不完了體動詞を作成する上に重要な役割を果すのである。

既に述べた如くロシア語に於ては或る不完了體動詞に或る接頭辭(前置詞)を附して全く新しい意義の完了體動詞を作るのであるが、その完了體動詞の語尾を更に多回體語尾に變へると、今度はそれに対応の不完了體となるのである。例へば：

不完了體		完了體		不完了體
читать	讀む	перечитать	復讀す	перечитывать
писать	書く	записать	書き付ける	записывать
знать	知る	узнать	識得する	узнавать
брать	取る	собрать	集める	собирать
мочь	能くす	помочь	援助する	помогать
учить	教へる	изучить	研究する	изучать
готовить	備へる	приготовить	準備する	приготовлять
течь	流れる	вытечь	流れ出す	вытекать

4) 一回體は完了體と同じく動作の完了したことを表はすのだから現在形を有さない。過去形と未來形だけである。

一回體動詞は a) 始めと終りとを區別し得ないやうな瞬間の動作を示す。又 b) 瞬間の動作でなくとも其終りの判然しないものを表はす。一回體の語尾は нуть だけである。例へば：

a) крикнуть	叫ぶ	хлопнуть	パンと叩く
b) привыкнуть	慣れる	обмануть	欺く
исчезнуть	消滅す		

## 形動

## I. 能動的形動詞と被働的形動詞

形動詞とは動詞の形容詞形で、つまり動詞から作つた形容詞である。従つて形容詞のやうに какой (如何なる) の問ひに答へて「…してゐるところの」(現在)、「…したところの」(過去)、「…されるところの」(被働的現在)、「…されたところの」(被働的過去)といふ風に譯し、文章に於ては形容詞のやうに名詞や代名詞に對する定語として用ひられ、同じく男性・女性・中性と單數・複數と六格の變化とを有し、關係する名詞の性・數・格と一致する。

形動詞は能動的と被働的との二種に分れ、更にそれが現在形と過去形とに分れて居る：

- |              |              |
|--------------|--------------|
| a) 能動的形動詞現在形 | b) 能動的形動詞過去形 |
| v) 被働的形動詞現在形 | г) 被働的形動詞過去形 |

[註] 普通 a) を形動詞現在、b) を形動詞過去と云ひ、v) を被形動詞現在、г) を被形動詞過去と稱する。

1. 形動詞現在形は щий を語尾とし「…してゐるところの」と譯し、動詞現在形複數三人稱から作る。即ち三人稱の語尾 ют, ут, ят, ат の т を取り去つて щий を附する。例へば：

(動詞原形)	(現在複數三人稱)	(形動詞現在)
читать	讀む чита-ют	чита-ющий 讀んでゐるところの
плакать	泣く плач-ут	плач-ущий 泣いてゐるところの
говорить	話す говор-ят	говор-ящий 話してゐるところの
учить	教ふ уч-ат	уч-ащий 教へてゐるところの

本來語尾に ся を有する動詞は形動詞に於ても ся を附する。  
заниматься <sup>勉強する</sup> занима-ются занима-ющий <sup>勉強してゐるところの</sup>

2. 形動詞過去形は **вший** 又は **ший** を語尾とし「…したところの」と譯し、動詞の過去形から作る。即ち過去の語尾 **л** を取り去つて **вший** を附する。例へば:

(原形)		(過去)	(形動詞過去)	
ЧИТАТЬ	読む	ЧИТА-Л	ЧИТА-ВШИЙ	読んだところの
ЛЮБИТЬ	愛す	ЛЮБИ-Л	ЛЮБИ-ВШИЙ	愛したところの
ЗАНИМАТЬСЯ	勉強する	ЗАНИМА-ЛСЯ	ЗАНИМА-ВШИЙСЯ	勉強したところの

若し動詞の男性の過去が **л** を語尾とせず、子音で終つてゐる時には **ший** を附する。

НЕСТИ	運ぶ	НЕС (過去)	НЕС-ШИЙ	運んだところの
УМЕРЕТЬ	死す	УМЕР (過去)	УМЕР-ШИЙ	死んだところの

3. 被形動詞現在形は **мый** を語尾とし「…されるところの」と譯し、動詞現在複数第一人称から作る。即ち第一人称の語尾 **ем** 又は **им** に直接 **ый** を附すれば足りる。例へば:

(原形)		(現在複数一人稱)	(被形動詞現在形)	
ЧИТАТЬ	読む	ЧИТА-ЕМ	ЧИТА-ЕМЫЙ	読まれるところの
ЛЮБИТЬ	愛す	ЛЮБИ-М	ЛЮБИ-ИМЫЙ	愛されるところの

4. 被形動詞の過去形は **нный** 及び **тый** を語尾とし「…されたところの」と譯し、多くは完了體動詞から出たものを使用する。a) 普通動詞過去形の語尾 **л** を取り去つて **нный** を附して作る。併し b) 一綴音動詞(例: **взять** 取る、**крыть** 掩ふ)は **тый** を附して作る。例へば:

(原形)	(過去形)	(被形動詞過去形)	
a) ЧИТАТЬ	ЧИТА-Л	ЧИТА-ННЫЙ	読まれたところの
ПРОЧИТАТЬ	ПРОЧИТА-Л	ПРОЧИТА-ННЫЙ	読み終へられたところの

НАПИСАТЬ	НАПИСА-Л	НАПИСА-ННЫЙ	書き終へられたところの
b) ВЗЯТЬ	ВЗЯ-Л	ВЗЯ-ТЫЙ	取られたところの
КРЫТЬ	КРЫ-Л	КРЫ-ТЫЙ	掩はれたところの
ЗАБЫТЬ	ЗАБЫ-Л	ЗАБЫ-ТЫЙ	忘却されたところの

## II. 形動詞の變化

形動詞は文章に於て定語となるを以て其語尾は三性・二數・六格の變化を有し、關係する名詞又は代名詞の性・數・格に一致させること形容詞と全く同一である。

形動詞の變化は **щий** 及び **ший** を語尾とするものは形容詞 **свежий** (新鮮なる)(形容詞變化式参照)の如く變化し、其他のものは形容詞 **добрый** (善良なる)(同變化式参照)の如く變化する。語尾に **ся** を有する動詞は變化の際其儘語尾に附し、たとへ其前に母音の來ることがあつてもこの場合は **сь** にならない。例へば:

(男性)	ЧИТАЮЩИЙ,	ЧИТАЮЩЕГО,	ЧИТАЮЩЕМУ.....
(女性)	ЧИТАЮЩАЯ,	ЧИТАЮЩЕЙ,	ЧИТАЮЩЕЙ.....
(男性)	ЗАНИМАЮЩИЙСЯ,	ЗАНИМАЮЩЕГОСЯ,	ЗАНИМАЮЩЕМУСЯ....
(女性)	ЗАНИМАЮЩАЯСЯ,	ЗАНИМАЮЩЕЙСЯ,	ЗАНИМАЮЩЕЙСЯ.....
(男性)	ЧИТАННЫЙ,	ЧИТАННОГО,	ЧИТАННОМУ.....
(女性)	ЛЮБИМАЯ,	ЛЮБИМОЙ,	ЛЮБИМОЙ.....

## III. 形動詞の使用例

### 1. 能動的形動詞

形動詞は(過去も現在も) **который** を以て始まる副文章の關係代名詞 **который** を省略する際に使用する。即ち副文章の動詞を形動詞に變へて其語尾を主文章中の名詞又は代名詞の性・數・格に一致さ

せる。例へば：

(現在)

主格 мальчик, который читает = читающий мальчик. (男性) 読んでゐるところの少年

主格 девочка, которая читает = читающая девочка. (女性) 読んでゐるところの少女

所有格 мальчика, который читает = читающего мальчика. (男性)

所有格 девочки, которая читает = читающей девочки. (女性)

造格 с мальчиком, который читает = с читающим мальчиком. (男性) 読んでゐるところの少年と

(過去)

主格 мальчик, который читал = читавший мальчик. 讀んだところの少年

同 девочка, которая читала = читавшая девочка. 讀んだところの少女

Вы знаете сидящую (= которая сидит) на скамейке девицу? 貴君は腰掛に坐つて居る娘を知つて居ますか。

На горящих (= которые горят) углях приготовлялось кушанье. 燃えて居る炭の上で食物が造られた。

На полях прогуливающие (= которые прогуливают) девочки срывали благоухающие (= которые благоухают) цветы.

野原に遊んで居る少女等は能く匂ふところの花(複数)を摘んで居た。

Молодые люди, занимавшиеся (= которые занимались) русским языком, теперь занимают хорошие места. 以前ロシア語を學んでゐたところの若い人達は目下良い地位を占めて居る。

Прости согрепшвшего и раскаявшегося.

罪を犯して悔い改めた者を赦せよ。

Он поднял упавшую (= которая упала) книгу.

彼は落ちたところの本を取り上げた。

## 2. 被動的形動詞 (定語として)

被形動詞は(現在も過去も)完全語尾と簡約語尾とを有し、文章に於ては定語ともなり(完全語尾のもの)又客語とも(簡約語尾)なる。

定語となる被形動詞(現在も過去も)は能動的形動詞と全く同一の方法にて使用される。即ち副文章の動詞を被形動詞となし、其語尾を主文章中の名詞又は代名詞の性・數・格に一致させて、副文章の關係代名詞を省く。此際文意が被動的となるから副文章の主語は造格に變る。例：

Мальчик, которого все любят = любимый всеми мальчик. 凡ての人に愛せられる兒。

С девочкой, которую он любит = с любимой им девочкою. 彼にて愛せられる少女と共に。

Дом, который построил плотник = построенный плотником дом. 大工に建てられた家。

Письмо, которое он получил = полученное им письмо. 彼にて受取られた手紙。

В книге, которую я читал = в прочитанной мною книге. 私にて讀まれたる本に。

[注意] (1) 被形動詞の過去形は多く完了體動詞を使用する。被形動詞の直譯は「誰(何)にて…せられる(せられたる)」となるけれど、普通は「誰が…する」と譯すべきである。

(2) 被形動詞の現在形は最近會話に於ては餘り使用しない。

## 3 被形動詞の簡約語尾(客語として)

a) 被形動詞は現在形(емый, имый)も過去形(нный, тый)も共に形容詞の如く其語尾を簡約して、文章に於て客語として使用する。

(現在形)

	完全語尾	簡約語尾	完全語尾	簡約語尾
單	男 емый	ем	имый	им
	女 емая	ема	имая	има
	中 емое	емо	имое	имо

復 {男  
女  
中

(過去形)

	完全語尾	簡約語尾	完全語尾	簡約語尾
單	男 нный	н	тый	т
	女 нная	на	тая	та
	中 нное	но	тое	то
復 {男 女 中	нные	ны	тые	ты

例

	被形動詞過去形	被形動詞簡約語尾
построить 建てる	построенный	построен, а, о, ы.
получить 受領する	полученный	получен, а, о, ы.
продать 賣却する	проданный	продан, а, о, ы.
закрывать 閉す	закрытый	закрыт, а, о, ы.
открывать 開く	открытый	открыт, а, о, ы.
занять 領す	занятый	занят, а, о, ы.

Дом построен.	家は建てられた。
Письмо получено.	手紙は受取られた。
Имение продано.	地所は賣却された。
Почта открыта.	郵便局は開かれた。
Дверь закрыта.	戸は閉められた。

b) 被形動詞過去形の簡約語尾に助動詞 быть を添へて被動詞にする。例へば:

Эта картина нарисована была сестрою учителя.  
此繪は教師の姉妹にて畫かれた。

Этот книжный магазин был открыт весной сего года.  
此書店は本年の春に開かれた。

В каком часу будет открыт банк.  
銀行は何時に開かれるでせう。

Банк будет открыт в восемь часов утра.  
銀行は朝の八時に開かれませう。

Окно открыто. 窓が開かれて居る。

Все места заняты. 凡ての席は占められてゐる(満員である)。

## — 3 —

## 副 動 詞

副動詞とは動詞の副詞形である。つまり動詞から作つた副詞であつて、*каким образом?* 「如何様にして」、*когда?* 「何時」の問ひに應ずる動作又は状態を示す。現在形と過去形との二種に分たれ、現在形は я 又は а を語尾とし「…しつつ又は…しながら」と譯す。過去は *вши* (又はその略 *в*)、*ши* を語尾とし「…して」と譯す。

	副動詞の語尾	副動詞の譯し方
現在形	я, а	「…しつつ」又は「…しながら」
過去形	вши (в), ши	「…して」又は「…し終つて」

а) 副動詞現在形は動詞現在、複數第三人稱の語尾 ют, ут, ят, ат を取り去つて、之に я を附して作る。但し語尾の前に上顎音を有するものは я の代りに а を附して作る。そして本來語尾に ся を有する動詞は之を съ に變へて末尾に附す。

原形	現在形複數三人稱	副動詞現在形
читать 讀む	чита-ют	чита-я 讀みつつ
говорить 話す	говор-ят	говор-я 話しつつ
учить 教ゆ	уч-ат	уч-я 教へつつ
нести 運ぶ	нес-ут	нес-я 運びつつ
заниматься 學ぶ	занима-ются	занима-ясь 勉強しつつ

б) 副動詞過去形は動詞過去形の語尾を取り去つて、之に вши (в) 又は ши を附して作る。其際動詞過去形に於て л を語尾とするものは л を省いて вши (в) を附し、л がなくて他の子音を語尾とするものは直接その子音に ши を附す。そして本來語尾に ся を有するものは之を съ に變へて其末尾に附す。

原形	直接法過去	副動詞過去
читать 讀む	чита-л	чита-вши 讀んで
прочитать 通讀する	прочита-л	прочита-в 通讀して
нести 運ぶ	нес	нес-ши 運びて
умереть 死す	умер	умер-ши 死んで
заниматься 勉強する	занима-лся	занима-вшись 勉強して

## 練 習

сын 息子	всегда 常に、何時も	плакать 泣く
проводать 送る	ни …-е (否定)	встать 起る、起つ
дочитать 讀み卒へる	пошёл* 行つた	сильно 強く
отдохнуть 休息する	продолжать 續ける	путь 道、旅行
приняться 着手する	испугаться 驚く	дождь 雨

Читая письмо сына, она всегда плачет.  
息子の手紙を讀みながら彼女は何時も泣いてゐる。

Проводая брата, сестра плакала.  
兄弟を見送りながら姉妹は泣いた。

Не говоря ни слова, он встал.  
一言も言はないで彼は起つた。

Не зная, где он живёт, я ещё не был у него.  
彼が何處に住んで居るか知らないで私は未だ彼の許へ行かなかつた。

Не дочитав книгу, он пошёл\* гулять.  
彼は本を讀み終らないで散歩に行つた。

Прочитав письмо, она сильно заплакала.  
手紙を讀み終つて彼女は甚く泣き出した。

Не много отдохнувшись, мы продолжали свой путь.  
僅か休息して後私達は自分の道(旅行)を續けた。

Приехав домой, мы принялись за чай.  
宅へ着いて私達は直ちにお茶に取りかゝつた。

Испугавшись дождя, они не пошли гулять.  
雨に驚いて彼等は散歩に出なかつた。

\* пошёл. の原形は пойти.

## 第十二講

## — 1 —

## 數 詞

## 1. 數 詞 の 種 類

數詞は事物の個數及び順序を示す品詞で、個數詞と順序數詞の二種に分れる。個數詞は сколько? (幾許)の問に應じて一・二・三といふ風に事物の個數を示し、順序數詞は который? (幾番目の)の問に應じて、第一の・第二の・第三のといふが如く事物の順序を示す。この外に分數詞と集合數詞があるが、二つ共個數詞に屬する。

## 2. 數 詞 の 構 成

數詞はその構成に於て、一位數(基本數詞)より成る單一數詞と二位數以上より成る複合數詞とに分たれる。例へば一・二・三などは單一數詞であるが、十一・十二・十三となると複合數詞である。

## 3. 個 數 詞 及 び 順 序 數 詞

個 數 詞			順 序 數 詞		
(男)	(女)	(中性)	(男)	(女)	(中性)
1. один,	одна,	одно	第一の	перв-ый.	ая, ое
(男・中)	(女性)		第二の	второй,	ая, ое
2. два,	две		第三の	третий,	ья, ье
3. три (以下性の區別なし)			第四の	четвёртый,	ая, ое
4. четыре			第五の	пятый,	ая, ое
5. пять			第六の	шестой,	ая, ое
6. шесть			第七の	седьмой,	ая, ое
7. семь					

## 個 數 詞

8. восемь
9. девять
10. десять
11. одиннадцать
12. двенадцать
13. тринадцать
14. четырнадцать
15. пятнадцать
16. шестнадцать
17. семнадцать
18. восемнадцать
19. девятнадцать
20. двадцать
21. двадцать один
22. двадцать два
30. тридцать
40. сорок
50. пятьдесят
60. шестьдесят
70. семьдесят
80. восемьдесят
90. девяносто
100. сто
200. двести
300. триста
400. четыреста
500. пятьсот

## 順 序 數 詞

- 第八の восьмой, ая, ое
- 第九の девятый, ая, ое
- 第十の десятый, ая, ое
- 第十一の одиннадцатый, ая, ое
- 第十二の двенадцатый, ая, ое
- 第十三の тринадцатый, ая, ое
- 第十四の четырнадцатый, ая, ое
- 第十五の пятнадцатый 以下準之
- 第十六の шестнадцатый
- 第十七の семнадцатый
- 第十八の восемнадцатый
- 第十九の девятнадцатый
- 第二十の двадцатый
- 第二十一の двадцать первый
- 第二十二の двадцать второй
- 第三十の тридцатый
- 第四十の сороковой
- 第五十の пятидесятый
- 第六十の шестидесятый
- 第七十の семидесятый
- 第八十の восемьдесятый
- 第九十の девяностый
- 第 百の сотый
- 第二百の двух-сотый
- 第三百の трех-сотый
- 第四百の четырех-сотый
- 第五百の пятисотый

個數詞	順序數詞
600. шестьсот	第六百の шестисотый
700. семьсот	第七百の семисотый
800. восемьсот	第八百の восьмисотый
900. девятьсот	第九百の девятисотый
1000. тысяча	一千目の тысячный
2000. две тысячи	二千目の двух-тысячный
4000. четыре тысячи	四千目の четырёх-тысячный
5000. пять тысяч	五千目の пяти-тысячный
1.000.000. миллион	百萬目の миллионный
1.000.000.000. миллиард	十億目の миллиардный

## — 2 —

## 1. 數詞の變化

個數詞は один を除く外大體名詞の如く變化し、順序數詞は **ый** 及び **ой** に終はる形容詞の如く變化する。但し **третий** は生物名詞より出で語尾 **ий** を有する物主形容詞の變化式に従ふ。

格	單 數			複 數
	男 性	女 性	中 性	三 性 共 通
主	один	одна	одно	одни
所有	одного	одной	одного	одних
與	одному	одной	одному	одним
目的	主又は所有	одну	одно	主格又は所有格
造	одним	одной(ой)	одним	одними
前置	об*одном	об одной	об одном	об одних

\*註。前置詞 **об** は **о** と同じだが、次の語が母音で始まる時に限り聲調の關係上 **о** が **об** となる。

	(男、中) (女)		три	четыре	пять
	два	две			
主	двух	двум	трёх	четырёх	пяти
所有	двум	трём	четырёх	четырёх	пяти
與	двум	трём	четырёх	четырёх	пяти
目的	主格又は所有格と同じ				пять
造	двумя	тремя	четырьмя	четырьмя	пятью
前置	о двух	о трёх	о четырёх	о четырёх	о пяти

主	пятьдесят	сто	двести	пять-сот
所有	пяти-десяти	ста	двух-сот	пяти-сот
與	пяти-десяти	ста	двум-стам	пяти-стам
目的	пятьдесят	сто	двести	пять-сот
造	пятью-десятью	ста	двумя-стами	пятью-стами
前置	о пяти-десяти	о ста	о двух-стах	о пяти-стах

[註] 語尾 **ь** を有する個數詞の變化は凡て **пять** と同じく。60, 70, 80 は **пятьдесят** と同じく。40 と 90 とは **сто** と同じく。300 と 400 は **двести** と同じく。600, 700, 800, 900 は **пятьсот** と同じく變化する。**тысяча** (千), **миллион** (百萬), **миллиард** (十億) は名詞の如く見做され、單數と複數とを有し、且つその變化も名詞の變化式に従つて變化する。また 1, 2, 3, 4 までの目的格は次に立つ名詞が無生物なるか生物なるかによつて主格又は所有格と同じになることは名詞の場合に同一であるが、5以上の個數詞は次に立つ名詞が生物たると無生物たるとに拘らず目的格は主格と同じである。

順序數詞は形容詞の變化式に従つて變化するから茲にはその變化式を省く。

## 2 數詞變化の規則

1. 個數詞 **один** は性・數・格に於て常に名詞と一致するが、**один**



を除く他の凡ての個數詞は名詞と結合する場合必ず名詞の所有格を要求する。つまり數詞の次に立つ名詞は常に所有格となるのである。其中で два, три, четыре の後に立つ名詞は單數の所有格となり、пять 以上の數詞の後に立つ名詞は複數の所有格となることを忘れてはならぬ。但し是れは數詞の主格の場合のことであつて、所有格以下の諸格に於ては數詞は常に數と格とに於て名詞のそれと一致する。そして два, три, четыре でも所有格以下は常に名詞の複數と結合する。два は один と同じく性の區別があるから性に於ても名詞と一致するものである。例へば：

主	два	ученика́	二人の生徒	две	кни́ги	二冊の本
所有	двух	ученико́в		двух	книг	
與	двум	ученика́м		двум	книга́м	
目的	двух	ученико́в		две	кни́ги	
造	двумя́	ученика́ми		двумя́	кни́гами	
前置	о двух	ученика́х		о двух	кни́гах	

主	пять	ученико́в	五人の生徒
所有	пяти́	ученико́в	
與	пяти́	ученика́м	
目的	пять	ученико́в	
造	пятью́	ученика́ми	
前置	о пяти́	ученика́х	

2. 個數詞がいくつか合して合成的になつた場合には名詞(及び形容詞)の格はその合成數詞の最終の數によつて支配される。例へば：

два́дцать один ру́бль (單數主格) 二十一ルーブリ  
три́дцать два ру́бля (單數所有格) 三十二ルーブリ

сбо́рок пять ру́блей (複數所有格) 四十五ルーブリ

двэ́сти о́дннадцать ру́блей (複數所有格)  
二百十一ルーブリ

3. 合成順序數詞は最後の數詞のみ順序數詞に改め、他は個數詞のままで使用する。變化の場合も個數詞は其儘にしておいて唯最後の順序數詞のみ形容詞の變化式に従ひ名詞(及び形容詞)と共に變化する。

主	четы́реста	два́дцать	пе́рвый	го́д	(四百二十一年)
所有	четы́реста	два́дцать	пе́рвого	го́да	
與	четы́реста	два́дцать	пе́рвому	го́ду	
目的	четы́реста	два́дцать	пе́рвый	го́д	
造	четы́реста	два́дцать	пе́рвым	го́дом	
前置	о четы́реста	два́дцать	пе́рвом	го́ду	

— 3 —

練 習

1.

アチオン マーリチク チターイユフ	О́дин ма́льчик чита́ет.	一人の男の兒が讀んでゐる。
アチオン ウチーモク スルーシャイユフ	О́дин учени́к слýшает.	一人の生徒は聴いてゐる。
アドゥナー シュストッラー リスーイ	О́дна сестра́ рису́ет.	一人の姉妹が繪を描いてゐる。
アムナー ゴーヴチカ ビーシュフ	О́дна де́вочка пи́шет.	一人の少女が字を書いてゐる。
アチオン ウチーモリ スプラーシグイユフ	О́дин учи́тель спра́шивает.	一人の教師が問ふてゐる。

アドゥナー ウチニーフ アウツチアーイユツ  
**Одна ученица** отвечает. 一人の女生徒が答へてゐる。

〔註〕 茲には説明の便宜上凡て один を附したけれど、之と並び立つ名詞が既に単数である以上、露文では特に один を附する必要がないから普通省略する。然し日本文に譯する場合には один のある心持で譯すかい。

## 2.

(主格) (所有格)  
 ウチニーク ドウヴァー ウチニカー  
 (男) **Ученик** — два ученика. 生徒の二人 (二人の生徒)  
 ゴーヴチカ ドヴー ゴーヴチキ  
 (女) **Девочка** — две девочки. 少女の二人 (二人の少女)  
 アクノー ドヴァー アクナー  
 (中) **Окно** — два окна. 窓の二つ (二つの窓)

ドヴー ラーストチキ リュターユツ  
**Две ласточки** летают. 二羽の燕が飛んでゐる。  
 ドヴー ルィーフィ ブラウユツ  
**Две рыбы** плавают. 二尾の魚が泳いでゐる。  
 ドヴー ラーカ ポールザユツ  
**Два рака** ползают. 二足の蟹が匍ふて居る。  
 ドヴー ベトハー ホーヂャツ ナ ドヴー リュー  
**Два петуха** ходят на дворе. 二羽の雄鶏が邸内を歩いてゐる  
 サボージニク クビール ドヴー ナチー  
**Сапожник** купил два ножа. 靴工が二つの小刀を買ふた。  
 クズニユツ ズヂェーラル ドヴー タバラ  
**Кузнец** сделал два топора. 鍛冶工が二挺の斧を拵へた。  
 ムヂーグ クビール ドヴー ズドラー  
**Мужик** купил два ведра. 百姓が二つの桶を買ふた。

## 3.

ウチニーフ クビーラ ドヴー クニキ  
**Ученица** купила две книги. 女生徒が二冊の書籍を買ふた。

**A** Сколько вам (тебе) лет? あなた(君)は何歳ですか。  
**B** Мне двадцать пять лет. 私は二十五歳です。

〔註〕 1. старший брат — 兄。 2. младший брат — 弟。  
 3. старшая сестра — 姉。 4. младшая сестра — 妹。

## 4 —

## 前置詞\*

от, из, с (又は со)

是等の前置詞は何れも所有格を要求する。つまり所有格の名詞(及び形容詞)と結合するのである。又何れも「…から」若くは「…より」と譯する。然し其の意味は自ら異り、от は「側面から」、из は「内部から」、с 又は со は「上表面から」の移動を現はすのだから、その用法を誤らないやうに注意しなければならぬ。

前置詞 со は с と同くなれど、唯その後立つ名詞の頭字が二個以上の子音から成立つ時は發音の關係上 с を со とするのである。例へば со стены の如し。

オン アタドヴーヌストール オフ スタラ  
**Он отодвинул** стул от стола. 彼は机から椅子を離した。  
 トフ モスクヴァー ド リニングラーダ  
**От Москвы** до\*1 Лени града. モスクワからリニングラード  
 シスチソフ ゴーヴチケ ヴェールスト  
 609 (шестьсот девя<sup>ть</sup>) вёрст. まで六百九十里ある。  
 オン チヴョーツ オフ シコール、オーエン プリースコ  
**Он живёт** от школы очень близко.  
 彼は學校から甚だ近くに住んで居る。

マヤー ダーチ、オーチエン、ダリコー、ネフ、ゴーロダ  
**Моя дача** очень далеко от города.  
 私の別荘は市から甚だ遠い。

\* 前置詞の詳細な説明は第十四講を見よ

- カトールイ チュラヴューク シーイェツ  
Который человек сеет? 孰れの人が播いてゐるか。
- フタローイ チュラヴューク シーイェツ  
Второй человек сеет. 第二の人が播いてゐる。
- カトールイ チュラヴューク ベローニツ  
Который человек боронит? 孰れの人が鋤き均してゐるか。
- トリーチイ チュラヴューク ベローニツ  
Третий человек боронит. 第三の人が鋤き均してゐる。
- ベールダヤ 左ーヴチカ ビーシユツ  
Первая девочка пишет, 第一の少女は書いてゐる、
- フタラーヤ チターイユツ トリーチヤ  
вторая читает, третья  
смеётся. 第二の(少女)は読んでゐる、第三  
の(少女)は笑つてゐる。
- カトーラヤ 左ーヴチカ ビーシユツ  
Которая девочка пишет? 孰れの少女が書いてゐるか。
- ベールダヤ 左ーヴチカ ビーシユツ  
Первая (девочка) пишет. 第一の少女が書いてゐる。
- カトーラヤ チターイユツ  
Которая читает? 孰れのが読んでゐるか。
- フタラーヤ チターイユツ  
Вторая читает. 第二のが読んでゐる。
- カトーラヤ смеётся?  
Которая смеётся? 孰れのが笑つてゐるか。
- トリーチヤ смеётся.  
Третья смеётся. 第三のが笑つてゐる。
- シヴーロフ トリーチヤ Число  
Сегодня третье число. 今日(は)三日である。
- フタラー フーロ フタロー Число  
Вчера было второе число. 昨日(は)二日であつた。
- フーロフ フーロフ Число  
Завтра будет четвертое число. 明日(は)四日であらう。

## 5.

- ウ チュラヴューカ 右ールキー フラー  
У человека две руки: пра- 人には二ツの手あり、右のと  
вая и левая. 左のと。
- ウ チュラヴューカ 右ーナギー フラー  
У человека две ноги: пра- 人には二ツの足あり、右のと左  
вая и левая. のと。
- ウ チュラヴューカ 右ーグラザー アラ  
У человека два глаза: пра- 人には二ツの目あり、右の目と  
вый и левый. 左の目と。
- ウ チュラヴューカ 右ーシチュキー フラー  
У человека две щеки: пра- 人には二ツの頬あり、右の頬と  
вая и левая. 左の頬と。
- ウ チュラヴューカ 右ーウーハ フラー  
У человека два уха: правое 人には二ツの耳あり、右の耳と  
и левое. 左の耳と。
- ウ チュラヴューカ 右ーボカ フラー  
У человека два бока: пра- 人には二ツの脇あり、右の脇と  
вый и левый. 左の脇と。
- ウ チュラヴューカ 右ーブリュチャー フラー  
У человека два плеча: пра- 人には二ツの肩あり、右の肩と  
вое и левое. 左の肩と。
- ウ チュラヴューカ 右ーカリューナ  
У человека два колена: 人には二ツの膝あり、右の膝と  
правое и левое. 左の膝と。

- Который час? 何時ですか。  
 Ровно час (Ровно один час). 丁度一時です。  
 Два часа. Три часа. Четыре часа. 二時、三時、四時です。  
 Есть ли сегодня урок? 今日授業がありますか。  
 Да, есть. 左様、あります。  
 Один урок? 一課目ですか。  
 Нет, сегодня четыре урока. いえ、今日は四課目あります。  
 Есть ли у него брат или сестра? 彼には兄弟か姉妹がありますか。  
 Да, у него есть два брата и две сестры, 左様、彼には二人の兄弟と二人の姉妹があります。  
 Сколько<sup>41</sup> у него рублей? 彼には幾ルーブリがありますか。  
 У него только один рубль. 彼にはたった一ルーブリあります。  
 У меня два рубля, а у брата пять рублей. 私は二ルーブリ持つてゐますが兄弟は五ルーブリ持つてゐます。  
 Сколько недель в месяце? 一ヶ月の中には幾週ありますか。  
 В месяце четыре недели. 一ヶ月の中には四週あります。  
 Сколько там стаканов? 彼處に幾許のコップがありますか。  
 Там пять стаканов. 彼處には五個のコップがあります。  
 Много<sup>42</sup> ли слив на столе? 食卓の上には澤山の梅がありますか。  
 Нет, на столе мало слив. いえ、食卓には梅が少いです。  
 Есть ли здесь блюдо? 此處に皿がありますか。  
 Да, здесь есть несколько<sup>43</sup> блюд. 左様、此處には若干の皿があります。

\* сколько, много, несколько は數詞と同じく複數所有格を要求す。

- Сколько уроков сегодня? 今日は何課目ありますか。  
 Сегодня шесть уроков. 今日は何課目ありますか。  
 Сколько у вас книг? 貴下は本を幾冊御持ちですか。  
 У меня семь книг. 私は七冊持つてゐます。  
 Сколько у них яблок? 彼等には幾許の林檎がありますか。  
 У них восемь яблок. 彼等には八ツの林檎があります。

### Разговоры. (對話)

人に年齢を訊く時には訊かれた當人を第三格(與格)にする。然し譯は主格のやうに譯する。

- A. Сколько лет вашим братьям? あなたの兄弟連は何歳ですか  
 B. Моему старшему брату<sup>41</sup> тридцать 私の兄は三十五歳ですが、  
 цать пять лет, а младшему<sup>42</sup> 弟は二十歳です。  
 двадцать лет.  
 A. Сколько лет вашим сестрам? あなたの姉妹連は何歳ですか。  
 B. Моей старшей сестре<sup>43</sup> тридцать 私の姉は三十歳ですが、  
 лет, а младшей<sup>44</sup> двадцать два года. 妹は二十二歳です。  
 A. Сколько лет вашему учителю あなたの先生とあなたの女  
 и вашей учительнице? 教師とは何歳ですか。  
 B. Нашему учителю около тридцати 我々の先生は三十二歳前後  
 цати двух лет, а нашей учи- ですか我々の女教師は多分  
 тельнице наверное двадцать 二十八歳です。  
 восемь лет.

- A. Сколько вам (тебе) лет? あなた(君)は何歳ですか。  
 B. Мне двадцать пять лет. 私は二十五歳です。

〔註〕 1. старший брат — 兄。 2. младший брат — 弟。  
 3. старшая сестра — 姉。 4. младшая сестра — 妹。

## — 4 —

## 前置詞\*

от, из, с (又は со)

是等の前置詞は何れも所有格を要求する。つまり所有格の名詞(及び形容詞)と結合するのである。又何れも「…から」若くは「…より」と譯する。然し其の意味は自ら異り、отは「側面から」、изは「内部から」、с又はсоは「上表面から」の移動を現はすのだから、その用法を誤らないやうに注意しなければならぬ。

前置詞 соは сと同一なれど、唯その後立つ名詞の頭字が二個以上の子音から成立つ時は發音の關係上 сを соとするのである。例へば со стеныの如し。

Он отодвинул стул от стола. 彼は机から椅子を離した。

От Москвы до Ленинграда Москваからリニングラード

609 (шестьсот девять) вёрст. まで六百九譯里ある。

Он живёт от школы очень близко. 彼は學校から甚だ近くに住んで居る。

Моя дача очень далеко от города. 私の別荘は市から甚だ遠い。

\* 前置詞の詳細な説明は第十四講を見よ

Дым выходит из трубы. 煙が煙突(の中)から出てゐる。

Водовоз выливает воду из бочки. 水運びが樽(の中)から水を注いでゐる(明ける)。

Мальчик катается с горы. 男の兒が山から走つて居る。

Я вынул платок из кармана. 私はハンカチフをポケットから取出した。

Наш торговец приехал из города. 我等の商人が町から來た。

Женщина кладёт в самовар из печки. 婦人が湯をストーブからサモザールに投入して居る。

Ученица пришла домой из школы. 女生徒が學校から家へ歸つた。

Мальчик снял картину со стены. 少年が壁から繪を外した。

Девочка взяла тетрадь со стола. 娘が手帳を机から取つた。

Белка упала с дерева на землю. 栗鼠が樹から地に落ちた。

Волк прибежал в деревню из леса. 狼が林から村へ駆けつけた。

\*1 до(…まで)は前置詞で、矢張り所有格を要求し、空間時間の距離を示す。

\*2 кладётの不定法は класть (кладу, дёшь)。

\*3 ёлкиの原形は ёлка。變化の際ёは除去さる。

\*4 домойは家へと云ふ副詞。

ヤ-プロコ ウバーロズチ-リ-グナセ-ムリ  
Яблоко упало с дерева на землю.

林檎が樹から地に落ちた。

## 2.

チ-スィ-チ-ラユツツァ-イス シ-リ-エ-プラー  
Часы делаются из серебра. 時計は銀で造られる。

ゴ-ツ サ-スチ-イ-ツ-イス 12 ヲ ナ-ツツチ ミ-シツフ  
Год состоит из двенадцати месяцев.

一年は十二ヶ月より成立つ。

チ-ポ-チカ-イス ソ-ロタ  
Цепочка из золота.

金で造つた鎖(金製の鎖、金鎖)

ア-ディン-イス ナ-ス  
Одним из нас.

我々からの一人(我々の中の一  
人、我々の一人)。

ニ-コ-トルイ-イス ウチ-ニ-コ-フ  
Некоторый из учеников.

生徒からの或者(生徒中の或者)。

ア-ナ-ア-ブラ-エ-ツ-オ-ツ-ラ-ド-スチ  
Она плачет от радости.

彼女は喜びから泣いてゐる(喜び  
の餘り泣いてゐる)。

オ-ツ-エ-チ-フ-ニ-コ-ブリ-ヤ-ツ-ノ-ス-チ-イ-オン-ザ-バ-ル-ル  
От этих неприятностей он заболел.

彼は是等の不快事から病みついた。

ラ-ボ-ツ-ニ-ク-ウ-ル-グ-リ-シ-ル-ス-ラ-ボ-ト  
Работник уже пришел с работы.

下男は最早仕事から歸つた。

オン-ウ-ナ-ス-ベ-チ-エ-ソ-フ-ド-シ-ミ-  
Он у нас с пяти часов до семи.

彼は五時から七時迄我々の所に居た。

ア-チ-ウ-ツ-ツ-ズ-ツ-ラ-チ-ル-シ-ダ-モ-イ-ド-ノ-ウ-ダ-ゴ-ダ  
Отец возвратился домой до нового года.

父は新年までに家に歸つた(正月前に歸つた)。

ウ-メ-ニ-ド-ツ-ス-ア-ド-ナ-ア-ロ-シ-バ  
У меня до вас одна просьба.

私に貴下にまで一つの願ひ事がある。  
(私は貴下に対して一つの願ひ事がある)

\* 或男性名詞は所有格に於て規則的と不規則的と二種の語尾を受く。例へば лес の規則的の所有格は леса けれど不規則的の所有格は與格と同じく лесу となる。из лес) となるはそのためである。

## 第十三講

## - 1 -

## 1. 比較級に就いて

比較級は本來形容詞に屬し、形容詞より生ずるもので、事物を比較してその優劣を示す品詞である。然るに事物と事物を比較するに、両者が同一なる場合とその何れかが稍優秀なる場合と或は大に優秀なる場合と三つの程度がある。それ故に形容詞は比較上三級に分れ之を原級、比較級、最大級といふのである。

## 2. 原級

原級とは比較の意味を持たない形容詞の原形をいふので、例へば добрый человек (善良なる人)、строгий отец (嚴格なる父)、прилежный ученик (勤勉なる生徒) の добрый, строгий, прилежный 等は純然たる形容詞の原形であつて、單に事物の性質を比較せずを示すだけである。

## 3. 比較級

比較級とは或事物の性質品位を他の事物の性質品位と比較して、その優劣を示すものである。比較級は之を定語(名詞の定語)として使用する場合と客語として使用する場合と二つの場合がある。

a) 定語として即ち「より多く…なる」の意に使用する際には原級形容詞 добрый (善良なる)、строгий (嚴格なる)、прилежный (勤勉なる) 等に более (より多く) を附加するのである。例へば:

более добрый	より善良なる
более строгий	より嚴格なる
более прилежный	より勤勉なる
более дорогой	より高價なる

此等の形容詞は性・數・格によつて其語尾をそれぞれ變化し、關係する名詞の性・數・格に一致させねばならぬ。但し附語たる**более**は變化しない。例へば：

- (主) **более добрый человек.** **более дорогая книга.**  
(より善良なり) (より高價な本)  
 (所有) **более доброго человека.** **более дорогой книги.**  
 (與) **более доброму человеку.** **более дорогой книге.**

比較級の文章は比較する事物と比較される事物から成り立つ。つまり主文章と副文章から成る。その際比較される事物を示すところの副文章にはその初めに **чем** 又は **нежели** (…よりも) を挿入す。

**Я не видел более доброго человека, чем он.**  
 私は彼より善良なる人を見なかつた。

**Он купил более дорогую книгу, чем (нежели) я купил.**  
 彼は私が買ふたよりもより高い本を買ふた。

6) 客語として即ち「より多く…なり」「より多く…である」の意に使用する場合には合成式と単一式と二つの様式がある。

1) 合成式比較級は簡約語尾の形容詞に **более** (より多く) を附して作る。例へば：

- (單・男) **более добр.** **более строг.** **более дорог.**  
(より善良なり) (より嚴格なり) (より高價なり)  
 (單・女) **более добра.** **более строга.** **более дорога.**  
 (單・中) **более добрб.** **более строга.** **более дорого.**  
 (複・三性共) **более добры.** **более строги.** **более дороги.**

以上の形容詞は其語尾を主語たる名詞又は代名詞の性、數に一致させる。

**Отец более добр.** 父はより善良である。  
**Она более строга.** 彼女はより嚴格である。

**Золото более дорого.** 金はより高價である。

之に比較の對象となる事物を示す場合には前述の如くコンマ [.] の次に **чем** 又は **нежели** を附して、その後を示す。

**Отец более добр, чем мать.** 父は母よりも善良なり。

**Она более строга, чем он.** 彼女は彼よりも嚴格なり。

**Золото более дорого, чем серебро.** 金は銀よりも高價なり。

2) 単一式比較級は附語 **более** を用ひず、形容詞其れ自身の語尾を比較級語尾に變へて作る。大抵の形容詞は語尾 **ый, ий, ой** を取去つて之に比較級の語尾 **ее (ей)** を入れ換へればよい。ただ語尾の前に喉音 **г, к, х** を有する形容詞及び齒音 **д, з, с, т, ст** を有する形容詞は此等の喉音又は齒音を對應の上顎音文字に變へ (欄外備考注意) 比較級語尾 **е** を附して作る。比較級では力點は大抵語尾に移る。

- а) **добр-ый** 善良なる **добр-ее** より善良なり  
**син-ий** 青き **син-ее** より青し  
**прям-ой** 眞直なる **прям-ее** より眞直なり  
 б) **строг-ий** 嚴格なる **строж-е** より嚴格なり  
**худ-ой** 悪しき **хуж-е** より悪し

此単一式比較級は文章に於ても談話に於ても最も多く使用せらるる形式で、是れが本來の意味に於ける比較級である。而して此形式と共に比較される事物を示すのに二通りある。(甲)一は合成式と同

【備考】 (1) 喉音文字の轉換

喉音	г	к	х	ск
上顎音	ж	ч	ш	щ

(2) 齒音文字の轉換

齒音	д	з	с	т	ст	ц
上顎音	ж, жд	ж	ш	ч	щ	ч

様に чем 又は нежели を用ひ、(乙) — は чем 又は нежели を省略する。чем 又は нежели を省略したる際には比較される事物を所有格にして比較級の次に置き コンマ[,] を省く。例へば：

(甲)

Отец добрее, чем (нежели) мать. 父は母より善良なり。

Карандаш дороже, чем (нежели) перо.

鉛筆はペンより高し。

(乙)

Отец добрее матери. 父は母よりも善良なり。

Карандаш дороже пера. 鉛筆はペンよりも高價なり。

単一式比較級には比較の度を強むるため гораздо (遙かに) 及び несравненно (比較にならぬ程) を附用し、又比較の度を弱むるために по (少しく) を比較級に接頭することがある。例へば：

гораздо добрее                      гораздо дороже  
はるかに善し                          はるかに高價なり

несравненно лучше                несравненно дороже  
比較にならぬ程善し                比較にならぬ程高價なり

подобнее 少し善し                    подороже 少し高價なり

【備考】性質形容詞の単一式比較級は愈を副詞としても使用す、例

Он дороже заплатил. 彼はより高く拂ふた。(副詞)

Ножик дороже пера. 小刀はペンより高い。(比較級)

Он говорил тише. 彼は静かに話した。(副詞)

Сегодня море тише, чем вчера. 今日海は昨日よりも静かです。(比較級)

Она пишет хуже. 彼女は拙く書く。(副詞)

Она пишет хуже брата. 彼女は兄弟より拙く書く。(比較級)

## 4. 練 習

ленивый	怠慢なる	холодный	寒き
тёплый	暖かき	умный	俐口なる
приятный	愉快なる	сильный	強き
хитрый	狡猾なる	полезный	有益なる
грамматика	文法	газета	新聞
сказка	お伽噺	интересный	興味ある、面白き
лёгкий	容易なる	вино	酒
пиво	ビール	водка	火酒
крепкий	堅き、強壯なる	на берегу моря	海岸に
жить	生活する	старательный	熱心なる
аккуратный	几帳面なる	язык	國語、語學
русский язык	露語	английский	英國の
летом	夏に		

Сестра более ленива, чем брат. Сестра ленивее, чем (нежели) брат. Сестра ленивее брата. Сегодня теплее, чем вчера. Осень приятнее, чем зима. Вчера было холодно, а сегодня ещё холоднее. Сестра прилежнее брата. Собака умнее кошки. Волк сильнее лисы, а лиса хитрее волка. Учитель строже отца.

【譯】姉妹は兄弟よりも怠慢である。(以下二句共同意義なり)。今日は昨日よりも暖かである。秋は冬よりも心地よい。昨日は寒か



つた、併し今日は尙ほ寒い。姉妹は兄弟よりも勤勉である。犬は猫よりも伶俐である。狼は狐よりも強い、併し狐は狼よりも狡猾である。教師は父よりも厳格である。

## — 2 —

## 1 最大級

最大級は一事物が他の事物に比して最も優秀なる性質を有することを示す。最大級は比較級と同様二通りの式を有する。一は定語として「最も…なる」の意を表し、一は客語として「最も…なり」の意を表す。

1. 定語となる最大級には單一的と合成的との二様ある。

a) 單一的最大級の語尾は ейший, айшний, ший である。即ち普通形容詞の語尾 ый, ой, ий を取り去つて、之に最大級語尾を入れ換へて作る。大抵の形容詞には ейший を附するけれど、只語尾の前に喉音 г, к, х を有するものは此等の喉音を對應の上顎音に變へて айшний を附する。又或る單綴形容詞は ший を語尾とする。

形容詞		最大級
добр-ый	善良なる	добр-ейший 最も善良なる
строг-ий	厳格なる	строжайший 最も厳格なる
стар-ый	老たる	стар-ейший 最も老たる
высок-ий	高き	выс-ший 最も高き
худ-ой	瘠せたる(悪しき)	худ-ший 最も瘠せたる

b) 合成的最大級は普通形容詞に самый (最も), очень (甚だ), весьма (極めて) 等を附して作る。

добрый :	самый добрый	очень добрый
строгий :	самый строгий	весьма строгий
худой :	самый худой	весьма худой

【注意】 定語たる最大級は(單一式も合成式も)「最も…なる」の意を表して名詞に従ふものであるから其語尾は三性に數六格に變化すること普通完全語尾の形容詞と同じである。只合成式の附語 самый は形容詞の如く變化するけれど、очень (甚だ) と весьма (極めて) は變化しない。

2. 客語となる最大級は比較級の單一式に всего 又は всех を附して作る。其際 всего は最大級が中性名詞に關係するか或は副詞の意に使用さるる際に用ひ、vсех は最大級が生物名詞に關係するに用ゆる。

добрый	善良なる	добрее всех	最も善良なり
строгий	厳格なる	строже всех	最も厳格なり
худой	悪しき	хуже всех	最も悪し
		хуже всего	最も悪く

Отец *добрее всех* в семействе.

父は家族中に於て最も善良である。

Из металлов *дороже всех* золото.

金屬中にて金は最も高價である。

Здоровье *дороже всего*. 健康は最も貴い。

Это *хуже всего*. 是れは最も悪い。

【注意】 比較級及最大級は其作製に不規則なものが多い。其主なるものを擧ぐれば次の通りである

原級		比較級	最大級
близкий	近き	ближе	ближайший
большой	大なる	больше, более	величайший
великий	偉大なる	больший	
высокий	高き	выше, выше	высочайший
глубокий	深き	глубже	глубочайший
далёкий	遠き	дальше	дальнейший
дальный	同		

дешёвый	廉價なる	дешёвее	
долгий	久しき	дольше, долее	должайший
короткий	短かき	короче	кратчайший
молодой	若き	молже	
низкий	低き	ниже, низший	нижайший
поздний	遅き	позже, позднее	позднейший
ранний	早き	раньше, ранее	
редкий	稀なる	реже	редчайший
сладкий	甘き	слаще	сладчайший
узкий	狭き	уже	
хороший	良き	лучше лучший	

## 2. 練習

дѣтство	幼年時代	счастливый	幸福なる	пора	時刻
жизнь	生命、生活	слон	象	великий	大なり
река	川	жаркий	暑き	также	又矢張り又
долгий	久しき	июнь	六月	короткий	短かき
декабрь	十二月	бамбук	竹	тонкий	細き
сосна	松	чем	スレダケ	нравиться	気に入る
тем	ツレダケ	широкий	廣き	глубокий	深き
европейский	歐羅巴の	опыт	經驗	государство	國家
Китай	支那	Япония	日本	красивый	美しき
стараться	努力する	русский	露西亞人	народ	國民、民族
древний	古き、昔の	высокий	高き		

Дѣтство самая счастливая пора в жизни человека. Слон—умнейшее животное. Богатейшие люди не всегда счастливейшие. Волга величайшая из русских рек. Самые жаркие дни, а также и самые долгие дни—в июне. Бамбук несравненно тоньше сосны, но гораздо крепче, чем она. Опыт наилучший учитель. Чем больше, тем лучше. Чем больше я стараюсь, тем хуже я делаю. Что вам больше нравится: книга или картина. Самая широкая река в Европейской России—Волга.

【譯】 幼年期は人生の最も幸福なる時期である。象は最も聰明なる動物である。最も富める人達が必ずしも(не всегда)最も幸福なる人ではない。ウールガ河は露國の河の内で最も大きい河である。最も暑き日と又最も長き日は六月にある。竹は松よりも遙かに細い、併し松よりは遙かに丈夫である。經驗は最も善き教師である。多ければ多い丈、それ丈善い。私はより多く努力すればする丈、それ丈より悪くなる。何が貴君にはより多く気に入りますか、本ですか、繪ですか、歐羅巴露西亞に於て最も廣い河はウールガである。

## — 3 —

## 1. 時に関する副詞

Когда? 「何時」

Когда? は時に関する疑問副詞で「何時」と譯する。此の問に應ずる語は時に関する副詞及び前置詞と共にする名詞である。副詞は變化しない。

сегодня	вчера	завтра	послезавтра
今日	昨日	明日	明後日
утром	вечером	днём	ночью
朝に	晩に	日中に	夜に

утром 以下の副詞は名詞の造格が其儘副詞に使用された例である、此の例に従つて時に關する名詞は多く副詞となる。例

主格 утро (朝) вечер (晩) день (晝) ночь (夜)  
造格 утром вечером днём ночью (副詞)

1

フセラフー ブーロ ホーロフノ フセラフー  
Вчера было холодно, а сегодня тепло.

ザーフトラ バユーヂュム ナ バザール  
Завтра мы поедем на базар.

Послезавтра мой отец поедет в город.

Завтра, завтра не сегодня так лентяи говорят.

Завтра поучусь, а сегодня погуляю, говорит лентяй.

Сегодня поучусь, а завтра погуляю, говорит прилежный.

Днём люди работают, а ночью отдыхают.

Утром завтракают, днём обедают, вечером ужинают.

譯文

昨日は寒かつたが、今日は暖かである。  
私共は明日市場に出掛けるであらう。  
私の父は明後日町へ出掛けるであらう。  
明日、明日は今日ではないと怠け者等は其様に云ふ。  
明日學ぼう、然し今日は遊ぼうと怠け者は云ふ。  
今日學ぼう、然し明日は遊ぼうと勤勉家は云ふ。  
人々は晝間働いて居る、然し夜分休息して居る。  
朝に朝食を食べ、晝に晝食し、晩に夕食する。

2

весною	лѣтом	осенью	зимой (副詞)
春に	夏に	秋に	冬に

весною, лѣтом, осенью, зимой 等も同じく名詞の весна, лето, осень, зима 等、造格が其儘副詞となつたものである。

Лѣтом бывает жарко, а зимой холодно.

Зимой реки замерзают.

Снег идёт зимой.

Дождь идёт весною, летом и осенью.

Снег тает весною.

Заяц зимой бывает белый, а летом серый.

譯文

夏は暑くある、然し冬は寒い。  
冬には河が凍つて居る。



スポーツ  
В субботу. 土曜日に  
ダ ウスクリュシエニセ  
В воскресенье 日曜日に

когда (何時) の間に應じて час (時), неделя (週), месяц (月), год (年) 等が前置詞 В と共に目的格に立つ時は事件の起つた時期を示すものである。

ダ ウスクリュシエニセ ムイ フイダニム フ ヌールクダ  
В воскресенье мы бываем в церкви.

我等は日曜日に會堂に行く(参拜す)。

ク パニチュエリニク ダ フトルニク フ スムード フ ツウエールク  
В понедельник, во вторник, в среду, в четверг,  
フ ピーツニツ, イ フ スポーツ, ムイ ウーテムシ  
В пятницу и в субботу мы учимся

月曜日に、火曜日に、水曜日に、木曜日に、金曜日に及土曜日に我等は學びます。

## 2. 性質副詞

性質副詞は多く性質形容詞より生ずる。その作り方は極めて簡単で、形容詞の語尾 ый, ий 又は ой を除去して、その代りに о を附すればよい。例へば、

形容詞	副詞
ブラホーイ ПЛОХОЙ (悪き)	ブローホ ПЛОХО (悪く)
マードツレンヌイ МЕДЛЕННЫЙ (徐かなる)	マードツレンノ МЕДЛЕННО (徐々と)
ハローシイ ХОРОШИЙ (善き)	ハラシ ХОРОШО (善く)
フイーストツルイ БЫСТРЫЙ (迅速なる)	フイーストツロ БЫСТРО (迅速に)
ムノーギイ МНОГИЙ (多くの)	ムノーイ МНОГО (多く)
マールイ МАЛЫЙ (少き)	マール МАЛО (少く)

## 第十四講

### — 1 —

### 前置詞

或前置詞に就いては今まで所々に於て説いておいたが、極めて重要な品詞であるから、重複を厭はず茲に一纏めに述べることにする。

前置詞は主格を除く他の諸格の前に立ち、直接には事物の場所・方向・位置・状態等を示し、轉用の意味に於ては時間・形状・數量・目的・原因等の關係を示す品詞である。變化はしない。

前置詞には種々あるが、それぞれの前置詞は其關係する語に對して必ず一定の格を要求する。或る前置詞は一個の格を要求し、或る前置詞は二個乃至三個の格を要求する。無論それぞれの場合に於て意味は違ふ。今次に既に述べたもの以外の最も多く使用される前置詞に就いて其の大意を述べよう。

#### I. 所有格を要求する前置詞

Без Для До Из От У

##### 1. Без 「…なくして」「…なしに」

Он живёт без отца и матери.

彼は父及び母なくして暮して居る。

Я проехал по этой дороге без всякого труда.

私は何等の苦勞もなく此の道を乗り過ぎた。

Теперь три часа без пяти минут.

今は三時五分前です。(五分なしの三時)

##### 2 Для 「…の爲に」「…に取りては」「…に對しては」

Это я делал для него. 私は是れを彼の爲にした。

Для меня это всё равно. 是れは私に取つてはどうでもよい。

Она купила дюжину стаканов для чая.

彼女はお茶のため(茶用)のコップを一打買った。

Этот урок для нас труден. 此の日課は私達にとつては困難だ。

Горы в Японии мало пригодны для земледелия.

日本の山は農業には少なく適する(餘り役に立たぬ)。

### 3. До 「…迄」「…以前」「…に対して」

Он был у нас с пяти часов до семи.

彼は我々の許に五時から七時迄居た。

Он возвратился домой до нового года.

彼は新年以前に歸宅した(お正月までに)。

У меня до вас одна просьба.

私は貴君に対して一つの願がある。

### 4. Из 「…より」「…から」

Он приехал из Владивостока. 彼は浦鹽斯德から來た。

Он взял книгу из шкафа. 彼は本を戸棚から取つた。

Она вышла из комнаты. 彼女は部屋から出た。

Цепочка из золота. 金製の鎖(金鎖)。

Часы делаются из серебра. 時計は銀で作られる。

Год состоит из 12-ти месяцев. 一年は十二ヶ月から成り立つ。

Один из нас. 我等の中の一人。

Некоторый из учеников 生徒中の或者。

### 5. От 「…から」「…に因つて」

Он живёт близко от нас. 彼は我々の近くに住んでゐる。

Она плачет от радости. 彼女は喜悅に因つて泣いてゐる。  
(喜びの餘り泣いてゐる)。

От этих неприятностей он заболел.

此等の不愉快な事に因つて彼は病氣になつた。

### 6. У 「…の許に」「…の傍に」(第五講第四課参照)

## II. 與格を要求する前置詞

### К

К 「…に向つて」「…に対して」

Идти к брату. 兄弟のところへ行く。

Бежать к реке. 川の方へ走る。

Нести что-нибудь к сестре. 何かを姉妹のところへ持行く。

Заходите к нам. 私共へ御寄り下さい。

У меня одна просьба к вам. 私共は貴君に対して一つの願がある。

## III. 目的格を要求する前置詞

### Про Через

#### 1. Про 「…のこと」

俗語に於て屢々前置詞 о (…に就いて)の代りに使用さる。

Часто ли они говорили про меня (об мне).

彼等は私のことを度々話したか。

Дед рассказывал детям про лису.

爺さんが子供等に狐のことを話した。

#### 2. Через (чрез) 「…を越へて」「經て」「經由して」「隔てゝ」「後に」

Переехать через реку. 河を渡る

Через час, через неделю.

一時間を経て、一週間を経て(一週間後に)。

Он отправился в Лондон через Америку

彼はアメリカを經由して倫敦へ出發した。

В училище вечерние занятия бывают через день.  
 学校では夜學が隔日(一日おき)にある。

## IV. 造格を要求する前置詞

## Перед Над

1. Перед (перед) 「…の前に」「…に対して」

Девочка стоит перед зеркалом.  
 少女が鏡の前に立つてゐる。

Он отправится перед рождеством.  
 彼は降誕祭前に出掛ける。

2. Над (над) 「…の眞上に」「…の上を」

Лампа висит над столом. ランプが机の上に懸つてゐる。

Скала возвышалась над водой. 岩が水の上に聳へた。

На дереве летают птицы. 木の上を鳥が飛んでゐる。

Наша армия одержит победу над врагом.  
 我軍は敵の上に勝利を占める。

## V. 前置格を要求する前置詞

## При

При 「…の傍に」「…の居合す際」「…の際」「…の時代」

Ленинград лежит при устье реки Невы.  
 レニングラードはネワ河の河口に在る。

Он служит переводчиком при консульстве.  
 彼は領事館附通譯官として勤めて居る。

Он сказал это при мне. 彼は是れを私の居る際に言ふた。

При взятии крепости было убито много солдат.  
 要塞占領の際多くの兵が殺された。

Ленинград был основан при Петре Великом.  
 レニングラードは彼得大帝時代に建てられた。

## VI. 目的格及造格の二格を要求する前置詞

## За Под

## 1. За

а) 目的格支配の際 「…の後方へ」(方向) 「幾時日間に」「…の爲に」  
 Солнце скрылось за тучи. 太陽は雲の蔭へ隠れた。

Он уехал за границу. 彼は外國(國境の外へ)へ行つた。

Я приготовил урок за два часа. 私は日課を二時間で備へた。

За этот год он много вырос.  
 此の一年間に彼は非常に生長した。

Сколько вы заплатили за этот карандаш?  
 貴君は此の鉛筆に幾何拂つたか。

За карандаш я заплатил 15 сен.  
 鉛筆に私は十五錢拂つた。

б) 造格支配の際 「…の後方に於て」(静止) 「爲に」「呼びに」「取りに」  
 「買ひに」「…に續いて」「…次いで」

Он ещё за границею. 彼は未だ外國に居る。(國境外に)

Он живёт за городом. 彼は市外に住んでゐる。

Она сидит за мною. 彼女は私の後ろに坐つて居る。

За темнотою ночи мы ничего не видели.  
 夜の暗闇の爲めに我等は何も見なかつた。

За шумом ветра мы ничего не могли слышать.  
 風の騒しさの爲めに(騒しいので)我等は何も聞き分けることが出来なかつた。

Мальчик пришёл за книгою. 少年は本を取りに來た。

Пойдите скорее за доктором.  
 早く醫者を呼びに遣つて下さい。

Она отправилась в лавку за покупками.  
 彼女は店へ買物に往つた。

За мною едет мальчик. 私の後から少年が來る。

## 2. Под

a) 目的格支配の際「下へ」(方向)「頃」「近く」

Она положила письмо под книгу.

彼女は手紙を本の下へ置いた。

Идти под гору.

山の麓へ行く、

Подойти под окно.

窓の下へ近寄る。

Под утро, под вечер

明けがた、暮がた。

Под осень, под лето.

秋頃、夏頃。

Он возвратился лишь под вечер.

彼はやつと晩方に歸つた。

б) 造格支配の際「…の下に」(静止状態)

Письмо лежит под книгой.

手紙は本の下にある。

Он стоит под окном.

彼は窓の下に立つて居る。

Наша деревня находится под горью.

我々の村は山麓にある。

Мы живём под охраною закона

我等は法律の保護の下に暮す。

## VII. 目的格及び前置格を要求する前置詞

## В На

前置詞 **в** に就いては第七講三課を参照せられたい。

茲に **на** だけに就いて説いておく。

a) 目的格支配の際「…の上へ」「…へ」(方向)「…だけ」

Положить книгу на стол.

本を机の上へ置く。

Мальчик взлез на дерево.

少年が木の上へ攀登つた。

Идти на собрание, на базар.

集會へ行く、市場へ行く。

Переводите это письмо на русский язык.

此手紙を露語に譯して下さい。

Мальчик купил себе на пять копеек бумаги.

少年は五錢だけ紙を買つた。

На лето я думаю уехать на дачу.

夏の間だけ私は別荘へ行かうと思

На несколько дней я поеду в Осака.

數日間私は大阪へ行きます。

б) 前置格支配の際「…の上に」「…に」(静止状態)

Гости сидят на диване.

客(複数)は長椅子に坐つて居る。

Книги лежат на столе.

本は机の上にある

Она играет на рояле.

彼女はピアノを彈奏して居る。

Он теперь на войне.

彼は目下戦争に出て居る。

## VIII. 所有格、目的格及び造格を要求する前置詞

## с

a) 所有格支配の際「…より」「…から」

Я был болен с 3-го по 18-ое.

私は三日から十八日まで病氣であつた。

С трёх часов до пяти он не был дома.

彼は三時から五時まで宅に居なかつた。

Ученики уже прибежали с уроков.

生徒は最早學課から歸つた。

Он уже пришёл с работы.

彼は最早仕事から歸つた。

Она ещё не приехала с концерта.

彼女は未だ音樂會から歸らなかつた。

б) 目的格支配の際「…程」

Он ростом с отца.

彼は身長が父程ある。

Твоя сестра ростом с меня.

君の妹は身長が私程ある。

в) 造格支配の際「…と」「…と共に」「…を持つた」「…を入れた」

Мальчик гуляет с собакой.

少年が犬と遊んでゐる。



Отец пришёл с братом. 父が兄弟と一緒に来た。  
 Мы пьём чай с лимоном. 我々はレモン入りの茶を飲む。  
 Мальчик смотрит книгу с картиною. 少年が繪入りの本を見てゐる。

## IX. 與格、目的格、前置格を要求する前置詞

## По

а) 與格支配の際「…の上を」「…に沿ふて」「…に依りては」「…に依れば」「…風に」「…毎に」「…づゝ」「…に因りて」

Гулять по улице. 街路を散歩する。  
 Зимю мы часто катались по льду. 冬に我等は屢々氷の上を滑つた。  
 Он долго путешествовал по России. 彼は久しく露國を旅行した。  
 Он первый у нас по успехам. 彼は我等の許で成績では一番である。  
 Он старший по летам. 彼は年齢では古参である。  
 Все сделано по вашему желанию. 凡て貴君の希望通りに行はれた。  
 Хотя ещё лето, а они оделись по зимнему. 未だ夏であるが彼等は冬(風の)支度であつた。  
 Они живут в деревне по-городскому. 彼等は村で町風に住んで居る。  
 Он приходит ко мне по воскресеньям. 彼は私の許へ日曜毎に来る。  
 По сколько он получает в месяц? 彼は一ヶ月に何程づゝ貰つて居るか。  
 Он получает по 250 рублей, за квартиру платит по 20-ти и прислуге по 10-ти рублей. 彼は250留宛貰つて居る、そして家賃を20留宛、女中に10留宛拂つて居る。

Он не был на собрании по болезни. 彼は病氣に因つて會へ來なかつた。

5) 目的格支配の際「…まで」

Он стоял в воде по колёно. 彼は膝まで水中に立つて居た。  
 Я пробыл в Харбинё с второго марта по 25-е апреля. 私はハルビンに三月二日から四月二十五日まで逗留した。

в) 前置格支配の際「…の後」

По приезде в Токио я сейчас схожy к вашему отцу. 私は東京へ着して後直ぐ御尊父の許へ参ります。  
 По смерти отца он много изменился. 父の死後彼は大變變つた。  
 По окончании своей работы он пошёл гулять. 自分の仕事を終へて後彼は散歩に行つた。

## — 2 —

## 副詞、接續詞、間投詞

## I. 副詞

副詞及び接續詞の或ものに就いては前講にも述べたが、こゝに一括して説くことにする。

副詞は性質、個數、動作、狀況等を表す品詞で、普通動詞に添へて用ひらるゝ。其種類は大略次の通りである。(副詞は變化しない)

## 1. 性質副詞

а) так 其様に даром たゞで по-японски 日本語で  
 иначе 然らざれば вопреки 反して по-русски 露語で  
 вместе 共に(一緒に) кстати 序に верхом 乗馬で  
 нечаянно 思はず в-щутку 戯れに пешком 徒歩で  
 нарочно 故意に вкрасце 簡短に и.т.д.(и так далее) 及び 其他

6) 以上の外性 形容詞の断尾單數の中性。(174頁性質副詞の項参照)

## 2. 時の副詞

утром	朝に	теперь	今	давно	疾うに、久しく (以前)
вечером	晩に	после	後に	недавно	近頃
днём	晝間	сейчас	只今	некогда	或時
ночью	夜分	прежде	以前	весной	春に
сегодня	今日	рано	早く	летом	夏に
завтра	明日	поздно	遅く	осенью	秋に
вчера	昨日	потом	それから	зимой	冬に
послезавтра	明後日	всегда	常に	уже	既に
третьего дня	昨日	иногда	時々	ещё	未だ

## 3. 場所の副詞

здесь	此處に	позади	後方に	вправо	右へ
там	彼處に	среди	中に	домой	家へ
тут	此處に	сюда	此方へ	прямо	眞直ぐに
везде	到る處に	туда	其所へ	оттуда	其所から
повсюду	到る處に	вперёд	前へ	отсюда	こゝから
дома	家に	назад	後へ	отовсюду	諸方から
впереди	前方に	влево	左へ	сзади	後ろから

## 4. 數詞的副詞

довольно	充分	много	多く	мало	少く
несколько	若干	редко	稀に	дважды	二度
несколько	少しも	раз	一度	неоднократно	一度ならず
часто	屢々	однажды	一度、曾て	множественно	度々

## 5. 疑問副詞

ли	乎	как	如何に	почему	何故に
неужели	乎(驚き訝り て問ふ)	где	何處に	зачем	何の爲に

разве	乎(疑つて問ふ)	когда	何時	отчего	何に因つて
куда	何處へ	откуда	何處から		

## 6. 確定副詞 後想副詞

да	然り(左様)	действительно	實際に
может быть	或は、多分、 ひよつとしたら	конечно	勿論
в самом деле	實に、事實	едва-ли	よもや(殆んど…ない)
правда	全く(勿論)	точно так	誠に然り
вряд-ли	とても…しまい	разумеется	當然、勿論
по крайней мере	少くとも		

## II. 接續詞

接續詞は語と語、句と句の接續に用ゆる品詞で一切變化しない。

今其大略を示せば次の通りである。

## 1. 結合的

и 及び、そして также 矢張りまた к тому же 之に加ふるに  
 да 然り、そして кроме того 其外 при том そして又、加ふるに  
 тоже 同様に сверху того 其上 не только, но и  
音に…のみならず、併し

## 2. 説明的

т.е.(то есть) 即ち как напр.(напримёр) 例へば…の如き  
 словно 言はゞ、恰も именно 即ち во первых 第一に  
 будто さも…の如く а именно 即ち… во вторых 第二に  
 будто 恰かも…の如く напр.(напримёр) 例へば  
 как …の如く как будто さも…の如く

## 3. 反對的

хотя だが(然し) всё же 兎に角 но 然れども(然し)  
 хотя たとへ…ではあるが же 然し однако 併しながら

## 4. 分離的

ИЛИ 或は ИЛИ...ИЛИ 或は...或は...  
 И...И ...も...も(肯定) ЛИ ... ИЛИ ...乎、或は...  
 НИ...НИ ...も...も(否定)

## 5. 順序的

внача́ле 最初に ПОТО́М それから ДА́лее 次に  
 снача́ла 始めは ЗАТЕ́М 次に、其後 НАКОНЕ́Ц 終に

## III. 問投詞 (感歎詞)

問投詞は變化しない品詞で、感情の種々なる状態を表す。

其種類大略次の通り。

- |        |             |               |
|--------|-------------|---------------|
| 1. 呼稱  | эй!         | おい!           |
| 2. 承認  | да! да-да!  | 左様            |
| 3. 驚嘆  | ой! ой, ой! | おやおや          |
| 4. 督促  | ну! нука!   | さあ、さて         |
| 5. 指示  | вот! вон!   | ほら此所にある、其處にある |
| 6. 威嚇  | смотри!     | 氣を附けろ!        |
| 7. 制止  | цс! чи-и!   | シー!           |
| 8. 喜悦  | ура!        | 萬歳            |
| 9. 悲哀  | ах! увь!    | あゝ            |
| 10. 疲勞 | ух! уф!     | オフ!           |
| 11. 不滿 | тьфу!       | チュツ!          |
| 12. 稱譽 | браво!      | エライ、フマイ       |

## 附 録

## 會 話 資 料

— 1 —

## Визит 訪 問

- グラーフストウグーイチュ  
Здравствуйте! 今日は。
- ドーフロイユ ウーウロ  
Доброе утро! お早う。
- トーフロイ ヴューフェル  
Добрый вечер! 今晩は。
- ヤクヴァーム ス ヴィゾートム  
Я к вам с визитом 私は御訪問に出たのです。
- カーク ヴィ バチヴァーイチュ  
Как вы поживаете? 如何お暮しなさいますか。
- カーク バチヴァーイチュ ヴァーシ ベーチュシ  
Как поживает ваш батюшка? 御尊父は如何お暮しですか。
- カ ヴァーシヤ マートツシカ ヴァーシヤ  
ка? ваша матушка, ваша 御尊母は、御姉妹は、御兄弟は。
- シムストフー ヴァーシ フラウ  
зестра, ваш брат.
- ハーク ヴァーシヤ ストロウヴィユ  
Как ваше здоровье? 御健康は如何ですか。
- ブラガダリユー ヴァース スバシーホ  
Благодарю вас! Спасибо! 有難う御座います、有難う。

アツリーチノ

Отличн

至極壯健です。

サチーチュシ

ブラシュー サチーチシヤ

Садитесь. Прошу садичься.

お掛け下さい。

ニエ

ベスバコーイチエシ

Не безпокойтесь.

お構ひ下さるな。

モーチュツ

フイーチ ヤ ヴァー&amp; メシヤーユ

Может быть, я вам мешаю. 若しかお邪魔ではありませんか。

ニエーツ

ニチュリヤ

Нет, ничеб!

否、何でもありません。

チュウキ

イスウキリチエ

Чегб извольте?

何か御用ですか。

チト

ウァー&amp; ウゴーツノ

Что вам угбдно?

同

ダ

ヤ ポ アドノムー チェル

Да, я по одному делу.

左様、一寸用事がありまして、

バチアルスタ

ベ&amp; ツェリモニー

Пожалуйста, без церембнии. 何卒御速慮なく。

ニエウゴーツノ

リ ヴァー&amp; チヤーシク チヤーユ

Неугбдно ли вам чашку чаю? お茶一つ如何ですか。

スパシーボ

ヤ トーリコ ナ ミヌーツク

Спасибо, я только на минутку. 有難う、私は一寸参つたので。

アツナーユ

ヤ オーチュン ザシチュールシヤ

Однако, я бчень засиделся, これは大層長坐を致しました。

バラ

ダモイ

пора домой

もう歸宅せねばなりますん。

ブラシチヤーイチエ

ド スヴィダーニヤ

Прощайте! До свидания!

左様なら。又お目に懸ります。

ド

ザーフトツラ

До завтра!

また明日。

フセウキ

ハローシエウキ

Всегб хорбшего.

御機嫌宜う。

2

カカウァー シュウキウニヤ バコーダ

Каковá сегобдня погбда?

今日の天気はどんなです

ハローシヤ バコーダ

Хорбшая погбда,

好い天気です。

フダーヤ バコーダ

Худая погбда.

悪い天氣です。

シエーラヤ バコーダ. パース&amp;ルナヤ

Сёрая погбда. Пасмурная.

曇天です。同

フーチュツ フーシチ

Будет дождь.

雨が降るでせう。

イチョーツ フーシチ

Идёт дождь.

雨が降つて居ます。

フーチュツ スニエーク

Будет снег.

雪が降るでせう。

イチョーツ スニエーク

Идёт снег.

雪が降つて居ます。

スウエーテイワ ルナー

Свётит луна.

月が輝いて居ます。

ヴェーツリョノ フイーリノ

Вётренно. Пыльно.

風勝です。埃勝です。

スイーロ ヴラードフ イチョーツ

Сыро. Град идёт.

濕氣勝です。霰が降つて居ます。

マロージツ トゥーマンノ

Морбзит. Тунанно.

凍えます。霧があります。

チュプロー ホーロツノ

Тепло. Холодно.

暖いです。寒いです。

フーシノ チェールコ

Душно. Жарко.

息苦しい。暑いです。

モールニヤ スウエルカーイユツ

Мблния сверкаёт.

電光が閃いてゐます。